

経済学部 経営情報学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	5
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	6
		2年			
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	7
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	8
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	9	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	10	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	11	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	12	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	13
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	20
		1年			
	自己管理論 河津 慶太	2学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 真鍋 和博	1学期	1	2	22
		1年			
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	23	
	1年				
コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	24	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	25	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	26	
	1年				
社会調査 叶堂 隆三	2学期	1	2	27	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	28
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	29
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	30
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	31
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	32
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	33
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	34
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	35
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	36
	黒田 次郎	1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	37	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	38	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	39	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	41	
磯貝 浩久	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	42
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	43
		1年			
	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	44
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	45
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	46
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I 廣川 祐司	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	50
		1年			
教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	51	
	1年				
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	52	
	1年				
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	53	
	1年				
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	54	
	1年				
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	55	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	56	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	57
		1年			
	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	58
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	59
		1年			
	教養基礎演習II 廣川 祐司	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	63
		1年			
	教養演習AI 徳永 政夫 他	1学期	2	2	64
		2年			
	教養演習AI 伊野 憲治 他	1学期	2	2	65
		2年			
	教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	66
		2年			
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	67	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	68	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	69	
	2年				
教養演習AI 稲月 正	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AI 伊原木 大祐	1学期	2	2	71	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII	2学期	2	2	72
	伊野 憲治 他	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	73
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	74
	日高 京子	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	75
	小林 道彦	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	76
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習AII (防衛セミナー)	1学期	2	2	77
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	78
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習AII	2学期	2	2	79
	二宮 正人	2年			
	教養演習BI	1学期	3	2	80
	伊野 憲治 他	3年			
教養演習BI	1学期	3	2	81	
徳永 政夫 他	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	82	
日高 京子	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	83	
小林 道彦	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	84	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BI (防衛セミナー)	1学期	3	2	85	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	86	
稲月 正	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	87
	3年				
	教養演習BⅡ 徳永 政夫 他	2学期	3	2	88
	3年				
	教養演習BⅡ 伊野 憲治 他	2学期	3	2	89
	3年				
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	90
	3年				
	教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	91
	3年				
	教養演習BⅡ 神原 ゆうこ	2学期	3	2	92
	3年				
	教養演習BⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	93
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	94	
3年					
教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	95	
3年					
プロジェクト演習Ⅰ 見館 好隆	2学期	2	2	96	
2年					
プロジェクト演習Ⅱ 見館 好隆	1学期	3	2	97	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	98
	1年				
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	99
	1年				
地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	100	
1年					
自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	101	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	102
		1年			
	現代人のこころ 松尾 太加志 他	1学期	1	2	103
		1年			
	現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	104
		1年			
	数のたのしみ 閉講	集中	1	2	
		1年			
	私たちと宗教 関 一敏	2学期	1	2	105
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	106
		1年			
	ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	107
		1年			
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	108
		1年			
	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	109
		1年			
文学を読む 岩本 真理子 他	2学期	1	2	110	
	1年				
戦争と人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	111	
	1年				
民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	112	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	113	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2	114
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	115
		1年			
	共生の作法 二宮 正人 他	1学期	1	2	116
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	117
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	118
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	119
		1年			
	つながりの人間学 坂本 毅啓	1学期	1	2	120
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	121
		1年			
	現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	122
	1年				
現代の国際情勢 下野 寿子 他	1学期	1	2	123	
	1年				
国際社会論 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	124	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	125	
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	126	
	1年				
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	127	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	128
		1年			
	国際社会と日本 金 鳳珍	2学期	1	2	129
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	130
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	131
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	132
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	133
		1年			
	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 中野 博文 他	1学期	1	2	134
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	135
		1年			
	教養特講I 休講	2学期	1	2	
		1年			
教養特講II (ホスピタリティ論) 西澤 健次 他	2学期	1	2	136	
	1年				
教養特講III 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講IV 休講	2学期	1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	137
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	138
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	139
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	140
		1年			
	人文地理学 外戸保 大介	2学期	1	2	141
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	142
		1年			
地誌学 外戸保 大介	1学期	1	2	143	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	144	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	145	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	146
		1年			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	147
		営 1 - 3			
	データ処理 佐藤 貴之	1学期	1	2	148
		営 1 - 1			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	149
		営 1 - 2			
	データ処理 浅羽 修丈	2学期		2	150
		再履			
情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	151	
	2年				
情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	152	
	2年				
情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	153	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	154
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (営 1 - A) 木梨 安子	1学期	1	1	155
		営 1 - A			
	英語I (営 1 - B) 船方 浩子	1学期	1	1	156
		営 1 - B			
	英語I (営 1 - C) 下條 かおり	1学期	1	1	157
		営 1 - C			
	英語I (営 1 - D) 安丸 雅子	1学期	1	1	158
		営 1 - D			
	英語I (営 1 - E) 渡邊 晶子	1学期	1	1	159
		営 1 - E			
	英語II (営 1 - A) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	160
		営 1 - A			
	英語II (営 1 - B) 船方 浩子	2学期	1	1	161
		営 1 - B			
	英語II (営 1 - C) 下條 かおり	2学期	1	1	162
		営 1 - C			
	英語II (営 1 - D) 安丸 雅子	2学期	1	1	163
		営 1 - D			
	英語II (営 1 - E) 木梨 安子	2学期	1	1	164
		営 1 - E			
英語III (営 1 - A) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	165	
	営 1 - A				
英語III (営 1 - B) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	166	
	営 1 - B				
英語III (営 1 - C) ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	167	
	営 1 - C				
英語III (営 1 - D) ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	168	
	営 1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (営 1 - E) 安丸 雅子	1学期	1	1	169
	営 1 - E				
	英語IV (営 1 - A) ロバート・マーフィ	2学期	1	1	170
	営 1 - A				
	英語IV (営 1 - B) デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	171
	営 1 - B				
	英語IV (営 1 - C) ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	172
	営 1 - C				
	英語IV (営 1 - D) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	173
	営 1 - D				
	英語IV (営 1 - E) デビッド・ニール・マクレラン	2学期	1	1	174
	営 1 - E				
	英語V (営 2 - A) 永末 康介	1学期	2	1	175
	営 2 - A				
	英語V (営 2 - B) 葛西 宏信	1学期	2	1	176
	営 2 - B				
	英語V (営 2 - C) 村田 希巳子	1学期	2	1	177
	営 2 - C				
英語V (営 2 - D) 渡邊 嘉則	1学期	2	1	178	
営 2 - D					
英語V (営 2 - E) 吉田 禎子	1学期	2	1	179	
営 2 - E					
英語VI (営 2 - A) ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	180	
営 2 - A					
英語VI (営 2 - B) 永末 康介	2学期	2	1	181	
営 2 - B					
英語VI (営 2 - C) 葛西 宏信	2学期	2	1	182	
営 2 - C					
英語VI (営 2 - D) 渡邊 嘉則	2学期	2	1	183	
営 2 - D					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI (営 2 - E) 吉田 禎子	2学期	2	1	184
	営 2 - E				
	英語VII (営 2 - A) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	185
	営 2 - A				
	英語VII (営 2 - B) マーニー・セイティ	1学期	2	1	186
	営 2 - B				
	英語VII (営 2 - C) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	187
	営 2 - C				
	英語VII (営 2 - D) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	188
	営 2 - D				
	英語VII (営 2 - E) 十時 康	1学期	2	1	189
	営 2 - E				
	英語VIII (営 2 - A) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	190
	営 2 - A				
	英語VIII (営 2 - B) ジャマール・ミラー	2学期	2	1	191
	営 2 - B				
英語VIII (営 2 - C) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	192	
営 2 - C					
英語VIII (営 2 - D) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	193	
営 2 - D					
英語VIII (営 2 - E) マーニー・セイティ	2学期	2	1	194	
営 2 - E					
英語IX (済営律政 3 年) 伊藤 晃	1学期	3	1	195	
済営律政 3 年					
英語X (済営律政 3 年) 杉山 智子	2学期	3	1	196	
済営律政 3 年					
英語XI (済営律政 3 年) ダニー・ミン	1学期	3	1	197	
済営律政 3 年					
英語XII (済営律政 3 年) ダニー・ミン	2学期	3	1	198	
済営律政 3 年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	199
		済営1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	200
		済営1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	201
		済営1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	202
		済営1年			
	中国語V 正野 留加	1学期	2	1	203
		済営人律政群2年			
	中国語VI 正野 留加	2学期	2	1	204
		済営人律政群2年			
	中国語VII 王 妮	1学期	2	1	205
		済営人律政群2年			
	中国語VIII 王 妮	2学期	2	1	206
		済営人律政群2年			
	上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	207
		英国済営比人3年			
	上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	208
		英国済営比人3年			
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	209	
	英国済営比人3年				
上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	210	
	英国済営比人3年				
朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	211	
	済営群1年				
朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	212	
	済営群1年				
朝鮮語III チャン ユンヒャン	1学期	1	1	213	
	済営群1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅳ チャン ユンヒャン	2学期	1	1	214
		済営群 1年			
	朝鮮語Ⅴ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	215
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅵ チャン ユンヒャン	2学期	2	1	216
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅶ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	217
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅷ チャン ユンヒャン	2学期	2	1	218
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	3	1	219
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	3	1	220
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅲ 金 貞愛	1学期	3	1	221
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語Ⅳ 金 貞愛	2学期	3	1	222
		英中国済営比人 3年			
ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	223	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	224	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅲ ナタリア・シエスタコーフ	1学期	1	1	225	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーフ	2学期	1	1	226	
	済営比人 1年				
ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	227	
	済営比人律政 2年				
ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	228	
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	229
		済営比人律政2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	230
		済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅰ 古賀 正之	1学期	1	1	231
		済営人1年			
	ドイツ語Ⅱ 古賀 正之	2学期	1	1	232
		済営人1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	233
		済営人1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	234
		済営人1年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	235
		済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	236
		済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	237
		済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	238
		済営比人律政2年			
フランス語Ⅰ 中川 裕二	1学期	1	1	239	
	済営人1年				
フランス語Ⅱ 中川 裕二	2学期	1	1	240	
	済営人1年				
フランス語Ⅲ 山下 広一	1学期	1	1	241	
	済営人1年				
フランス語Ⅳ 山下 広一	2学期	1	1	242	
	済営人1年				
フランス語Ⅴ 坂田 由紀	1学期	2	1	243	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	244
		済営比人律政2年			
	フランス語VII ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	245
		済営比人律政2年			
	フランス語VIII ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	246
		済営比人律政2年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	247
		済営1年			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	248
		済営1年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	249
		済営1年			
	スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	250
		済営1年			
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	251	
	済営比人律政2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	252	
	済営比人律政2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	253	
	済営比人律政2年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	254	
	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語A 清水 順子 木曜2限(月曜2限とペア)	1学期(ペア)	1	2	255
		留学生1年			
	日本語A 清水 順子 木曜3限(月曜3限とペア)	1学期(ペア)	1	2	256
		留学生1年			
	日本語A 中山 亜紀子 月曜2限(木曜2限とペア)	1学期(ペア)	1	2	257
		留学生1年			
	日本語A 中山 亜紀子 月曜3限(木曜3限とペア)	1学期(ペア)	1	2	258
		留学生1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 B 清水 順子 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	259
	留学生 1 年				
	日本語 B 清水 順子 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	260
	留学生 1 年				
	日本語 B 小林 浩明 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	261
	留学生 1 年				
	日本語 B 小林 浩明 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	262
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 木曜 3 限 (月曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	263
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 木曜 2 限 (月曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	264
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 月曜 3 限 (木曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	265
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 月曜 2 限 (木曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	266
	留学生 1 年				
	日本語 D 清水 順子 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	267
	留学生 1 年				
	日本語 D 清水 順子 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	268
	留学生 1 年				
日本語 D 小林 浩明 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	269	
留学生 1 年					
日本語 D 小林 浩明 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	270	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) A 清水 順子	1 学期	1	2	271	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) B 家根橋 伸子	2 学期	1	2	272	
留学生 1 年					
日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1 学期	1	2	273	
留学生 1 年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(社会)B	2学期	1	2	274
	山崎 勇治	留学生1年			
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習	1学期	1	2	275
	西澤 健次	1年			
	入門演習	1学期	1	2	276
	松本 守	1年			
	入門演習	1学期	1	2	277
	齋藤 朗宏	1年			
	入門演習	1学期	1	2	278
	隈本 覚	1年			
	入門演習	1学期	1	2	279
	梅澤 俊浩	1年			
	入門演習	1学期	1	2	280
	池田 欽一	1年			
	入門演習	1学期	1	2	281
	福井 直人	1年			
	入門演習	1学期	1	2	282
	吉田 祐治	1年			
	入門演習	1学期	1	2	283
	山下 剛	1年			
	基礎演習	1学期	2	2	284
	山下 剛	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	285
	松本 守	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	286
	浦野 恭平	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	287
	平山 克己	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	288
	池田 欽一	2年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	基礎演習	1学期	2	2	289
	福井 直人	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	290
	隈本 覚	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	291
	別府 俊行	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	292
	西澤 健次	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	293
	白石 和孝	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	294
	齋藤 朗宏	2年			
	演習I	1学期	3	2	295
	松本 守	3年			
	演習I	1学期	3	2	296
	池田 欽一	3年			
	演習I	1学期	3	2	297
	梅澤 俊浩	3年			
	演習I	1学期	3	2	298
	浦野 恭平	3年			
演習I	1学期	3	2	299	
隈本 覚	3年				
演習I	1学期	3	2	300	
齋藤 朗宏	3年				
演習I	1学期	3	2	301	
白石 和孝	3年				
演習I	1学期	3	2	302	
西澤 健次	3年				
演習I	1学期	3	2	303	
吉村 英俊	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	演習I 平山 克己	1学期	3	2	304
		3年			
	演習I 福井 直人	1学期	3	2	305
		3年			
	演習I 別府 俊行	1学期	3	2	306
		3年			
	演習I 山岡 敏秀	1学期	3	2	307
		3年			
	演習I 吉田 祐治	1学期	3	2	308
		3年			
	演習I 山下 剛	1学期	3	2	309
		3年			
	演習I 永津 美裕	1学期	3	2	310
		3年			
	演習I 鳥取部 真己	1学期	3	2	311
		3年			
	演習I 任 章	1学期	3	2	312
		3年			
演習II 松本 守	1学期	3	2	313	
	3年				
演習II 池田 欽一	2学期	3	2	314	
	3年				
演習II 梅澤 俊浩	2学期	3	2	315	
	3年				
演習II 浦野 恭平	2学期	3	2	316	
	3年				
演習II 隈本 覚	2学期	3	2	317	
	3年				
演習II 齋藤 朗宏	2学期	3	2	318	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	演習II 白石 和孝	2学期	3	2	319
		3年			
	演習II 西澤 健次	2学期	3	2	320
		3年			
	演習II 吉村 英俊	2学期	3	2	321
		3年			
	演習II 平山 克己	2学期	3	2	322
		3年			
	演習II 福井 直人	2学期	3	2	323
		3年			
	演習II 別府 俊行	2学期	3	2	324
		3年			
	演習II 山岡 敏秀	2学期	3	2	325
		3年			
	演習II 吉田 祐治	2学期	3	2	326
		3年			
演習II 山下 剛	2学期	3	2	327	
	3年				
演習II 永津 美裕	2学期	3	2	328	
	3年				
演習II 鳥取部 真己	2学期	3	2	329	
	3年				
演習II 任 章	2学期	3	2	330	
	3年				
経営学入門 福井 直人	1学期	1	2	331	
	1年Aグループ				
経営学入門 福井 直人	1学期	1	2	332	
	1年Bグループ				
プログラミングI 武藤 直彦	2学期	1	2	333	
	営1-1				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目	プログラミングI 武藤 直彦	2学期	1	2	334
		営 1 - 2			
	プログラミングI 武藤 直彦	2学期	1	2	335
		営 1 - 3			
	簿記論I 白石 和孝	1学期	1	2	336
		1年Aグループ			
	簿記論I 岡部 勝成	1学期	1	2	337
		1年Bグループ			
	簿記論II 白石 和孝	2学期	1	2	338
		1年Aグループ			
	簿記論II 岡部 勝成	2学期	1	2	339
		1年Bグループ			
	コンピュータシステム 武藤 直彦	1学期	1	2	340
		1年			
マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	341	
	1年Aグループ				
マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	342	
	1年Bグループ				
企業論基礎 山岡 敏秀	2学期	1	2	343	
	1年				
■選択科目A	演習III 池田 欽一	1学期	4	2	344
		4年			
	演習III 梅澤 俊浩	1学期	4	2	345
		4年			
	演習III 浦野 恭平	1学期	4	2	346
		4年			
演習III 隈本 覚	1学期	4	2	347	
	4年				
演習III 齋藤 朗宏	1学期	4	2	348	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	演習III 高橋 秀直	1学期	4	2	349
		4年			
	演習III 白石 和孝	1学期	4	2	350
		4年			
	演習III 西澤 健次	1学期	4	2	351
		4年			
	演習III 山下 剛	1学期	4	2	352
		4年			
	演習III 平山 克己	1学期	4	2	353
		4年			
	演習III 福井 直人	1学期	4	2	354
		4年			
	演習III 別府 俊行	1学期	4	2	355
		4年			
	演習III 吉田 祐治	1学期	4	2	356
		4年			
演習III 越出 均	1学期	4	2	357	
	4年				
演習III 松本 守	1学期	4	2	358	
	4年				
演習III 吉村 英俊	1学期	4	2	359	
	4年				
演習III 王 効平	1学期	4	2	360	
	4年				
演習IV 池田 欽一	2学期	4	2	361	
	4年				
演習IV 梅澤 俊浩	2学期	4	2	362	
	4年				
演習IV 浦野 恭平	2学期	4	2	363	
	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目A	演習IV	2学期	4	2	364
	隈本 覚	4年			
	演習IV	2学期	4	2	365
	齋藤 朗宏	4年			
	演習IV	2学期	4	2	366
	高橋 秀直	4年			
	演習IV	2学期	4	2	367
	白石 和孝	4年			
	演習IV	2学期	4	2	368
	西澤 健次	4年			
	演習IV	2学期	4	2	369
	山下 剛	4年			
	演習IV	2学期	4	2	370
	平山 克己	4年			
	演習IV	2学期	4	2	371
	福井 直人	4年			
	演習IV	2学期	4	2	372
	別府 俊行	4年			
演習IV	2学期	4	2	373	
吉田 祐治	4年				
演習IV	2学期	4	2	374	
越出 均	4年				
演習IV	2学期	4	2	375	
吉村 英俊	4年				
演習IV	1学期	4	2	376	
松本 守	4年				
演習IV	2学期	4	2	377	
王 効平	4年				
数学	1学期	1	2	378	
吉田 祐治	営1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	経営統計 吉田 祐治	2学期	1	2	379
		1年			
	経済学入門A 牛房 義明	1学期	1	2	380
		1年Aグループ			
	経済学入門A 藤井 敦	1学期	1	2	381
		1年Bグループ			
	経済学入門B 後藤 尚久	1学期	1	2	382
		1年Aグループ			
	経済学入門B 林田 実	1学期	1	2	383
		1年Bグループ			
	ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	384
		1年			
	マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	385
		1年			
	プログラミングII (新JAVA) 平山 克己	1学期	2	2	386
		2年			
	データ構造 隈本 覚	2学期	2	2	387
		2年			
	データ解析 齋藤 朗宏	2学期	2	2	388
	2年				
データベース 池田 欽一	1学期	2	2	389	
	2年				
経営戦略 浦野 恭平	2学期	2	2	390	
	2年				
経営組織論 山下 剛	1学期	2	2	391	
	2年				
企業ファイナンスI 松本 守	1学期	2	2	392	
	2年				
企業ファイナンスII 内田 交謹	2学期	2	2	393	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	マーケティングI 別府 俊行	1学期	2	2	394
	2年				
	マーケティングII 別府 俊行	2学期	2	2	395
	2年				
	人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	396
	2年				
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	397
	2年				
	財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	398
	2年				
	原価計算論I 梅澤 俊浩	1学期	2	2	399
	2年				
	原価計算論II 梅澤 俊浩	2学期	2	2	400
	2年				
	簿記論III 白石 和孝 他	2学期	2	2	401
	2年				
	工業簿記 大崎 美泉	集中	2	2	402
	2年				
ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	403	
2年					
マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	404	
2年					
システム設計I 平山 克己	1学期	3	2	405	
3年					
システム設計II 平山 克己	2学期	3	2	406	
3年					
情報ネットワーク 隈本 覚	1学期	3	2	407	
3年					
オペレーションズ・リサーチ 齋藤 朗宏	1学期	3	2	408	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	情報管理 池田 欽一	2学期	3	2	409
	3年				
	経営数学 吉田 祐治	2学期	3	2	410
	3年				
	証券市場論 山岡 敏秀	2学期	3	2	411
	3年				
	中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	412
	3年				
	経営学特殊講義A 高橋 秀直	2学期	3	2	413
	3年				
	経営学特殊講義B 吉村 英俊	1学期	3	2	414
	3年				
	生産マネジメントA 鳥取部 真己	1学期	3	2	415
	3年				
	生産マネジメントB 棚次 奎介	2学期	3	2	416
	3年				
	国際経営A 王 効平	1学期	3	2	417
	3年				
	国際経営B 王 効平	2学期	3	2	418
3年					
情報マネジメントA 越出 均	1学期	3	2	419	
3年					
情報マネジメントB 越出 均	2学期	3	2	420	
3年					
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	421	
3年					
地域企業分析 浦野 恭平 他	2学期	3	2	422	
3年					
国際会計論 白石 和孝	1学期	3	2	423	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	管理会計論 大崎 美泉	1学期	3	2	424
		3年			
	情報会計 梅澤 俊浩	1学期	3	2	425
		3年			
	会計監査論 任 章	1学期	3	2	426
		3年			
	経営分析 西澤 健次	1学期	3	2	427
		3年			
	税務会計 畠中 瞳	1学期	3	2	428
		3年			
	外書講読 白石 和孝	1学期	3	2	429
		3年			
	業界研究I 土山 勇 他	1学期	3	2	430
		3年			
	業界研究II 福井 直人	集中	3	2	431
		3年			
	ビジネス英語A (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	432
		3年選抜クラス			
ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	433	
	3年				
ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	434	
	3年				
ビジネス英語A 林 裕二	1学期	3	2	435	
	3年				
ビジネス英語B (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	436	
	3年選抜クラス				
ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	437	
	3年				
ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	438	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	ビジネス英語B 林 裕二	2学期	3	2	439
		3年			
	会社法I 高橋 衛	1学期	3	2	440
		3年			
会社法II 高橋 衛	2学期	3	2	441	
	3年				
	統計学II 休講	1学期	1	2	
		1年			
■選択科目B	民法総則 小野 憲昭	1学期 (ペア)	1	4	442
		1年			
	都市経済論 古賀 哲矢	1学期	1	2	443
		1年			
	日本行政論 森 裕亮	2学期	1	2	444
		1年			
	金融論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	445
		2年			
	経済地理学II 柳井 雅人	2学期	2	2	446
		2年			
国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	447	
	2年				
国際経済論II 福間 比呂志	2学期	2	2	448	
	2年				
産業組織論I 吉田 友紀	1学期	2	2	449	
	2年				
産業組織論II 後藤 宇生	2学期	2	2	450	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	地域経済I 田村 大樹	1学期	2	2	451
		2年			
	地域経済II 田村 大樹	2学期	2	2	452
		2年			
	北九州経済分析I 城戸 宏史	1学期	2	2	453
		2年			
	北九州経済分析II 城戸 宏史	2学期	2	2	454
		2年			
	地域政策 松永 裕己	2学期	2	2	455
		2年			
	国際法I 休講		2	2	
		2年			
	国際法II 休講		2	2	
		2年			
	雇用関係法 石田 信平	1学期	2	2	456
		2年			
	所得保障法 津田 小百合	2学期	2	2	457
		2年			
	企業活動と法 今泉 恵子	2学期	2	2	458
		2年			
企業取引法I 今泉 恵子	2学期	2	2	459	
	2年				
社会サービス法 津田 小百合	2学期	2	2	460	
	2年				
労使関係法 石田 信平	1学期	2	2	461	
	2年				
都市経営論 古賀 哲矢	2学期	2	2	462	
	2年				
国際協力論I 大平 剛	1学期	2	2	463	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	国際協力論II 大平 剛	2学期	2	2	464
		2年			
	公共経済学 休講	2学期	3	2	
		3年			
	環境経済学 休講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学I 難波 利光	1学期	3	2	465
		3年			
	財政学II 難波 利光	2学期	3	2	466
		3年			
	国際マクロ経済学I 末永 勝昭	1学期	3	2	467
		3年			
	国際マクロ経済学II 末永 勝昭	2学期	3	2	468
		3年			
	国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	3	2	469
		3年			
	国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	3	2	470
		3年			
	ファイナンス論 休講	2学期	3	2	
		3年			
	都市財政I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	都市財政II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	地域金融分析 休講	2学期	3	2	
		3年			
	経済学特殊講義A 畔津 憲司	1学期	3	2	471
		3年			
	経済学特殊講義B 畔津 憲司	2学期	3	2	472
		3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	企業取引法II 前越 俊之	2学期	3	2	473
		3年			
	企業法の現代的展開 木村 友久	2学期	3	2	474
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 岡本 博志	2学期	3	2	475
		3年			
	独占禁止法 高場 俊光	1学期	3	2	476
		3年			
	証券市場と法 前越 俊之	2学期	3	2	477
		3年			
	知的財産法 木村 友久	1学期	3	2	478
		3年			
都市政策論 古賀 哲矢	2学期	3	2	479	
	3年				
Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	480	
	3年				
ビジネス英語研究 松田 智	2学期	3	2	481	
	3年				
上級英語I アンデリユー・ジッツマン	1学期	3	2	482	
	3年				
上級英語II アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	2	483	
	3年				
■自由科目	職業指導A 綾部 真道	1学期	2	2	484
		2年			
	職業指導B 綾部 真道	2学期	2	2	485
		2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	486
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	487
		1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	発達心理学	1学期	2	2	488
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	489
	見玉 弥生	3年			
	商業科教育法A	1学期	2	2	490
	綾部 眞道	2年			
	商業科教育法B	2学期	2	2	491
	綾部 眞道	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	492
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	493
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	494
	大塚 一徳	2年			
教育実習 1	2学期	3	2	495	
黒田 耕司 他	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	496	
恒吉 紀寿 他	4年				
教育相談	1学期	2	2	497	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	498	
楠 凡之	2年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2		
休講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	499
	五十嵐 亮	2年			
	教育実習 3	1学期	4	2	500
恒吉 紀寿 他	4年				
教育法規	2学期	3	2		
休講	3年				

経済学部 経営情報学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	501
	税田 慶昭	2年			
■教職に関する科目 ■選択科目	教育社会学	1学期	2	2	502
	児玉 弥生	2年			
■教科または教職に関する科目	道徳教育の研究	2学期	2	2	503
	黒田 耕司	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	504
	弓野 勝族	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	505
		1年			
	家族を問う 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	506
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	507
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	508
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	509
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
		2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	510	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	511
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	自己管理論		1	2	
	休講	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法	2学期	1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事	1学期	2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	大学論・学問論		1	2	
閉講	1年				
法律の読み方		1	2		
休講	1年				
社会調査	2学期	1	2	512	
山本 努	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
閉講	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	513	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1		
休講	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
(昼のみ開講)	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	3年
	教養演習BⅡ (昼のみ開講)	2学期	3	2	3年
	プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2	2年
	プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2	3年
■テーマ科目	自然学のまなざし (昼のみ開講)	2学期	1	2	1年
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	1年
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	1年
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	1年
	くらしと化学 (昼のみ開講)	1学期	1	2	1年
現代人のこころ 休講	1学期	1	2	1年	
数のたのしみ 閉講		1	2	1年	
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2	1年	
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	閉講	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	2学期	1	2	516
	馬場 美佳 他	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	517
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	518
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	519
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法	1学期	1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
市民活動論	2学期	1	2	520	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	521	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会の諸問題 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	現代の国際情勢 下野 寿子 他	1学期	1	2	522
		1年			
	国際社会論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際紛争と国連 二宮 正人	2学期	1	2	523
		1年			
	民族・エスニシティ問題 休講	1学期	1	2	
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	524
		1年			
	グローバル化する経済 休講		1	2	
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
国際社会と日本 休講		1	2		
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	525	
	1年				
歴史の読み方II 休講	1学期	1	2		
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	526
		1年			
	ものと人間の歴史 (昼のみ開講)		1	2	526
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	526
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講)		1	2	526
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講)		1	2	526
		1年			
教養特講III (昼のみ開講)		1	2	526	
	1年				
教養特講IV (昼のみ開講)		1	2	526	
	1年				
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	527
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	527
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	528
		1年			
	社会学 休講	1学期	1	2	528
		1年			
	人文地理学 休講	2学期	1	2	528
		1年			
土地地理学 休講	1学期	1	2	528	
	1年				
地誌学 外 护保 大介	1学期	1	2	529	
	1年				
日本国憲法 休講	2学期	1	2	529	
	1年				

経済学部 経営情報学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 (昼のみ開講)	2学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	530
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	2学期	1	2	531
		再履・夜間主コース			
	データ処理 廣渡 栄寿	1学期	1	2	532
		群・再履・夜間主コース			
	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	533
		2年			
	プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (済営夜1年) 杉山 智子	1学期	1	1	534
		済営夜1年			
	英語II (済営夜1年) 杉山 智子	2学期	1	1	535
		済営夜1年			
	英語III (済営夜1年) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	536
		済営夜1年			
	英語IV (済営夜1年) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	537
		済営夜1年			
	英語V (済営夜2年) 伊藤 晃	1学期	2	1	538
		済営夜2年			
英語VI (済営夜2年) 伊藤 晃	2学期	2	1	539	
	済営夜2年				
英語VII (済営夜2年) ダニー・ミン	1学期	2	1	540	
	済営夜2年				
英語VIII (済営夜2年) ダニー・ミン	2学期	2	1	541	
	済営夜2年				
■第二外国語	中国語I 一木 達彦	1学期	1	1	542
		済営律政夜1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II 一木 達彦	2学期	1	1	543
		済営律政夜 1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	544
		済営律政夜 1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	545
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語I 金 光子	1学期	1	1	546
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語II 金 光子	2学期	1	1	547
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語III 金 光子	1学期	1	1	548
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語IV 金 光子	2学期	1	1	549
		済営律政夜 1年			
	ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	550
		済営律政夜 1年			
	ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	551
		済営律政夜 1年			
	ロシア語III 芳之内 雄二	1学期	1	1	552
		済営律政夜 1年			
ロシア語IV 芳之内 雄二	2学期	1	1	553	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	554	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	555	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	556	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	557	
	済営律政夜 1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語I	1学期	1	1	558
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	フランス語II	2学期	1	1	559
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	フランス語III	1学期	1	1	560
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	フランス語IV	2学期	1	1	561
	福島 勲	済営律政夜 1年			
	スペイン語I	1学期	1	1	562
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語II	2学期	1	1	563
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語III	1学期	1	1	564
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
	スペイン語IV	2学期	1	1	565
	岡住 正秀	済営律政夜 1年			
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	基礎演習	1学期	2	2	
	休講	2年			
	演習I	1学期	3	2	566
	池田 欽一	3年			
	演習II	2学期	3	2	567
	池田 欽一	3年			
	経営学入門	1学期	1	2	
	休講	1年			
プログラミングI	2学期	1	2		
閉講	1年				
簿記論I	1学期	1	2	568	
池口 慶一	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目	簿記論II 池口 慶一	2学期	1	2	569
		1年			
	コンピュータシステム 泉 英明	1学期	1	2	570
		1年			
マネジメント論基礎 遠藤 雄二	2学期	1	2	571	
	1年				
企業論基礎 中間 信博	2学期	1	2	572	
	1年				
■選択科目A	演習III 福井 直人	1学期	4	2	573
		4年			
	演習IV 福井 直人	2学期	4	2	574
		4年			
	数学 吉田 祐治	1学期	1	2	575
		1年			
	経営統計 休講 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	経済学入門A 魏 芳	1学期	1	2	576
		1年			
	経済学入門B 畔津 憲司	1学期	1	2	577
		1年			
	統計学I 林田 実	1学期	1	2	578
		1年			
ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	579	
	1年				
マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	580	
	1年				
プログラミングII (新JAVA) 休講	1学期	2	2		
	2年				
データ構造 隈本 覚	2学期	2	2	581	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	データ解析		2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
	データベース	1学期	2	2	
	休講	2年			
	経営戦略	2学期	2	2	
	休講	2年			
	経営組織論	1学期	2	2	582
	山下 剛	2年			
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	583
	篠崎 伸也	2年			
	企業ファイナンスII	2学期	2	2	
	休講	2年			
	マーケティングI	1学期	2	2	584
	別府 俊行	2年			
	マーケティングII		2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
	人事管理論	2学期	2	2	585
	山下 剛	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
財務会計論II		2	2		
休講 (昼のみ開講)	2年				
原価計算論I	1学期	2	2	586	
梅澤 俊浩	2年				
原価計算論II		2	2		
休講 (昼のみ開講)	2年				
簿記論III		2	2		
休講 (昼のみ開講)	2年				
工業簿記		2	2		
休講 (昼のみ開講)	2年				

経済学部 経営情報学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	587
		2年			
	マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	588
		2年			
	システム設計I 平山 克己	1学期	3	2	589
		3年			
	システム設計II 平山 克己	2学期	3	2	590
		3年			
	情報ネットワーク 休講	1学期	3	2	
		3年			
	オペレーションズ・リサーチ 休講(昼のみ開講)		3	2	
		3年			
	情報管理 休講	2学期	3	2	
		3年			
	経営数学 吉田 祐治	2学期	3	2	591
		3年			
	証券市場論 休講	1学期	3	2	
		3年			
	中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	592
		3年			
経営学特殊講義A 休講(昼のみ開講)		3	2		
	3年				
経営学特殊講義B 休講(昼のみ開講)		3	2		
	3年				
生産マネジメントA 休講(昼のみ開講)		3	2		
	3年				
生産マネジメントB 休講	2学期	3	2		
	3年				
国際経営A 休講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	国際経営B	2学期	3	2	
	休講	3年			
	情報マネジメントA	1学期	3	2	
	休講	3年			
	情報マネジメントB	2学期	3	2	
	休講	3年			
	コーポレートガバナンス	2学期	3	2	
	休講	3年			
	地域企業分析		3	2	
	休講(昼のみ開講)	3年			
	国際会計論		3	2	
	休講(昼のみ開講)	3年			
	管理会計論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	情報会計	1学期	3	2	
	休講	3年			
	会計監査論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	経営分析	1学期	3	2	593
	西澤 健次	3年			
税務会計		3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
業界研究I		3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
業界研究II		3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
ビジネス英語A	1学期	3	2	594	
林 裕二	3年				
ビジネス英語B	2学期	3	2	595	
林 裕二	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	会社法I 高橋 衛	1学期	3	2	596
		3年			
	会社法II 高橋 衛	2学期	3	2	597
		3年			
	統計学II 林田 実	2学期	1	2	598
		1年			
■選択科目B	民法総則 休講		1	4	
		1年			
	都市経済論 休講		1	2	
		1年			
	日本行政論 休講		1	2	
		1年			
	金融論I 後藤 尚久	1学期	2	2	599
		2年			
	金融論II 後藤 尚久	2学期	2	2	600
		2年			
	経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	601
		2年			
	経済地理学II 柳井 雅人	2学期	2	2	602
		2年			
	国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	603
		2年			
	国際経済論II 福間 比呂志	2学期	2	2	604
		2年			
	産業組織論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
産業組織論II 休講	2学期	2	2		
	2年				
地域経済I 田村 大樹	1学期	2	2	605	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	地域経済II 田村 大樹	2学期	2	2	606
		2年			
	北九州経済分析I 休講(昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	北九州経済分析II 休講(昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	地域政策 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	607
		2年			
	国際法II 二宮 正人	2学期	2	2	608
		2年			
	雇用関係法 休講		2	2	
		2年			
	所得保障法 休講		2	2	
		2年			
	企業活動と法 休講		2	2	
		2年			
	企業取引法I 休講		2	2	
	2年				
社会サービス法 休講		2	2		
	2年				
労使関係法 休講		2	2		
	2年				
都市経営論 休講		2	2		
	2年				
国際協力論I 休講(昼のみ開講)		2	2		
	2年				
国際協力論II 休講(昼のみ開講)		2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	公共経済学	2学期	3	2	609
	牛房 義明	3年			
	環境経済学	1学期	3	2	610
	牛房 義明	3年			
	財政学I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	財政学II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	国際マクロ経済学I	1学期	3	2	611
	末永 勝昭	3年			
	国際マクロ経済学II	2学期	3	2	612
	末永 勝昭	3年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	613
	山口 実	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	614
	山口 実	3年			
	ファイナンス論	2学期	3	2	615
	武田 寛	3年			
	都市財政I	休講 (昼のみ開講)	3	2	
		3年			
都市財政II	休講 (昼のみ開講)	3	2		
	3年				
地域金融分析	休講	2学期	3	2	
	3年				
経済学特殊講義A	休講 (昼のみ開講)		3	2	
	3年				
経済学特殊講義B	休講 (昼のみ開講)		3	2	
	3年				
企業取引法II	休講		3	2	
	3年				

経済学部 経営情報学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	企業法の現代的展開		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	情報公開・個人情報保護法		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	独占禁止法		3	2	
	休講	3年			
	証券市場と法		3	2	
	休講	3年			
	知的財産法		3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	都市政策論		3	2	
	休講	3年			
Advanced Reading and Discussion		3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
ビジネス英語研究		3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
上級英語I		3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
上級英語II		3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
■自由科目	職業指導A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	職業指導B	2学期	2	2	
休講	2年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	616
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	617
見玉 弥生	1年				
	発達心理学	1学期	2	2	618
税田 慶昭	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	619
		3年			
	商業科教育法 A 休講	1学期	2	2	
		2年			
	商業科教育法 B 休講	2学期	2	2	
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	620
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	1学期	2	2	621
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	622
		2年			
	教育実習 1 黒田 耕司	2学期	3	2	623
		3年			
教育実習 2 恒吉 紀寿	1学期	4	2	624	
	4年				
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	625	
	2年				
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	626	
	2年				
教職実践演習(中・高) 楠 凡之 他	2学期	4	2	627	
	4年				
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	628
		2年			
	教育実習 3 恒吉 紀寿	1学期	4	2	629
		4年			
教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	630	
	3年				
	障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2	
		2年			

経済学部 経営情報学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
■教科または教職に関する科目	道徳教育の研究	2学期	2	2	631
	黒田 耕司	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	632
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 現代社会における儀礼の役割
- 第11回 不幸への対処と文化
- 第12回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは
- 第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『児玉源太郎』など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はグローバルな現代社会が抱える具体的な問題に注目しつつ、その思想的背景について講義を行う。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかりとる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社
- ウルリヒ・ベック 2010 『世界リスク社会論』 ちくま学芸文庫
- 関根政美 2000 『多文化主義社会の到来』 朝日選書
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
- デヴッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社
- 本多俊和ほか 2011 『グローバリゼーションの人類学』 放送大学教育振興会
- 吉田憲司 1999 『文化の「発見」』 岩波書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 文化を知ることの政治性
- 第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 先住民・少数民族の文化に関して
- 第5回 異文化を知ることの歴史①「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第6回 異文化を知ることの歴史②植民地主義
- 第7回 中立・公平は可能か？
- 第8回 中間試験

- 第II部 現代社会と文化に関する問題
- 第9回 グローバリゼーションの時代と人の移動
- 第10回 共生のための政治①：多文化主義とは
- 第11回 共生のための政治②：多文化主義の限界
- 第12回 中間テストの講評 / 自己決定とはどういうことか？
- 第13回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第14回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治①グローバルな危機への対応
- 第15回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治②リスク社会 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%
そのほか講義中に課した提出物にすばらしいものがあれば評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

文化と政治 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席しただけで安心せず、理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。国際時事問題に興味ある意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障とは何か(1)
- 第3回 安全保障とは何か(2)
- 第4回 戦争概論
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争、近代戦争
- 第7回 両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
- 第8回 戦争の変質(勢力均衡、アメリカ的戦争観)
- 第9回 原爆の開発過程
- 第10回 原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の種類と威力
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価法・授業上の注意など)
- 2回 歴史的概説【市民革命と産業革命】
- 3回 近代とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 4回 近代とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 5回 近代とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 6回 近代とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 7回 近代とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語に対しては断固とした措置をとる。甚だしい場合には退席を命じる。

内容としては1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかしながら、学期末に実施する試験はかなり難度の高いものである。とりわけ「高校世界史」を学習していない者が本授業の単位を取得するには、人一倍の努力と学習意欲が要求されることになるだろう。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはっきりと理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1 【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2 【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1 【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2 【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3 【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1 【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2 【シユレーバー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3 【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4 【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5 【『1984年』】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テスト方式・時間の詳細は初回の授業で説明する。この説明を聞かなかった場合に生じる不利益はすべて受講者本人の自己責任とする。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 権力 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
同一性の視点から ・遊びと人生
配偶者の選択 ・病いと人生
- 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック、うつや不安との付き合い方【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 河津 慶太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

大学生のほとんどがあてはまる青年期は、自我意識が高まる時期であり、精神の動揺も著しくなる。加えて、生活環境も大きく変化する。そのような状況下で、自己決定に基づいた健康的で自立した生活をおくることは容易ではない。そのためには、学生一人一人が自己管理の能力を身に付けていく必要がある。この授業では、各分野のプロフェッショナルの実体験や知識を学ぶことで、自己管理についての正しい知識と自己管理に対する意識を高め、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりを目指す。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する。
- 第2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 第3回 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 第4回 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- 第5回 考えるということ【心理学】：「考えることの出来る人間」を目指して、人の「思考」について学ぶ
- 第6回 コミュニケーション【心理学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 第7回 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のため薬について学ぶ
- 第8回 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 第9回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 第10回 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 第11回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事例として紹介する。
- 第12回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 第14回 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
- 第15回 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験(選択、記述)、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②小試験：40% ①と②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと

履修上の注意 /Remarks

- 1 一回目の総論で「自己管理論のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語厳禁。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は、自己管理論用欠席届を提出する。
- 6 最終回の「自己管理IV まとめ」では小試験をおこなうので、必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、自分の学びたい学問や、自分が将来したいことをみつけるというよりは、そのための基礎、基盤を培うためのものです。基礎がちゃんとしていない家は建てても歪んでしまいますが、それは人間も一緒です。みなさんもこの授業でしっかりと基礎、基盤をかためて社会に出ていく準備を整えましょう!!

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア(社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を経験した先輩とのディスカッション)※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①(傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②(アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 11回 社会人としての倫理やマナー③(ダイアログ、ワールドカフェ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
- ※自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

履修上の注意 /Remarks

- ※真鍋先生の「キャリアデザイン」と合わせて、全8コマあります。グループワークの運営上、1コマ150名以内にしたいたと思います。その場合には履修者調整をしますので、必ず第1回の授業は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来の進路のために大学生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。
- ※毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール】
- 2回 コミュニケーション実践1
- 3回 コミュニケーション実践2
- 4回 コミュニケーション実践3
- 5回 コミュニケーション実践4
- 6回 コミュニケーション実践5
- 7回 コミュニケーション実践6
- 8回 コミュニケーション実践7
- 9回 コミュニケーション実践8
- 10回 コミュニケーション実践9
- 11回 コミュニケーション実践10
- 12回 コミュニケーション実践11
- 13回 コミュニケーション実践12
- 14回 コミュニケーション実践13
- 15回 まとめ 【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

- 1.所属企業団体の概要とご自身の仕事内容
 (①企業団体の概要、②ご自身の仕事内容、仕事のやりがい、③仕事をする上で大切なこと)、
- 2.ご自身の学生時代
 (①大学時代に打ちこんできたこと、気づいたこと、②現在の所属企業団体を選んだ理由)、
- 3.今の仕事に繋がっている学生時代
 (①自分を飛躍的に成長させた一皮むけた仕事体験、②その原動力の一つとなった、学生時代の経験)、
- 4.学生へのメッセージ
 (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は過去の実績です。

<2012年度> 北九州市役所、朝日新聞社、フリーアナウンサー長崎真友子氏、日本放送協会、ベネッセコーポレーション、ナフコ、日本生命、スターフライヤー、コクヨ、TOTO、ショーワグローブ、ジェイアイエヌ (JiNS)、山口銀行 (北九州銀行)、アイ・ケイ・ケイ
 <2011年度> マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路 (NEXCO西日本)、デンソー九州、山口銀行 (北九州銀行)、ジェイアイエヌ (JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
 以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。
※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない
※授業終了後、キャリアセンターにて座談会を開催する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。到達目標は次の通りです。

- ・ 法律の世界に共通する諸概念や基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・ 講義で紹介する法制度の内容、社会における運用状況を知り、法律問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・ 法律が私たちの社会生活における基盤となっており、法律を学ぶことを通じて私たちが社会生活を円滑に営むための不可欠の素養を身につけることができることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 叶堂 隆三 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

社会調査は、私たちの社会生活がどのような状況にあるのかを把握する有効な方法の一つです。さらに、この社会調査を実施する技法である社会調査法は、アンケート等の調査票を用いて多くの人から情報を得ることで正確な情報把握を志向する量的社会調査と興味深い少数の事例に深く取り組むことを通して新しい社会傾向や社会の多様性を理解しようとする質的社会調査の二つに区別することができます。そして、20世紀以降、実は、こうした社会調査法は社会状況の把握のための学術的関心を越えて、市場調査や選挙予想等さまざまな状況の理解に応用されています。

本授業では、この社会調査法のうち質的社会調査法に焦点を当てて、現代社会の様々な状況・事象への関心のテーマ化、こうした関心を究明するための方法、究明した結果をどのように人に伝えるか、について学習していきます。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本務編『よくわかる質的社会調査プロセス編』ミネルヴァ書房、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査技法編』ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

社会のどのような状況を理解したいのかという社会的関心を究明していくプロセスに沿って、以下のように授業を進めていくことにする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 質的社会調査の方法と意義
- 第3回 名著に学ぶ質的社会調査
- 第4回 質的社会調査概説3
- 第5回 問いを立てる
- 第6回 先行研究に学ぶ
- 第7回 技法を選ぶ
- 第8回 フィールドに入る
- 第9回 フィールドワークを楽しむ
- 第10回 フィールドノートを作成する
- 第11回 インタビューを記録する
- 第12回 インタビュー記録を利用する
- 第13回 ビジュアルな資料を利用する
- 第14回 報告書を作成する
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポートや作成物等 (50%)、授業時間外の課題の提出 (50%) 等による平常点によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質的社会調査法に関して、一連のプロセスに沿って進めますので欠席しないようにして下さい。また、授業中及び授業時間外の課題を必ず提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン) ・ 跳ぶ (ジャンプ) ・ 投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル ・ パス ・ シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート ・ ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール ・ 戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス ・ ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート ・ リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会とまちづくり、職業に論じているテキスト『商店街はなぜ滅びるのか』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

新雅史2012『商店街はなぜ滅びるのか：社会・政治・経済史から探る再生の道』光文社。
北九州市出身の社会学者が執筆した新書です。地域社会や小売業の歴史に興味がなくとも読めますが、興味があればより楽しく読めます。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論 テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。したがって、第1回目の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。現代社会や地域社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

教養基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なものの方見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの方見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの方見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの方見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力(対話・議論)の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子(2001)『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大江正章(2008)『地域のカー・食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介(イントロダクション)
- 第2回：学習法：レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度(積極的発言・報告姿勢等)：40%
最終レポート：60%

(※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

教養基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習All(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1（演習でのルール、成績評価法の説明）
- 2回 ガイダンス2（対象となるテキスト、著者の紹介）
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第3回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】
- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】
- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】
- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。
具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げ、課題発見能力を養う。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指す。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートは書けるけれど、いい(評価される?)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「他地域の事例から学ぶ」または「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『成功する！「地方発ビジネス」の進め方』（島田晴雄＋N T Tデータ経営研究所 著） ¥1,600＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回 テキストの輪読① 【生活に関するサービスで地域ビジネスを展開する】
- 第3回 テキストの輪読② 【自動車はもういらない！！地域交通サービスを考える】
- 第4回 テキストの輪読③ 【高齢化社会におけるコミュニティ・コンシェルジュ】
- 第5回 テキストの輪読④ 【成功する！！コミュニティ・ビジネス】
- 第6回 テキストの輪読⑤ 【地域資源を生かしたヘルスケアビジネス - 地域社会を健康に保つことが活性化に繋がる - 】
- 第7回 テキストの輪読⑥ 【コミュニティ・ビジネスの場としての商店街を考える】
- 第8回 テキストの輪読⑦ 【地域ブランドによるまちおこし】
- 第9回 テキストの輪読⑧ 【地域に住む！！という視点から考えるコミュニティ・ビジネス】
- 第10回 総合討論（北九州地域におけるコミュニティ・ビジネスの可能性を探る）
- 第11回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について①
- 第12回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について②
- 第13回 調査されるといふ迷惑について考える①
- 第14回 調査されるといふ迷惑について考える②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度：50%
 授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習とは、議論する時間・場である。そのため、議論するために必要な知識や資料は事前に各自で準備する必要があることを理解しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

【注意②】新1年生(2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておくこと。
本演習は「教養基礎演習I（伊原木）」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで（全部で三章分）を自分で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

異文化の社会問題へのアプローチ法を考える：
本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。
本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。
(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的社会調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的社会調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的社会調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的社会調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的社会調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第三回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
(2) 上記科目の試験で「A」以上の成績を収めている者
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習・企画
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(1) 体力測定
- 8回 健康増進プログラムの計画(2) 安全性と有効性
- 9回 健康増進プログラムの計画(3) プログラム作成
- 10回 健康増進プログラムの実施
- 11回 健康増進プログラムの評価
- 12回 スキー実習の計画(1) 野外活動の意義
- 13回 スキー実習の計画(2) 安全性と有効性
- 14回 スキー実習の計画(3) プログラム作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10% (配布するカードに記入した内容で評価する)、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。
一学期は比較的具体的な対象のある文献を対象としたが、二学期はより抽象的な文献を読む。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて（1学期からの受講者を優先する）現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心についての説明、テキストの選定
- 第2回 議論のしかたについて（講義）
- 第3回 問題関心共有ための導入：講義と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておくこと。
本演習は「教養演習 AI (伊原木)」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで (全部で三章分) を自分で読み通しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
(2) 上記科目の試験で「A」以上の成績を収めている者
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」 (指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」 (授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①社会科教育法AまたはC、もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD、もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名
 /Instructor

徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

異文化の社会問題へのアプローチ法を考える：
本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。
本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。
(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AII(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的社会調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的社会調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的社会調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的社会調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的社会調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス 2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」「共同体と身体」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
(2) 上記科目いずれかの試験で「A」以上の成績を収めている者
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 1 0 回健康増進プログラムの実施
- 1 1 回健康増進プログラムの評価
- 1 2 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 1 3 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 1 4 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位 2学期
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
 第2回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
 小林担当の「教養演習AⅠ・AⅡ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
 以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。
一学期は比較的具体的な対象のある文献を対象としたが、二学期はより抽象的な文献を読む。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて（1学期からの受講者を優先する）現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心についてのせつめい テキストの選定
- 第2回 議論のしかたについて（講義）
- 第3回 問題関心共有ための導入：講義と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておくこと。
本演習は「教養演習 B I (伊原木)」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで (全部で三章分) を自身で読み通しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

- 参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
- (1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」「共同体と身体」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
 - (2) 上記科目いずれかの試験で「A」以上の成績を収めている者
 - (3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」 (指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」 (授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2012年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ、ギラヴァンツ応援プロジェクト

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ、ギラヴァンツ応援プロジェクト

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 「今西錦司と自然学」
 - 第2講 「私とあなたの自然学」
 - 第3講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第4講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第5講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第6講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第7講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第8講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第9講 人々はどのように自然に親しんできたか(旅と観光)
 - 第10講 人々はどのように自然を観てきたか(森林風景)
 - 第11講 人々はどのように自然を利用してきたか(木と竹の文化史)
 - 第12講 人々はどのように自然を利用していきけるか(竹産業と生態技術)
 - 第13講 人々はどのように自然の中で暮らしているか(木造民家の生活)
 - 第14講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか(中国・台湾との比較)
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する・・・15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える・・・15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く・・・20%
- (岩松)
 - 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然科学のまなざし【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
 動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館での講義および見学
- 3回 昆虫分類学の歴史（担当者未定）：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 4回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
- 5回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 7回 鳥類の絶滅危機と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危機】【生物多様性】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 サウジアラビアの自然と人と文化と（山根）：【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 10回 岩石に見られる「大地の暗号」（森）：【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 11回 自然史博物館での講義および見学
- 12回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学（御前）：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。授業への積極的な参加および見学レポート40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月6日（日）と12月8日（日）を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。授業スケジュールについての説明もありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心化学知識の理解を深め、それによる生活や環境に対する能力を高めることがこの授業のねらいである。

自然界の重要物質水と炭酸ガスと物質三態(気・液・固)、生活に必要な食品・薬、環境に重要な、放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

教科書 /Textbooks

「身の回りから見た化学の基礎」 化学同人 芝原 寛泰、後藤 景子 著
出版年月日：2009/11/02、 ISBN： 9784759812923 定価：本体1,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善) \2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1章 化学ってなんだ? - 物質と化学の関係
- 2 1章 化学ってなんだ? - 化学の基本事項(補足)
- 3 14, 8章 物質は自在に変わる - 気・液・固
- 4 5, 2章 水の化学、酸・塩基(真水・お酢・石けん水)
- 5 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 6 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射能、原子力
- 7 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射性元素と自然界)
- 8 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 9 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 10 4章 環境にやさしい洗濯を - 洗濯の化学
- 11 9章 化学の力で命を守る - 薬と副作用
- 12 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 13 10章 身の回りには石油製品がいっぱい! - 化石資源の化学
- 14 0章(教科書補足) - 二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 中島 俊介 / 基盤教育センター
 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

現代人のこころ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまな上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 知覚の世界
人はどのように外界世界を知覚しているのか。【錯視】【体制化】【興行き知覚】
- 第9回 記憶のしくみ
人間の記憶の貯蔵のしくみ。【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
- 第10回 記憶の保持と変容
どのようにすれば記憶しやすいのか。【処理水準】【スキーマ】【偽記憶】
- 第11回 学習のメカニズム
条件づけによる学習のメカニズム。【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】
- 第12回 学習の生物学的制約
生物であるために生じる学習の特別な形。【ガルシア効果】【刻印づけ】
- 第13回 社会的影響
人の判断は社会からどのような影響を受けるのか。【同調】【規範】【説得】
- 第14回 コンピュータは心を持つか
人と同じような知能や心を持つコンピュータやロボットは実現できるのか？【人工知能】【ロボット】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】 担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】 心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】 「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】 相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】 私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】 「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】 これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】 「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】 購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】 偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】 健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】 私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】 様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】 日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しかったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

前年度単位取得率: 57% (受講者92名)
S: 6名(7%) A: 22名(23%) B: 12名(13%) C: 19名(21%) D: 19名(21%) -: 14名(15%)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所やくわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されることである。

にもかかわらず、日本にあってわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、神を祀る神、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、神の疲労、塔と洪水、石とイモ
4. あの世 地獄と天国、煉獄と金利、極楽浄土、六道輪廻
5. 苦と悪 悪霊、天使、魔女、神義論、四苦八苦
6. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
7. 聖者と菩薩 殉教者、列聖、霊力、慈悲
8. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼、体験
9. 願かけと祈り 念仏と題目、報恩、応答、祈願
10. 祭り 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典、賛美歌と声明
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、呪詛、病治し
15. まとめ 幸福の四象限、しあわせ、スカブラと笑い

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。
講義をよく聴く。
配布資料をよく読む。
資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 期末テスト...50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 映画分析④
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 外部講師による講義(予定)
- 第12回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第13回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第14回 コミュニケーション力(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
 4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品の鑑賞とは 1
- 3回 作品の鑑賞とは 2
- 4回 引き算の美・足し算の美
- 5回 メディア×アート：浮世絵
- 6回 サブカルチャーと社会
- 7回 芸術作品に見るジェンダー
- 8回 作品のコンテキスト
- 9回 芸術のカ×権力×暴力
- 10回 芸術と宗教
- 11回 芸術とリアリティ：現実の不確かさ
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 芸術と教育：ワークショップの事例
- 14回 芸術と地域：アートプロジェクトの事例
- 15回 北九州のアートシーン

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Class 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ：「言葉の力」

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 岩本
- 4回 馬場(文学部比較文化学科)
- 5回 馬場
- 6回 田部井(文学部比較文化学科)
- 7回 田部井
- 8回 福島(文学部比較文化学科)
- 9回 福島
- 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 11回 伊藤
- 12回 五月女(文学部比較文化学科)
- 13回 五月女
- 14回 木原(外国語学部英米学科)
- 15回 木原

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

文学を読む【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①現代正義論に関する基礎的な知識を獲得したうえで、理解力・思考力を鍛える。
- ②現代社会における諸問題について、課題を発見し、分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルテア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
- 第2回 民主主義の理論の比較・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第5回 民主主義理論の比較のまとめ
- 第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第7回 民主主義の運動（組織）の比較・1989年の東欧革命について
- 第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
- 第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
- 第11回 民主主義の制度の比較について・議院内閣制と大統領制
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身に付けておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狹間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳について(重松)
- 第2回 障害のある人の権利 ~ 日本国憲法から(植木)
- 第3回 死刑制度の是非(中村)
- 第4回 契約について(契約の意義、種類、契約自由の原則等)(矢沢)
- 第5回 家族とは何か(小野)
- 第6回 規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか(大杉)
- 第8回 商法とは何か(今泉)
- 第9回 企業形態と法(高橋)
- 第10回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第11回 行政は「個人の権利」をもつか(福重)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 まとめ(岡)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる。

①受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。②レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは6000字以上とする。③レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。④授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

共生の作法【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

この授業の主な到達目標は以下の通り。

- ① 環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
- ② 環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
- ③ 卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5回 北九州の自然・生態系
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス
- 7回 環境問題と市民の関わり
- 8～9回 環境関連施設見学①
- 10回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 11～12回 環境関連施設見学②
- 13回 北九州の環境経済
- 14回 環境問題と企業の取り組み
- 15回 環境都市としての北九州

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。環境首都検定の成績(40%)、施設見学および期末レポート(30%)、授業への参加度・授業中の課題など(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定は12月15日(日)、施設見学は①環境ミュージアム(12月1日(日))、②エコタウン(11月20日(水)午後)を予定しているが、変更の可能性もある。スケジュールに注意すること。環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (=ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としながらいかに振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物物を反省しよう。日常的に観察される買い物物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。 → 「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点) + 期末レポート試験(50点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスラーニング入門2」も受講してください。より深く地域活動をおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳) 昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が求められる。この方式に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この授業は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方からお話いただき、新聞と現代社会についての考察することを目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状と今後 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースを編集する / 見出しはこうして決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目 / 政権交代と現政権の行方 (編集委員)
- 第4回 地域とともに / 分権時代と地域紙 (都市圏総局長)
- 第5回 アジアを考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 第6回 裁判員制度と人権 / 事件報道の現場から (社会部総合デスク)
- 第7回 デジタルが紙か / デジタルメディアの行方 (コンテンツ事業局)
- 第8回 罪と更生 / キャンペーン報道の力 (社会部デスク)
- 第9回 被災地を歩く / 東日本大震災をどう伝えるか (社会部長)
- 第10回 原発と地域経済 / 経済記者の立ち位置 (経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界 / 地域スポーツ紙が目指すもの (運動部デスク)
- 第12回 言葉を越える1枚 / 報道写真の力 (写真部記者)
- 第13回 北九州発の環境問題を考える / 地域ジャーナリズムの役割 (北九州本社記者)
- 第14回 文化と新聞 / 地域を見つめ育てる (文化部長)
- 第15回 新聞をデザインする / ビジュアル紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の2つをもとに総合的に評価する。
- (1) 毎回の感想(レポート提出の要件とする。)
 - (2) レポート(レポート提出は3回を予定している。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞をよく読み、現代社会に対する感性を磨くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadaki YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①：湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②：ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③：リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④：アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤：PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて検討する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義の試み【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦【スカーフ問題】【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義と多文化主義【ライシテ】【共和国憲法】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木暮太一 (2010) 『経済が世界—シンプルにつかめる本』 明日香出版社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	シラバス詳細版配布、イントロダクション、概説	【グローバル化】
2回	自由貿易	【比較優位】 【貿易保護】
3回	自由貿易	【WTO】 【FTA】 【TPP】
4回	企業の海外進出と立地	【直接投資】
5回	企業の海外進出と立地	【人件費】 【為替レート】
6回	海外展開に関わる所有戦略	【合併】 【M&A】
7回	経営現地化の視点	【人事現地化】
8回	地場グローバル企業のケースI	【SCM】 【OEM】
9回	地場グローバル企業のケースII	【現地市場志向】
10回	グローバル化と途上国の成長・発展	【開発経済】 【労働移動】
11回	グローバル化と先進国の経済	【格差】 【ジニ係数】
12回	グローバル化と金融危機	【サブプライムローン危機】
13回	グローバル化と金融危機	【欧州危機】 【リーマンショック】
14回	産業・企業のグローバル展開 (ケーススタディ)	
15回	まとめと総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): およそ20%、学期末試験: およそ80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
 テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
 テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粹主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
 国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
 オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近現代の国際社会、文化、政治、思想など諸分野の流れをポストコロニアリズムの議論を通じて捉えつつ、今なお継続する植民地主義とわれわれを支配している近代主義を批判的に省察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』作品社、2003、1800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、2005

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 毎回、レジユメを配り、その内容について説明する。
- 1回 テクストの紹介、授業のガイダンス
 - 2回 第IV部の総論、姜尚中論文 【今なぜ、ポストコロニアリズムなのか】
 - 3回 前回の補足
 - 4回 第II部の総論、本橋哲也論文【私たちにとってのポストコロニアリズム】
 - 5回 第II部の近代、松葉祥一論文
 - 6回 第II部の性・文化、竹村・毛利論文
 - 7回 第II部の日本、小森陽一論文
 - 8回 第II部の第三世界、小倉英敬論文
 - 9回 第II部の国家、嚮田竜蔵論文
 - 10回 第IV部の1、朴一・村井寛志論文【問題提起】
 - 11回 第IV部の2、趙慶喜論文
 - 12回 第IV部の3、高橋哲哉論文
 - 13回 第IV部の4、野村・鄭暎恵論文
 - 14回 第II部とIV部の総括
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

2~3回のレポート70%、授業への熱意30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をしてくること。教科書に登場する概念、人物について自分で調べて見ること。

履修上の注意 /Remarks

思想、哲学に関心を寄せること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代の呪縛、近代主義、オリエンタリズム、ナショナリズム、植民地主義、二元思考、三元思考、公共性

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七土殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
岩本 真理子 / 比較文化学科, 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakシヨN (小林)
 - 第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ポルポト政権】
 - 第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国(下野)【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジユメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
- 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム(1)投資と技術革新
- 5回 高度成長とそのメカニズム(2) 対外経済・政府の役割
- 6回 高度成長期の企業システム(1) 企業統治・労使関係
- 7回 高度成長期の企業システム(2) 企業間関係・企業の資金調達
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーダイズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 自動車と国家対立【貿易摩擦】
- 第12回 生産現場から見た自動車の歴史【自動車の構造】【生産工程】
- 第13回 自動車の開発1【電動化】【知能化】
- 第14回 自動車の開発2【電動化】【知能化】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった「関係性」を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
 講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
 「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
 「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティとは何か 【ホスピタリティの歴史と文化】 【西洋のホスピタリティ】 【おもてなし】
- 3回 ホスピタリティの基本 【ホスピタリティとサービスの語源と概念比較】 【ホスピタリティの思考】
- 4回 ホスピタリティと心理学【EQ】 【交流分析】
- 5回 ホスピタリティとマナー 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 6回 ホスピタリティとコミュニケーション 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【言語と非言語】
- 7回 ホスピタリティとビジネス【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS他】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ホスピタリティ産業の現状 その1 【近年の航空事業の動向】
- 10回 ホスピタリティ産業の現状 その2 【接客現場】 【国際線業務】 【社員教育】
- 11回 ホスピタリティ産業の現状 その3 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 12回 ホスピタリティと企業 その1 【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】
- 13回 ホスピタリティと企業 その2 【企業の社会的責任】 【企業の商品開発と社会貢献】
- 14回 ホスピタリティの意義と可能性 【知識とホスピタリティ】 【暗黙知と形式知】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績 70%
 日頃の取り組み 10%
 授業中に行うミニテストの提出 20%

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。また、現代社会における論争的なトピックを例に社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタントイズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 現代社会の解釈1 - 社会的格差と社会的排除1：どうなっているのか
- 第9回 現代社会の解釈2 - 社会的格差と社会的排除2：なぜそうなるのか
- 第10回 現代社会の解釈3 - 社会的格差と社会的排除3：どうすればよいのか
- 第11回 現代社会の解釈4 - グローバル化とエスニシティ1：どうなっているのか
- 第12回 現代社会の解釈5 - グローバル化とエスニシティ2：なぜそうなるのか
- 第13回 現代社会の解釈6 - グローバル化とエスニシティ3：どうすればよいのか
- 第14回 現代社会の解釈7 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

竹中克行・大城直樹・梶田真・山村亜希 編(2009)『人文地理学』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)イントロダクション
- (2)人口からみる地域とその結びつき (テキスト1章)
- (3)都市のなりたち (テキスト2章)
- (4)都市社会の分断を読み解く (テキスト3章)
- (5)グローバル化する農業と農村の再編 (テキスト4章)
- (6)集中する工場、分散する工場 (テキスト5章)
- (7)情報化時代の流通システムと小売業 (テキスト6章)
- (8)地理情報システムが開く新しい社会 (テキスト12章)
- (9)地理学と公共政策 (テキスト13章)
- (10)市民・住民運動を通じてとらえる環境問題 (テキスト14章)
- (11)身近な地域の地誌 (北九州：工業都市の盛衰)
- (12)身近な地域の地誌 (筑豊：産炭地と産業遺産)
- (13)身近な地域の地誌 (福岡：広域中心都市)
- (14)身近な地域の地誌 (下関：交通の変化と地域の変貌)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習も行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

地域の分析・検討に役立つ地理学の基礎的な知識を習得する。

地域の地理学的分析に必要な基礎的技術を習得する。

習得した知識や技術をもとに、将来の社会実践のなかで、自らのキャリアアップや社会への貢献ができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号と景観。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。【地形】
- 9回 地図を利用して地表を計測する。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとるI(実習)。海岸砂丘の環境と土地利用を読む。
- 11回 地形図を利用して景観を読みとるII(実習)。歴史景観を読む。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族、産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリスト186・187号(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権)
- 第10回 統治機構②(権力分立)
- 第11回 統治機構③(日本の政治制度)
- 第12回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第13回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第14回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第15回 日本憲法史

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ、そのつど紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想 【善と徳】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【国家と個人】
- 第4回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第5回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【愛と福音】
- 第6回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスの倫理思想 【神の国と地上の千年王国】
- 第7回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第8回 近代の倫理思想(1) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(2) スピノザの倫理思想 【知的愛とマルティチュード】
- 第10回 近代の倫理思想(3) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(4) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(5) ヘーゲルの倫理思想 【国家と理性】
- 第13回 現代の倫理思想(1) ローレンズの倫理思想 【正義とリベラリズム】
- 第14回 現代の倫理思想(2) ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
定期試験60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。授業中に問題を課すこともあるので、積極的に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、情報漏洩、著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト、文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU、メモリ、記憶メディア、キーボード、マウス、ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線、パケット、LAN、IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権、オープンソース、クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン、データベース、データマイニング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会、ネットワーク、セキュリティ

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 再履
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現 (ガイダンス)
- 2回 データの収集 (検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工 (表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現 (レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎 1 (課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎 2 (原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

プログラミング基礎【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトのマクロ機能を利用して、様々な表作成手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、VBAを用いたプログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート

英語I (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEICテスト対策のテキストを使用し、実践英語の基盤となる基本文法の学習とともに、英語運用4技能（聴く・読む・話す・書く）のうち特に「聴く」「読む」技能の向上に重点をおいて学習する。（TOEIC目標スコア 500点～）

教科書 /Textbooks

Donald Beaver 他著 「Navigator for the TOEIC Test」 南雲堂 1890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 1800円
各個人目標スコアレベルにあったTOEICテスト対策問題集（解説付き）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 第2回 Lesson1/2 動詞
- 第3回 Lesson3/4 時制
- 第4回 Lesson5/6 形容詞
- 第5回 Lesson7/8 名詞
- 第6回 Lesson9/10 分詞構文
- 第7回 Lesson11/12 不定詞
- 第8回 Lesson13/14 動名詞
- 第9回 復習テスト
- 第10回 Lesson15/16 一致
- 第11回 Lesson17/18 関係詞
- 第12回 Lesson19/20 接続詞
- 第13回 Lesson21/22 仮定法
- 第14回 Lesson23/24 否定
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Welcome to the TOEIC Test” 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社 ￥1,800+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Midterm Testおよび解説
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、Midterm Test：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%
最終評価にはTOEICを受験したかどうか反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of management majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1 with student CD-ROM, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEICで300点を獲得することを目標とします。ここでは、初歩的な英文法を中心に確認していきます。

教科書 /Textbooks

早川幸治 『Mastery Drills for the TOEIC TEST : All in One』 (ピアソン桐原、2011年)
ISBN978-4-342-55308-0 (1700円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEICの紹介、英語の構造 【品詞】
- 2 回 人物の動作と状態、表・用紙 【Part 1, Part 7 (以下、TOEICのパート)】
- 3 回 疑問詞を使った疑問文、手紙・Eメール 【Part 2, Part 7】
- 4 回 電話での会話、品詞 【Part 3, Part 5】
- 5 回 留守番電話、動詞 【Part 4, Part 5】
- 6 回 物の状態と位置、広告 【Part 1, Part 7】
- 7 回 基本構文と応答の決まり文句、ダブルパッセージ 【Part 2, Part 7】
- 8 回 屋外や交通機関での会話、代名詞・関係代名詞 【Part 3, Part 5】
- 9 回 アナウンス、接続詞・前置詞 【Part 4, Part 5】
- 10 回 Yes/No 疑問文、Part 7 の復習 【Part 2, Part 7】
- 11 回 店での会話、Part 5 の復習 【Part 3, Part 5】
- 12 回 ラジオ放送、時制・代名詞・語彙問題 【Part 4, Part 6】
- 13 回 オフィスでの会話、つなぎ言葉 【Part 3, Part 6】
- 14 回 ツアー・トーク・スピーチ、Part 6 の復習 【Part 4, Part 6】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40%、期末試験 60%に出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価します。(正当な理由なく、4回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくで役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

英語II (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course has been designed to develop English skills in way that improvement can be measured through higher levels of achievement in the TOEIC test. Additional aims include helping students identify and better manage their own learning. The course also aims to give students an opportunity to write about their own lives in a short English journal. Activities include homework completed before and checked in each lesson, listening and speaking, group discussion of example problems as well as the completion of many TOEIC practice examples provided with the core text.

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 Goal 700 2nd edition
Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 5
Week 7 Unit 6
Week 8 Mid-Semester Test
Week 9 Mid-Semester test review
Week 10 Unit 7
Week 11 Unit 8
Week 12 Unit 9
Week 13 Unit 10
Week 14 Unit 11
Week 15 Unit 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Examination 40%
Mid-Term examination 30%
Journal 20%
Class Participation 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Journal Entry
Completion of assigned homework exercises

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Essential Approach for the TOEIC Test” 『TOEICテストへのニューアプローチ』
(大須賀直子共著) 成美堂 ¥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、日常の授業への取り組み(小テスト、課題含む)：30%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of management majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1 with student CD-ROM, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal : Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal : Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal : Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal : The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video Journal : Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal : Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた指導を行っていく。「聴く」に関しては、付属のCDを使って文章単位の「聞き取り練習」を毎回実施し、英語の音に慣れると同時に文章内容を自然な音の速さで把握していく力を養っていく。「読む」に関しては、テキストの各課記載の文章を正確に読み取っていく「精読」を中心とした学習作業を通して、「速読」につながる読解力が身に付くよう指導していく。(TOEIC目標スコア・・・前学期スコアの50点アップ)

教科書 /Textbooks

Donald Beaver 他著 「Navigator for the TOEIC Test」 南雲堂 1890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 第2回 Lesson1/2 動詞
- 第3回 Lesson3/4 時制
- 第4回 Lesson5/6 形容詞
- 第5回 Lesson7/8 名詞
- 第6回 Lesson9/10 分詞構文
- 第7回 Lesson11/12 不定詞
- 第8回 Lesson13/14 動名詞
- 第9回 復習テスト
- 第10回 Lesson15/16 一致
- 第11回 Lesson17/18 関係詞
- 第12回 Lesson19/20 接続詞
- 第13回 Lesson21/22 仮定法
- 第14回 Lesson23/24 否定
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Money-Introductions
- 第 3 回 Money-Building Skills
- 第 4 回 Money-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Presentations-Introduction
- 第 7 回 Presentations-Building Skills
- 第 8 回 Presentations-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Investing-Introduction
- 第11回 Investing-Building Skills
- 第12回 Investing-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語III (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course covers contemporary, real word topics that are relevant to students' lives (e.g free time, entertainment) Students have background knowledge and experience with these topics, so they can share opinions and information productively.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 (third edition) Jack C. Richards Cambridge Univeristy Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 past tense; used to for, habitual actions, grammar, writing, reading and listening
- 2 回 adverbs of quantity, grammar, writing, reading and listening
- 3 回 evaluations and comparisons grammar, writing, reading and listening
- 4 回 simple past vs. present perfect, grammar, writing, reading and listening
- 5 回 future with be going to and will, grammar, writing, reading and listening
- 6 回 two part verbs, grammar, writing, reading and listening
- 7 回 infinitives and gerunds, grammar, writing, reading and listening
- 8 回 relative clauses of time, grammar, writing, reading and listening
- 9 回 time contrasts, grammar, writing, reading and listening
- 1 0 回 gerund, short responses and clauses, grammar, writing, reading and listening
- 1 1 回 passive with by simple past, grammar, writing, reading and listening
- 1 2 回 past continuous vs, simple past, grammar, writing, reading and listening
- 1 3 回 participles as adjectives, grammar, writing, reading and listening
- 1 4 回 summary
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

20% peer journal and 80% exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should prepare a peer journal that they write about daily activities with a partner

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 Second Edition Leo Jones

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 1
- Week 3 Unit 2
- Week 4 Unit 3
- Week 5 Unit 4
- Week 6 Unit 1-4 Expansion
- Week 7 Discussion Planning
- Week 8 Mid-Semester Review
- Week 9 Unit 5 and Discussion 1
- Week 10 Unit 6 and Discussion 2
- Week 11 Unit 7 and Discussion 3
- Week 12 Unit 8 and Discussion 4
- Week 13 Units 5-8 Expansion
- Week 14 Review
- Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

- Diary 20%
- Diary Interview 10%
- Class Discussion Presentation 20%
- Mid Semester Review 20%
- Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Write Diary and prepare to discuss contents
- Assigned tasks from course textbook
- Discussion and Review Preparation
- Other assigned tasks

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「基礎から・徹底的に」復習を行う文法学習をメインに、リスニング、語彙力養成を交えて、総合的英語力を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 be動詞と一般動詞
- 3回 be動詞と一般動詞
- 4回 動詞と疑問文
- 5回 動詞と疑問文
- 6回 命令文と助動詞
- 7回 命令文と助動詞
- 8回 命令文と助動詞
- 9回 品詞と修飾
- 10回 品詞と修飾
- 11回 接続詞
- 12回 接続詞
- 13回 前置詞
- 14回 前置詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テストを実施するので、各自出題範囲を勉強して、準備して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (営 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 2
 Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Leadership-Introductions
- 第 3 回 Leadership-Building Skills
- 第 4 回 Leadership-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Contracts-Introduction
- 第 7 回 Contracts-Building Skills
- 第 8 回 Contracts-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Negotiations-Introduction
- 第11回 Negotiations-Building Skills
- 第12回 Negotiations-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語IV (営 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Transferring calls
- 3 回 Responding to requests
- 4 回 Travel itineraries
- 5 回 Reacting to schedule changes
- 6 回 Ordering in restaurants
- 7 回 Complaining about problems
- 8 回 Fixing problems
- 9 回 Taking messages
- 1 0 回 Asking and giving directions
- 1 1 回 Recommending and giving travel advice
- 1 2 回 Discussing prices and bargaining
- 1 3 回 Changing money
- 1 4 回 Extra charges
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅳ (営 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course covers contemporary, real world topics that are relevant to students' lives. Students have background knowledge and experience with these topics, so they can share opinions and information productively. In addition, cultural information stimulates cross-cultural comparison and discussion

教科書 /Textbooks

Interchange 2 second edition J.C Richards, J. Hull and S. Proctor Cambridge University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

An English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introducing yourself, talking about yourself, grammar, pronunciation, writing and reading
- 2 回 The reduced form of 'used to' grammar, pronunciation, writing and reading
- 3 回 Talking about transportation and evaluating city problems, grammar, pronunciation, writing and reading
- 4 回 Describing positive and negative problems, grammar, pronunciation, writing and reading
- 5 回 E-mail about capsule hotels and description of apartments, grammar, pronunciation, writing and reading
- 6 回 Expressing likes and dislikes, grammar, pronunciation, writing and reading
- 7 回 Descriptions of food and recipes, grammar, pronunciation, writing and reading
- 8 回 Vacation plans with future plans, grammar, pronunciation, writing and reading
- 9 回 Travel suggestions and liking sounds, grammar, pronunciation, writing and reading
- 1 0 回 Making and refusing requests, grammar, pronunciation, writing and reading
- 1 1 回 Sets of guidelines and surveys, grammar, pronunciation, writing and reading
- 1 2 回 Describing technology, giving instructions, grammar, pronunciation, writing and reading
- 1 3 回 Syllable stress and giving notes of instructions, grammar, pronunciation, writing and reading
- 1 4 回 Holidays, festivals and special events, grammar, pronunciation, writing and reading
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

20% peer journal 80% exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to write a peer journal with a partner about weekly activities. They will exchange their peer journal with their partner and respond in a written form

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV (営 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 9
Week 3 Unit 10
Week 4 Unit 11
Week 5 Unit 12
Week 6 Unit 9-12 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 13 and Discussion 1
Week 10 Unit 14 and Discussion 2
Week 11 Unit 15 and Discussion 3
Week 12 Unit 16 and Discussion 4
Week 13 Units 13-16 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (営 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 Communicative English skills

教科書 /Textbooks
 English in Common 2 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Getting to know you)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (School and Leisure)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Your free time)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Food)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Around the house)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Around town)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Describing people)
- 第 1 0 回: Unit 8 and discussion in English (Dressing right)
- 第 1 1 回: Unit 9 and discussion in English (Entertainment)
- 第 1 2 回: Unit 10 and discussion in English (Going places)
- 第 1 3 回: Unit 11 and discussion in English (Education)
- 第 1 4 回: Unit 12 and discussion in English (Your goals)
- 第 1 5 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method
 Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 As directed by teacher

履修上の注意 /Remarks
 必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 Lets enjoy learning English together

キーワード /Keywords
 Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語V (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
 上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際的な訓練を行う。さらに小説を読んで、読解力を養う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 『ヴォキャブラリー徹底演習』 by Satoru Huruya 三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 lesson1
- 3回 Lesson2
- 4回 Lesson3
- 5回 Lesson4
- 6回 Lesson5
- 7回 Lesson6
- 8回 Lesson7
- 9回 Lesson8
- 10回 Lesson9
- 11回 Lesson10
- 12回 Long Walk to forever
- 13回 Long Walk to forever
- 14回 Long Walk to forever
- 15回 Long Walk to forever

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 30% 試験 ... 70%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

①テキスト Perfect Practice for the TOEIC Test
国際化時代、情報化時代を迎えた現代において、英語コミュニケーション能力を客観的に測る「TOEIC Test」は、ますますその重要性を増しているため、TOEICを学ぶことは大切である。本授業では、今まで学んできた語彙と文法の知識を確認しつつ、実践的に語彙力と文法力が活用出来る能力の向上を目指す。

②テキスト World Mysteries
このテキストでは、様々なトピックに関する一般知識、いわゆる「教養」と呼ばれる奥深い内容の英文を読む。英語での自己表現、コミュニケーションを深めようとするには、英語による教養を身に付けることが必要だ。本授業では「世界の不思議」という視点から、様々な分野でのミステリーや問題をトピックとする英文を読む。その内容は人類学、宗教、芸術、建築、古代文明、異文化コミュニケーション、言語学習、自然科学など多岐にわたっており、TOEICのReading問題にも対応出来るものである。

前期ではこの①と②のテキストを学習する。

教科書 /Textbooks

① Perfect Practice for the TOEIC Test 『TOEICテストパーフェクト演習』	著者 石井隆之	SEIBIDO	2,200円
② World Mysteries 『世界の「フシギ」をひも解く』	著者 実松克義	CENGAGE Learning	2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
随時、必要な資料を配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①
- 1回 Unit 1. Studying Abroad (留学) Yes/No形式・動詞の時制 / 大学の案内・ Eメール・ レター
 - 2回 Unit 2. International Conference (国際会議) orの入った疑問文・ 自動詞と他動詞 / 情報提供文・ 案内文
 - 3回 Unit 3. Holidays (休日) 付加疑問文・ 主語と動詞の一致/ 娯楽施設の案内・ 求人広告
 - 4回 Unit 4. Leisure (娯楽) 提案・ 勧誘の文・ 動名詞 / 観光案内・ 企業戦略発表
 - 5回 Unit 5. Restaurant (レストラン) 依頼・ 許可の文・ 不定詞 / ビジネスニュース・ ニュース記事
 - 6回 Unit 6. Online Shopping (買い物) What・ 副詞 / デパートのニュース・ 商品の価格表
 - 7回 Unit 7. Global Warming (地球温暖化) Who・ 分詞 / 天気予報・ スケジュール表
- ②
- 8回 Unit 1. History of Man 人類の知られざる過去とは
 - 9回 Unit 2. Ancient civilization 輝かしき二大文明：エジプト文明とマヤ文明
 - 10回 Unit 3. Shamanism 人はなぜ祈るのか
 - 11回 Unit 4. Festivals of the world 世界のお祭りの起源とは
 - 12回 Unit 5. Religious traditions 宗教はなぜ生まれたのか
 - 13回 Unit 6. Silk Road シルクロードがもたらしたものは
 - 14回 Unit 7. Secret of Music 音楽の秘密
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業中に行う小テストと授業への積極性 50%
学期末考査 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は予習科目なので、必ず予習をして授業に臨む。予習段階で理解出来なかった内容を、授業で解決して欲しい。更に授業中で理解出来ない部分が生じたら質問をして、授業中に解決する。理解出来ない部分は他の多くの受講生にも共通するので、臆せずに質問するように。予習ノートの作成を奨める。

授業には必ず辞書を携帯すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course has been designed to help students progress in the development of their English skills in way that is reflected clearly, such as through higher levels of achievement in the TOEIC test. Additional aims include helping students identify and better manage their own learning as well as giving students an opportunity to write about their own lives in a short English journal. Activities include homework completed before and checked in each lesson, listening and speaking, group discussion of example problems as well as the completion of many TOEIC practice examples provided with the core text.

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test
 Grant Trew
 Oxford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 15
- Week 3 Unit 16
- Week 4 Unit 17
- Week 5 Unit 18
- Week 6 Unit 19
- Week 7 Unit 20
- Week 8 Mid-Semester Test
- Week 9 Mid-Semester Test Feedback
- Week 10 Unit 21
- Week 11 Unit 22
- Week 12 Unit 23
- Week 13 Unit 24
- Week 14 Unit 25
- Week 15 Journal Review and Test Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Examination 40%
 Mid-Term examination 30%
 Journal 20%
 Class Participation 10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Journal Entry
 Completion of assigned homework exercises

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況 (小テストを含む)...50%
 上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 営 2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%

上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 営 2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

①テキスト Perfect Practice for the TOEIC Test
国際化時代、情報化時代を迎えた現代において、英語コミュニケーション能力を客観的に測る「TOEIC Test」は、ますますその重要性を増しているため、TOEICを学ぶことは大切である。本授業では語彙と文法の知識を確認しつつ、実践的に語彙力と文法力が活用出来る能力の向上を目指す。

②テキスト World Mysteries
このテキストでは様々なトピックに関する一般知識、いわゆる「教養」と呼ばれる奥深い内容の英文を読む。英語での自己表現、コミュニケーションを深めようとするには、英語による教養を身に付けることが必要だ。本授業では「世界の不思議」という視点から、様々な分野でのミステリーや問題をトピックとする英文を読む。その内容は人類学、宗教、建築、古代文明、異文化コミュニケーション、言語学習、自然科学など多岐にわたっており、TOEIC Test のReading問題にも対応出来るものである。

後期ではこの①と②のテキストを学習する。

教科書 /Textbooks

① 『Perfect Practice for the TOEIC Test』	TOEICテスト パーフェクト演習』	著者 石井隆之	SEIBIDO	2,200円
② 『World Mysteries』	世界の「フシギ」をひも解く』	著者 実松克義	CENGAGE Learning	2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
随時必要資料を配付する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①
- | | |
|--|---------------------------------|
| 1回 Unit 8 Web Sites (ホム^ -ジ^) | Which・名詞の可算・不可算 / 会社の案内・パーティの案内 |
| 2回 Unit 9 Work place(職場) | Whose・代名詞 / 会議案内・通知文 |
| 3回 Unit 10 Nursing Care (介護) | When・接続詞 / プレゼンテーション・お知らせ |
| 4回 Unit 11 Global Trading (貿易) | Where・受動態と使役 / 銀行の報告・製品説明とレター |
| 5回 Unit 12 Eco-Friendly Economy (環境に優しい経済) | Why・関係詞 / ラジオのニュース |
| 6回 Unit 13 Business Trips (出張) | How・形容詞 / ホテルの予約・図表とEメール |
| 7回 Unit 14 Hybrid Cars (ハイブリッド車) | 意外な応答の疑問文・前置詞 / 修理の依頼・通知文とレター |
- ②
- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 8回 IUnit 8 Islam | イスラム教とは何か |
| 9回 Unit 9 Mystical experience | 神秘体験の不思議にせまる |
| 10回 Unit 10 Mystery of animals | 動物がもつ神秘とは |
| 11回 Unit 11 Andean civilizations | 南米の神秘文明をひも解く |
| 12回 Unit 12 Wonders of architecture | 建築の驚異 |
| 13回 Unit 13 Sacred places | 人はなぜ聖地に惹かれるのか |
| 14回 Unit 14 Language and culture | 人間にとって言語と文化とは何か |
| 15回 Unit 15 Evolution | 進化の不思議にせまる |

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業中に行う小テスト 40% 授業に対する積極性 10% 学期末考査 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず辞書を携帯すること。

語学は予習科目なので、必ず予習をして授業に臨む。予習段階で理解出来なかった部分を、授業で解決し理解度を100%に近づけて欲しい。授業中に更に理解出来ない部分が生じたらすぐに質問をして解決しよう。理解出来ない部分は、案外他の学生にも共通するので、臆せずに質問するように。予習ノートの作成を奨める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Level 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: course introduction
week 2 and week 3: unit 1, listening and discussion (multiculturalism)
week 4 and week 5: unit 2, DVD and reading (communicative responses)
week 6 and week 7: unit 3, listening and discussion, review of units 1-3 (socio-economic prospectives)
week 8 and week 9: unit 4, DVD and reading (divergence)
week 10 and week 11: unit 5, listening and discussion (internationalization)
week 12 and week 13: unit 6, DVD and reading, review of units 4-6 (globalization)
week 14 discussion and summary
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW & CLASSROOM ENGLISH PRACTICE
- 2 回 ASKING AND ANSWERING PERSONAL INFORMATION
- 3 回 EXPANSION ACTIVITY- PERSONAL INFORMATION
- 4 回 GREETINGS AND INTRODUCTIONS - FAMILIAR FRIENDS AND NEW AQUAINTANCES
- 5 回 ROLE PLAY/PRESENTATION
- 6 回 NAMES & TITLES - ADDRESSING PEOPLE IN BUSINESS AND SOCIAL SITUATIONS
- 7 回 CHECKING AND UNDERSTANDING NEW NAMES
- 8 回 EXPANSION ACTIVITY - NEW NAMES
- 9 回 OCCUPATIONS & WORKPLACES - JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 1 0 回 OCCUPATIONS ORAL QUIZ
- 1 1 回 DESCRIBING JOBS AND JOB RESPONSIBILITIES - I
- 1 2 回 JOBS AND JOB RESPONSIBILITIES - II
- 1 3 回 INTERNATIONAL BUSINESS MIXER
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Japanese/English Dictionary

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed before each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and on how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このコースでは主にTOEIC対策を行います。使用するテキストはTOEICの問題がドリル形式で構成されているもので、問題を数多くこなすことが狙いです。テキストは「解いて終わり」ではなく、「解いてからが始まり」です。この問題を間違えた理由は何か、どういう知識が足りなかったのか、どういう分野が弱いのか、などをしっかりと考えることで、自分の弱点と強みを認識することができます。そのことがより効果的な学習へとつながるでしょう。

学習した英語表現は繰り返し読んだり書くことによって確実に身につけて、「使える」状態にもっていきます。授業としてはこちらの方がメインの活動といえるでしょう。TOEICは日常生活やビジネスでのコミュニケーションに必要な表現の宝庫ですから、これを「解いて終わり」にしておくのはもったいないことです。TOEICの教材を使って、英語を使えるようにすることがこの授業の目標でもあります。

この授業は「英語の勉強」ではなく、むしろ「英語のトレーニング」です。厳しく、でも楽しくトレーニングをしていきましょう。受講生には英語トレーニングの楽しさを味わって欲しいと思います。口を動かし、手を動かし、耳をすまし、そしてよく考えましょう。

またその時に話題となっている英字新聞の記事やweb上の記事を読みます。

教科書 /Textbooks

- ①David E. Bramley / 中井弘一 『New steps to success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 2』 松柏社
- ②David E. Bramley / 中井弘一 『New Steps to success in the TOEIC Test Grammar & Reading 450』 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代に使用した文法の参考書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション：授業の進め方、成績評価の方法、グループ編成。必ず出席すること。
- 2 . ①のテキストの指定箇所
- 3 . ②のテキストの指定箇所
- 4 . ①のテキストの指定箇所
- 5 . ②のテキストの指定箇所
- 6 . ①のテキストの指定箇所
- 7 . ②のテキストの指定箇所
- 8 . ①のテキストの指定箇所
- 9 . ②のテキストの指定箇所
- 10 . ①のテキストの指定箇所
- 11 . ②のテキストの指定箇所
- 12 . ①のテキストの指定箇所
- 13 . ②のテキストの指定箇所
- 14 . ①のテキストの指定箇所
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常点 (提出物や予習状況など) : 30%
- 小テスト : 20%
- 定期試験 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

TOEICの目標スコアを明確にしておくこと。指定された箇所をしっかりと予習して授業に臨むこと。授業では予習段階で分からなかったところを解決するように努めること。辞書は必ず持ち込むこと。

履修上の注意 /Remarks

英語VII (営 2 - E) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Series 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: How was your summer holiday?
Week 2 and Week 3: Unit 7, listening and discussion (conceptualization)
Week 4 and 5: Unit 8, DVD and reading (simplification)
Week 6 and Week 7: Unit 9, listening and discussion, review of units 7-9 (communication)
Week 8 and Week 9: Unit 10, DVD and reading (modification)
Week 10 and Week 11: Unit 11, listening and discussion (debate)
Week 12 and Week 13: Unit 12, DVD and reading, review of units 10-12 (generalization)
Week 14: discussion and summary
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 営 2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book 2 by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99919-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NONE

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introductions, and course review
2. Topic: The Seasons
3. Topic: South African's Heroes
4. Topic: New Ageism Laws
5. Topic: Chaos in Asia
6. Topic: Marketing Stunt Creates Terror
7. Topic: Valentine's Day in the U.K
8. Topic: Coming Clean About Sweatshops
9. Topic: Adidas Agrees to Buy Rival
10. Topic: Ups and Downs
11. Topic: Surprise in the US Economy
12. Topic: Kylie Returns to Sydney
13. Topic: David Beckham in LA Move
14. Topic: Hillary Clinton and women we respect
15. Review
16. Final Speaking Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35%
Writing 15%
Participation 40%
Final Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

NONE

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - C) 【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 営 2 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework assignments will be required for each class.

履修上の注意 /Remarks

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (営 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW & CLASSROOM ENGLISH PRACTICE
- 2 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTIONS & COMMENTS
- 3 回 GIVING OPINIONS & EXPRESSING IDEAS
- 4 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR AND ANALYZING KEY WORDS
- 5 回 CRITICAL THINKING – AGREEING/DISAGREEING, POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 6 回 DISCUSSION & DEBATE – USING NUANCED LANGUAGE FOR DEBATE
- 7 回 DEBATE TOPIC 1 - PRACTICE
- 8 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENT
- 9 回 DEBATE TOPIC 2 – PRACTICE
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 2 - PRESENT
- 1 1 回 ORIGINAL DEBATE 1 – PREPARE
- 1 2 回 ORIGINAL DEBATE 1 - PRESENT
- 1 3 回 ORIGINAL DEBATE 2 - PREPARE
- 1 4 回 ORIGINAL DEBATE 2 - PRACTICE
- 1 5 回 ORIGINAL DEBATE 2 - PRESENT

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Japanese / English Dictionary

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	済営律政 3年					
対象入学年度 /Year of School Entrance			2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 3/American English Student Access』 (2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Making plans, and accepting and declining invitations
- 4回 Telling people news or gossip and responding
- 5回 Proposing ideas and responding, and convincing people to accept ideas
- 6回 Confirming that you know someone and responding
- 7回 Giving orders and making requests
- 8回 Talking about possibilities
- 9回 Keeping a conversation going and asking follow-up questions
- 10回 Expressing certainty and uncertainty
- 11回 Asking, giving, and denying permission and offering help
- 12回 Asking for and giving opinions
- 13回 Expressing and asking questions about necessity
- 14回 Requesting clarification and responding
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) ポイント説明
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 ポイント説明
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 ポイント説明
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 ポイント説明
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 ポイント説明
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 ポイント説明
- 12回 第七課 奈良(本文)
- 13回 第七課 ポイント説明
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 ポイント説明

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 ポイント説明
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 ポイント説明
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 ポイント説明
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 ポイント説明
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第一三課 ポイント説明
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 ポイント説明
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 ポイント説明
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 王 妮 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 妮 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第一三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 第1課 単語練習、聴解練習
 - 第2回 第1課 会話、作文練習
 - 第3回 第1課 場面の体験
 - 第4回 第2課 単語練習、聴解練習
 - 第5回 第2課 会話、作文練習
 - 第6回 第2課 場面の体験
 - 第7回 第3課 単語練習、聴解練習
 - 第8回 第3課 会話、作文練習
 - 第9回 第3課 場面の体験
 - 第10回 第4課 単語練習、聴解練習
 - 第11回 第4課 会話、作文練習
 - 第12回 第4課 場面の体験
 - 第13回 第5課 単語練習、聴解練習
 - 第14回 第5課 会話、作文練習
 - 第15回 第5課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

ビジネス単語、会話、ビジネス作文

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月
「体験漢語 - 公務編」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期
第1回 第6課 単語、聴解練習
第2回 第6課 会話、作文練習
第3回 第6課 場面の体験
第4回 第7課 単語、聴解練習
第5回 第7課 会話、作文練習
第6回 第7課 場面の体験
第7回 第8課 単語、聴解練習
第8回 第8課 会話、作文練習
第9回 第8課 場面の体験
第10回 第9課 単語、聴解練習
第11回 第9課 会話、作文練習
第12回 第9課 場面の体験
第13回 第10課 単語、聴解練習
第14回 第10課 会話、作文練習
第15回 第10課 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

ビジネス単語、会話、ビジネス作文

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点、終点】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (小テスト・課題・態度)、 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語IIIの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいぐらすか】【買い物】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해요체】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해요체】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해요체」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요체」のドリル、固有数字2【おいぐつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち表現】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ヘアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요】【~지 못했어요】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語で発表をする形で会話テストがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄹ不規則活用
- 3回 第9課 ㄹ不規則活用
- 4回 第10課 ㅎ不規則活用
- 5回 第10課 ㅎ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance:

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、シラバス紹介
2. インタビューする
3. インタビューする
4. 自己紹介する
5. 自己紹介する
6. 自己紹介する
7. 決まりを言う
8. 決まりを言う
9. 約束をする
10. 約束をする
11. 約束をする
12. 道案内をする
13. 道案内をする
14. 道案内をする
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人律政群
/Class 2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回体の具合を言う
- 10回体の具合を言う
- 11回体の具合を言う
- 12回勉強の仕方を話す
- 13回勉強の仕方を話す
- 14回勉強の仕方を話す
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈『ウリマル』、白帝社(2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級Ⅱ』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 つづりと発音 読んでみよう！ 挨拶をしてみよう！
- 2回 動詞の形（人称変化）、語順
- 3回 自己紹介をしてみよう！
- 4回 名詞の形1（1格）
- 5回 数字を使ってみよう！
- 6回 名詞の形2（4格）
- 7回 注文をしてみよう！
- 8回 名詞に付けて用いる語（所有冠詞など）
- 9回 趣味を尋ねてみよう！
- 10回 ニつ以上のものを表す表現（複数形）
- 11回 「いくつ？」と尋ねてみよう！
- 12回 名詞の形3（2格と3格）、人称代名詞
- 13回 感想を尋ねてみよう！
- 14回 名詞と一緒に用いる語（前置詞）
- 15回 時刻を尋ねてみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を話すことを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識及び理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会や文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 二つの部分に分かれる動詞（分離動詞）
- 2回 週末の予定を尋ねてみよう！
- 3回 動詞を従える動詞（話法の助動詞）/（未来形）
- 4回 電話をかけてみよう！
- 5回 過去のことを表す動詞の形（現在完了形）
- 6回 休暇に何をしたらか尋ねてみよう！
- 7回 形容詞の形（形容詞の格変化）
- 8回 誕生日や日付を尋ねてみよう！
- 9回 人や事物を比べる表現（比較級、最高級）
- 10回 何が一番好きか尋ねてみよう！
- 11回 「・・・される」ことを表す動詞の形（受動態）
- 12回 副文を作る接続詞（従属接続詞）
- 13回 話されている言語について尋ねてみよう！
- 14回 非現実的なことを表す動詞の形（接続法第2式）
- 15回 丁寧に頼んでみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』 熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにしたいと考えています。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく過程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればと思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

エスカパード! フランス語への旅 (CD)、ジャンニック・マーニュ 他著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 フランス語の挨拶 (名詞の性と数、冠詞)
- 3回 自己紹介 (主語人称代名詞、動詞être、形容詞〈1〉、否定文)
- 4回 年齢、趣味 (動詞avoir、疑問文、疑問形容詞)
- 5回 質問〈1〉 (第一群規則動詞、疑問代名詞)
- 6回 質問〈2〉 (疑問副詞、人称代名詞強勢形)
- 7回 ものや人の説明〈1〉 (形容詞〈2〉、指示形容詞)
- 8回 ものや人の説明〈2〉 (所有形容詞)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞)
- 10回 予定 (前置詞と定冠詞の縮約形、近接未来と近接過去)
- 11回 報告〈1〉 (第二群規則動詞、複合過去〈1〉)
- 12回 報告〈2〉 (複合過去〈2〉)
- 13回 時間と天候 (非人称構文)
- 14回 依頼 (命令法)
- 15回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%) を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また6月のフランス語検定5級以上の合格者には、最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期よりも高いレベルで基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を1学期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、それまでの学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

エスカパード！ フランス語への旅 (CD付き)、 ジャニック・ マーニュ 他 著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 贈り物〈1〉(補語人称代名詞)
- 第2回 贈り物〈2〉(中性代名詞)
- 第3回 日常の行動〈1〉(代名動詞)
- 第4回 日常の行動〈2〉(代名動詞の複合過去)
- 第5回 旅行(関係代名詞)
- 第6回 過去〈1〉(半過去)
- 第7回 過去〈2〉(複合過去と半過去、大過去)
- 第8回 復習と確認(フランス映画鑑賞)
- 第9回 未来の計画〈1〉(単純未来と前未来)
- 第10回 未来の計画〈2〉(比較級)
- 第11回 未来の計画〈3〉(最上級)
- 第12回 街中(現在分詞とジェロンデフ)
- 第13回 夢(条件法現在と過去)
- 第14回 感情表現(接続法現在と過去)
- 第15回 復習と確認(フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題(50%)、学期末試験の結果を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また11月のフランス語検定4級以上の合格者には、最低点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2520)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！2 -フランス美味探訪の旅-』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2625）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

Eメールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指す。

- 1回 アルザス地方への旅
- 2回 複合過去を使った表現
- 3回 半過去と大過去を使った表現
- 4回 ブルゴーニュ地方への旅
- 5回 関係代名詞を使った表現
- 6回 現在分詞・ジェロンディフを使った表現
- 7回 ローヌ・アルプ地方への旅
- 8回 受動態の表現
- 9回 強調構文
- 10回 プロヴァンス地方への旅
- 11回 条件法を使った表現
- 12回 接続法の表現
- 13回 ブルターニュ地方への旅
- 14回 間接話法と時制の一致について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランスの地方料理を巡る旅、フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1年時に習得した基礎文法を復習しながら、さらにフランス語表現力アップを目指します。同時にフランス社会や、その奥深い文化への知見を広げます。

教科書 /Textbooks

沼田五十六 他著 『カジュアルにフランス語2』（朝日出版社）2200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <avoir> を使う複合過去
- 2回 <etre> を使う複合過去
- 3回 代名動詞の復習
- 4回 代名動詞の複合過去
- 5回 中性代名詞の復習
- 6回 中性代名詞と人称代名詞
- 7回 単純未来
- 8回 前未来
- 9回 半過去の復習
- 10回 半過去と複合過去
- 11回 大過去
- 12回 現在分詞とジェロンディフ
- 13回 過去分詞のまとめ
- 14回 lecture (1)
- 15回 lecture (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の発音練習では不十分なので、各自練習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎文法から、いよいよ中級文法の習得を完成する。法（モード）を学ぶことによって、表現力が確実にアップする。

教科書 /Textbooks

沼田五十六 他著 『カジュアルにフランス語2』（朝日出版社） 2200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関係代名詞 qui,que,ou
- 2回 関係代名詞 dont
- 3回 時、理由を表す接続詞
- 4回 条件を表す接続詞
- 5回 条件法現在
- 6回 条件法過去
- 7回 接続法(1)
- 8回 接続法(2)
- 9回 直接話法と間接話法
- 10回 時制の一致
- 11回 単純過去
- 12回 手紙を書く
- 13回 lecture (1)
- 14回 lecture (2)
- 15回 知っておきたい動詞の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ドゥラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide.

Nous utiliserons comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents extérieurs authentiques (vidéos, textes, etc.).

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。語彙を増やし、ある程度のスピードでコミュニケーションがとれるよう、訓練することに重点を置きます。指定の教科書の他、様々な資料（テキスト、動画など）を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』（高橋百代、Nicolas Jégonday）三修社 2800 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Révisions des acquis de 1ère année 1年目の復習
- 2 - La communication en France フランスにおけるコミュニケーション
- 3 - Les salutations, se présenter (1) 挨拶、自己紹介 1
- 4 - Se présenter (2) 自己紹介 2
- 5 - Présenter quelqu'un 紹介する
- 6 - Les études et les loisirs 勉強と趣味
- 7 - La famille 家族
- 8 - Les objets 持ちもの
- 9 - La date et l'heure 日付と時刻
- 10 - L'expression du passé 過去の出来事
- 11 - L'expression du futur 未来の出来事
- 12 - Les expressions des jeunes 若者言葉
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide.

Nous utiliserons comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents extérieurs authentiques (vidéos, textes, etc.).

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を増やし、ある程度のスピードでコミュニケーションがとれるよう、訓練することに重点を置きます。指定の教科書の他、様々な資料（テキスト、動画など）を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』（高橋百代、Nicolas Jégonday）三修社 2800 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Les aliments 食品
- 2 - La météo 天候
- 3 - La ville et l'université 街と大学
- 4 - Se repérer dans l'espace 位置関係
- 5 - L'humour français (1) フランスのユーモア 1
- 6 - L'humour français (2) フランスのユーモア 2
- 7 - Les bandes dessinées フランスのマンガ
- 8 - Le cinéma français フランスの映画
- 9 - La chanson française フランスのシャンソン
- 10 - Les relations hommes-femmes 男と女の関係性
- 11 - La vie en France フランスでの生活
- 12 - La culture japonaise en France フランスでの日本文化
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19(含む1自治領)あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語(ローマ帝国の言語)を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見(1492年)以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずで、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』(第2版)
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス(共著)、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)
電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（第2版）青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気の表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの会話表現を学んでいきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音とアクセント
- 3回 発音、挨拶 「お願いします」
- 4回 定冠詞、不定冠詞、hay 「空港に銀行はありますか」
- 5回 -ar動詞、否定文、疑問文I 「スペイン語を話しますか」
- 6回 数字1-100、動詞estar 「タクシー乗り場は何処ですか」
- 7回 動詞ir, dar 「どこに行きましようか」
- 8回 疑問文II、前置詞a
- 9回 estarとhayのまとめ
- 10回 形容詞 「感じのいい人たち」
- 11回 ser動詞、ser/estarと形容詞 「私はスペイン人です」
- 12回 ser/estarまとめ、時間表現 「何時ですか」
- 13回 -er動詞、-ir動詞 新聞は何処で売っていますか」
- 14回 所有詞 「アントニオは私の友人です」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、数字100-100.000
- 2回 語根母音変化動詞 「お勤めは何ですか」
- 3回 指示詞 「この果物は何ですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、感嘆文
- 5回 gustar構文 「頭が痛い」
- 6回 不規則動詞 「兄弟が二人います」
- 7回 不定詞の用法 「日曜の予約をしたい」
- 8回 直接目的格人称代名詞 「君にそれをあげる」
- 9回 命令(！) 「もう一度質問しなさい」
- 10回 再帰動詞 「何時に起きますか」
- 11回 「もう行っちゃうの」
- 12回 自己紹介 「私は石田です」
- 13回 現在分詞
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 70% 日常の授業への取り組み ... 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度と同じテキストを使用します。(『コミュニケーションのためのスペイン語 三訂版』坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、2版(三訂版)
他、プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 自己紹介、その他不規則動詞
- 3回 現在分詞、不定語と否定語「スペイン語を勉強しています。」
- 4回 過去分詞、現在完了「どうしましたか？」
- 5回 ser・estarの受身「泥棒は警察に逮捕された」
- 6回 接続法現在の活用
- 7回 接続法、名詞節「できたらこの本を送ってほしい」
- 8回 点過去「昨日パエージャを食べた」
- 9回 se受身、se 無人称「アパート貸します」
- 10回 線過去「昨日食事をしていたとき・・・」
- 11回 命令「口をあけて」
- 12回 比較「マリアは私より背が高い」
- 13回 相対・絶対最上級「高すぎる！」
- 14回 DVDなど視聴覚教材
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIと同じテキスト『スペイン語でコミュニケーション 三訂版』(坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、三訂版2版)をそのまま使用します。
他、プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語VIIに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 関係詞「今朝来た人はなんていう名前？」
- 3回 関係副詞「バレンシアはよく米を食べる地域です」
- 4回 接続法の用法(形容詞節・副詞節)
- 5回 直説法未来「今度新しい車を買うだろう」
- 6回 直説法過去未来「昨日、今度新しい車を買うと言った」
- 7回 接続法過去「飛行機で旅行するよう勧めた」
- 8回 条件文「お金があったらもう一軒別荘を買うのに」
- 9回 短編教材と聞き取り
- 10回 短編教材と会話練習
- 11回 「自分の好きな有名人」
- 11回 「スペイン語圏で私が興味あること」
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。

文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。

そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。

また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協同で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくる

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。
文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。
そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。
また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協同で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を 1 / 3 以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指し、2つの授業内容を並行する。一つは、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。もう一つは、論理的な文章表現能力である。独りよがりの表現にならないようにするためには、コミュニケーションを通して課題発見解決能力と批判的思考力を共に育成することが欠かせない。

教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション - プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 授業オリエンテーション TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】	1回 授業オリエンテーション
2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】	2回 自己PR(1)【自分を伝える】
3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】	3回 自己PR(2)【情報を整理する】
4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】	4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】	5回 自己PR(4)【スピーチをする】
6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】	6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】	7回 ブックトーク(1)【情報を探す】
8回 「初級編」【マイセンテンス】	8回 ブックトーク(2)【情報を読んで伝える】
9回 「中級編」【パターンを見つける】	9回 ブックトーク(3)【アウトラインを書く】
10回 「中級編」【パターンを交差させる】	10回 ブックトーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】	11回 ブックトーク(5)【発表する】
12回 「中級編」【資料を使って論じよう】	12回 ブックレポート(1)【情報を引用する】
13回 「中級編」【経験から論じよう】	13回 ブックレポート(2)【内容を検討する】
14回 「中級編」【感想文を書こう】	14回 ブックレポート(3)【表現や形式を点検する】
15回 評価【学びを振り返る】	15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング デイバート TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指し、2つの授業内容を並行する。一つは、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。もう一つは、論理的な文章表現能力である。独りよがりの表現にならないようにするためには、コミュニケーションを通して課題発見解決能力と批判的思考力を共に育成することが欠かせない。

教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション - プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 授業オリエンテーション TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】	1回 授業オリエンテーション
2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】	2回 自己PR(1)【自分を伝える】
3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】	3回 自己PR(2)【情報を整理する】
4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】	4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】	5回 自己PR(4)【スピーチをする】
6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】	6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】	7回 ブックトーク(1)【情報を探す】
8回 「初級編」【マイセンテンス】	8回 ブックトーク(2)【情報を読んで伝える】
9回 「中級編」【パターンを見つける】	9回 ブックトーク(3)【アウトラインを書く】
10回 「中級編」【パターンを交差させる】	10回 ブックトーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】	11回 ブックトーク(5)【発表する】
12回 「中級編」【資料を使って論じよう】	12回 ブックレポート(1)【情報を引用する】
13回 「中級編」【経験から論じよう】	13回 ブックレポート(2)【内容を検討する】
14回 「中級編」【感想文を書こう】	14回 ブックレポート(3)【表現や形式を点検する】
15回 評価【学びを振り返る】	15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング デイバート TAE 身体を感じ

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Iに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Iに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1/3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Dでは、2つの授業目標を持つ。

まず、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

もう一つは、この授業では、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように推敲する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点を絞り、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

<小林担当分>『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)
<清水担当分>なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 オリエンテーション	1回 授業の目的及び必要性【知る】【課題の条件を確認する】
2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】	2回 レポートとは何か【論証型レポート】【根拠の大切さ】
3回 小論文②【アウトラインを書く】	3回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【思考マップ】
4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】	4回 情報をカード化する【情報の信頼性】【テーマを練る】
5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】	5回 目標を仮に規定する【情報の整理】
6回 講義を聞く①【新聞】	6回 目標を仮に規定する【絞る】【テーマを練る】
7回 講義を聞く②【まなごしの心理学】	7回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
8回 メモをとる【記号・略語】	8回 アウトラインを作る【組み立てる】
9回 発表の構成を知る【序・本・結】	9回 パラグラフライティング【中心文】
10回 発表を聞いてメモをとる①【グラフの読み取り】	10回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】	11回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】	12回 レポートの完成【文章の点検】【校正】
13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】	13回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】【練習】
14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】	14回 発表する【話し手】【聞き手】
15回 総括【自己評価・ピア評価】	15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30% 課題・レポート・発表...30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考 小論文 ノートテイキング シャドーイング

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Dでは、2つの授業目標を持つ。

まず、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

もう一つは、この授業では、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように推敲する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点を絞り、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

<小林担当分>『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)
<清水担当分>なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 オリエンテーション	1回 授業の目的及び必要性【知る】【課題の条件を確認する】
2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】	2回 レポートとは何か【論証型レポート】【根拠の大切さ】
3回 小論文②【アウトラインを書く】	3回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【思考マップ】
4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】	4回 情報をカード化する【情報の信頼性】【テーマを練る】
5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】	5回 目標を仮に規定する【情報の整理】
6回 講義を聞く①【新聞】	6回 目標を仮に規定する【絞る】【テーマを練る】
7回 講義を聞く②【まなごしの心理学】	7回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
8回 メモをとる【記号・略語】	8回 アウトラインを作る【組み立てる】
9回 発表の構成を知る【序・本・結】	9回 パラグラフライティング【中心文】
10回 発表を聞いてメモをとる①【グラフの読み取り】	10回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】	11回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】	12回 レポートの完成【文章の点検】【校正】
13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】	13回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】【練習】
14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】	14回 発表する【話し手】【聞き手】
15回 総括【自己評価・ピア評価】	15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30% 課題・レポート・発表...30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考 小論文 ノートテイキング シャドーイング

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、「歌舞伎」を日本語で学ぶことを通して、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を得る。歌舞伎に関する読み物を読み、歌舞伎鑑賞を行い、クラス内で議論し、レポートにまとめていく。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏・雄山閣出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 歌舞伎の歴史・江戸の町について
- 3回 歌舞伎鑑賞(1)【大序】
- 4回 登場人物造形(1)【高師直・若狭之助】
- 5回 歌舞伎鑑賞(2)【三段目】
- 6回 登場人物造形(2)【塩治判官】
- 7回 歌舞伎鑑賞(3)【四段目】
- 8回 切腹と武士道
- 9回 博多座6月大歌舞伎鑑賞
- 10回 振り返り
- 11回 忠臣蔵の世界観(1)
- 12回 忠臣蔵の世界観(2)
- 13回 現代日本を考える【インタビュー発表】
- 14回 歌舞伎と外国人・歌舞伎が外国へ与えた影響
- 15回 総括【文化継承の視点から私たちにできること】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

6月中に一度、博多座へ歌舞伎鑑賞に行きます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歌舞伎 日本文化 自文化

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 家根橋 伸子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本社会・文化事情についての様々なトピックを通して、前期「日本事情(人文)A」同様、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を育てる。前半は設定されたトピックについて資料の読み込み、ディスカッション、そこから得られた自身の考えを表現する活動を中心に行う。後半は受講者それぞれがトピックを見つけ、資料を用意し、それをクラスで検討し各自の考えを構築することを中心とする。この過程を通して一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得、さらに行動へと動き出す契機となることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

※資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業において紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 トピック1①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 3回 トピック1②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 4回 トピック2①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 5回 トピック2②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 6回 トピック3①：資料1講読・ディスカッション・記述1
- 7回 トピック3②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 8回 第2回～第7回の振り返り / 各自のトピック選定
- 9回 学生選定トピック1：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 10回 学生選定トピック2：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 11回 学生選定トピック3：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 12回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 13回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 14回 レポートピア評価
- 15回 レポートピア評価と総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料を前もって熟読し、自分の考えを持って授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一人一人が主体的に授業に参加することを求めます。発表やレポート記述では文法的な正しさより内容を重視します。

キーワード /Keywords

日本文化 日本社会 日本人 自文化

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回： 研究テーマの設定
- 第2回～第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回～第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回～第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回～第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回～第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回： 研究テーマの設定
- 第2回～第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回～第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回～第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回～第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回～第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回: 研究テーマの設定
- 第2回~第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回~第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回~第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回~第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回~第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回: 研究テーマの設定
- 第2回~第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回~第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回~第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回~第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回~第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回: 研究テーマの設定
- 第2回～第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回～第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回～第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回～第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回～第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回: 研究テーマの設定
- 第2回~第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回~第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回~第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回~第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回~第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回： 研究テーマの設定
- 第2回～第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回～第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回～第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回～第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回～第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回: 研究テーマの設定
- 第2回~第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回~第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回~第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回~第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回~第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)

- 第1回: 研究テーマの設定
- 第2回~第5回 研究デザインの設定、スケジューリング
- 第6回~第8回 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 第9回~第10回 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 第11回~第13回他のグループの研究に対する意見表明
- 第14回~第15回 Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

最初の授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周知な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：イントロダクション

第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表する。

* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。

出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがある。

第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。

* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。

テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

演習I【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、テキストを輪読しながら、演習IIの目的である、実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行うのに必要な基礎知識を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コンピュータを用いた経済、経営、株式分析、あるいはコンピュータソフトウェア作成を主なテーマとします。具体的な内容は一応株式分析投資プログラムの作成と検証としていますが、ゼミ生の希望を聞いてから決定します。内容案は株式投資ロボット(ソフト)作成、株価変動シミュレーション、経済政策の効果の分析、会社の経営状態の数値的分析などです。プログラミングや分析ソフトを利用しますが一応初歩から勉強しますので、パソコンやプログラミングが苦手でも努力する人であれば大丈夫だと思います。

演習Iでは、基礎的な知識を得ることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ②自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し説ける。
- ③社会に関する知識を用い、社会へ貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。
- ④グループ内で協力し、継続的に学習できる。

教科書 /Textbooks

未定(相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後に連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回:ゼミ運営方法、ゼミテーマ決定
- 第2回:報告、報告内容について議論1
- 第3回:報告、報告内容について議論2
- 第4回:報告、報告内容について議論3
- 第5回:報告、報告内容について議論4
- 第6回:報告、報告内容について議論5
- 第7回:報告、報告内容について議論6
- 第8回:報告、報告内容について議論7
- 第9回:報告、報告内容について議論8
- 第10回:報告、報告内容について議論9
- 第11回:報告、報告内容について議論10
- 第12回:報告、報告内容について議論11
- 第13回:報告、報告内容について議論12
- 第14回:報告、報告内容について議論13
- 第15回:報告、報告内容について議論14

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回に具体的な内容を決定しますので、授業の概要にあるような内容で、ゼミで具体的にどのようなことを勉強してみたいことがあれば考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席、遅刻厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業分析に必要なスキルの獲得を目指す。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①課題発見・分析・解決力および実践力(チャレンジ力):
有価証券報告書等の公表データの分析方法を習得し、企業分析の有用性を理解する。
- ②コミュニケーション力:
チームを組んで特定の課題に取り組む経験をする。
- ③プレゼンテーション力:
パワーポイントを使ったプレゼンテーション能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい文章」の技術』講談社
大津広一『会計と戦略思考力』日経ビジネス人文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ研究①
- 2回 グループ研究②
- 3回 グループ研究③
- 4回 グループ研究④
- 5回 グループ研究⑤
- 6回 グループ研究⑥
- 7回 グループ研究⑦
- 8回 グループ研究⑧
- 9回 グループ研究⑨
- 10回 グループ研究⑩
- 11回 グループ研究⑪
- 12回 グループ研究⑫
- 13回 グループ研究⑬
- 14回 グループ研究⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など)...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1・2年で学んだ経営学の基礎知識の復習、および、経営戦略論の基礎知識についての学習を目的とします。
本演習の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略、経営組織、人的資源管理に関する知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

『経営戦略の論理（第4版）』（伊丹敬之著）日本経済新聞社、2000円。
『ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）』（伊丹敬之・西野和美編著）日本経済新聞社、1900円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 基本事項の確認
 - 第3回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第4回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第5回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第6回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第7回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第8回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第9回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第10回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第11回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第12回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第13回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第14回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第15回 まとめ
- なお、上記以外に合宿での勉強会を実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年時からの科目、特に経営学系の科目の復習をしてからのぞむようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

2年次科目 経営戦略の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習I【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

UMLを用いたシステムの分析と設計について考える。
UMLの基本から始め、UMLを用いたシステム開発事例を調べることで、UMLのよい活用法について学ぶ。
既存のシステムに対する改善点を考え、UMLを用いて新しいシステムの設計、構築、評価を行う。
参加者の興味に応じて、テーマは変更してもよい。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミテーマの決定
- 2回～14回 報告、演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自でテーマをしっかりと考えておいて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習II～IVまで継続して履修し，個々の興味に従って実際にデータを取り，それを分析してまとめた卒業論文を書くことを前提としています．基本的には卒業論文でアンケート調査を行い，分析できるようになるための知識を身につけられるような内容にしたいと考えています．具体的な内容は，学生の興味，関心，能力等を確認した上で決定します．

この演習を通して，問題解決のための情報収集，処理，意思決定の過程を身につけてもらいたいと考えています．

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～5回 調査法の基礎
6～14回 データ解析手法の基礎
15回 まとめ

この他に，合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来年度以降に本科目の履修を希望する場合には，なるべく今年度のうちに「データ解析」を履修するようにしてください．

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の入門書を輪読しながら、質疑応答形式で進めていく。三年次では財務会計の基礎知識の修得に重点を置く。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

新井清光・川村義則『現代会計学』中央経済社、(2011年3月)、2,730円(当時)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会(2005年)、4,600円(当時)○
西澤健次『負債認識論』国元書房(2005年)、2,300円(当時)○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社(2012)、2,000円(当時)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会計の役割
- 3回 企業会計の仕組み
- 4回 会計公準
- 5回 会計原則
- 6回 資産の分類
- 7回 資産の評価基準
- 8回 繰延資産など
- 9回 負債会計
- 10回 負債の分類
- 11回 新しい負債
- 12回 純資産会計
- 13回 財務諸表の種類
- 14回 連結会計
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ゼミでは「新事業」をテーマにしています。地元はもとより、国内さらには世界で起こっているさまざまなことに問題意識を持ち、リスクを恐れずに果敢にチャレンジする人間になることを目指しています。

ゼミでは自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問して、現場を直に触れ、経営者や担当者の方々から生の声を聞くようにします。さらに必要に応じて、私自身が関与しています企業や行政機関などとの会議や研究会に出席して、実際の仕事がどのように執り行われているのか、体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション① (毎回2~3人が各自関心を持っていることを発表し、全員で意見交換)
- 3回 プレゼンテーション②
- 4回 視察① (北九州市内の企業や施設など)
- 5回 プレゼンテーション③
- 6回 プレゼンテーション④
- 7回 視察②
- 8回 プレゼンテーション⑤
- 9回 プレゼンテーション⑥
- 10回 視察③
- 11回 プレゼンテーション⑦
- 12回 プレゼンテーション⑧
- 13回 視察④
- 14回 プレゼンテーション⑨
- 15回 まとめ

※必要に応じて、企業や行政機関などとの会議や研究会、イベントに出席します。
※ゼミ合宿を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習姿勢・・・100%
結果ではなく、プロセス (取り組む姿勢) を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からいろいろなことに興味を持ち、行動するように心掛けて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな機会を提供しますので、自らの五感で感じて下さい。そして自分なりに評価して下さい。言い尽くされた格言ですが、「百聞は一見にしかず」「失敗は成功のもと」です。若い今の時期に、いろいろなことにチャレンジしてください。

演習I【昼】

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することがねらいです。ORは「経営の科学」です。ORが取扱う問題は、機械やコンピュータだけではどうしようもない、人間が介在する問題です。この問題を解決するための方法がORです。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC
松井泰子ら共著『入門オペレーションズ・リサーチ』2011年、東海大学出版会
藤原丈史著『新基準Javaプログラミング入門』2007年、SoftBank Creative

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大野勝久ら共著『Excelによる経営科学』2007年、コロナ社
堂田津耶乃著『Eclipse3ではじめるJavaプログラミング入門Eclipse3.3対応』2007年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

以下の方針で受講生と相談しながらすすめる。
<内容> コンピュータを使って問題解決を行う。
<方法> グループに分けグループゼミを行う。

1~3回 オリエンテーション
4~15回 ORに登場する問題と解決手法を理解し発表する。
【巡回セールスマン問題】【最短経路問題】【線形計画法】【待ち行列】

グループゼミでは協力して、発表者の担当テーマのレジюме作成、発表用資料を作成する。
ゼミではグループの相互交流とプレゼンテーションの場とする。
学習の一環として、ゼミ合宿を実施します。

<モットー> 楽しく、活発な議論で盛り上がる。
「まず、やってみよう」の精神を重んじる。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な受講態度、演習結果、及び報告内容等を総合的に評価する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生にお勧めのゼミです。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 アプリ開発

演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。演習Ⅰでは人的資源管理の基礎知識を習得することを目指します。したがって、入門的な教科書を1回で1章ずつ読み進めていく予定です。各回の報告者を割り当てますので、必ず報告してください。1学期あたり割り当てられる報告回数は未定です。文献講読のほか、可能な限り卒業論文の書き方や文献検索の方法についても概説したいと思っています。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社を教科書と指定しますので、必ず購入し毎回持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
白木三秀・梅澤隆(2011)『人的資源管理の基本』文真堂
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (第1回)ゼミの概要説明と報告者の割り当て
- (第2回)人的資源管理概論の講義
- (第3回~第14回)教科書の輪読、論文作成に関する説明
- (第15回)期末レポート課題の講評、および今後の研究の方向を考える

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50% 期末レポート...50%
※ただし、出席は毎回とることとします。出席率が低い場合には単位を認めない場合もあります。
※報告回数は受講者数に応じて変動します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究作成への第一歩として、人的資源管理論の網羅的な理解を目指すべき目標です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミで指定された本以外にも多くの本を読んでください。
途中回から全く出席なくなる人が過去にいましたが、その場合には当然ながら単位は認められません。
また、必要に応じて進路面談や就職活動状況の把握などを実施の予定です。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習I【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業の経営・マーケティング問題を分析的に解明し、妥当性の高い解決策を提案しうる能力と発表態度を身につけることを狙いとし、ケース討論を中心に行っていく。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤允一「問題構造学入門」ダイヤモンド社 等々

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～3回 オリエンテーション，基礎知識の確認
第4～6回 問題解決の考え方
第7～15回 グループ別ケース討論

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢や発表・レポート等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我が国の経済社会において、1990年代まで、六大企業集団が君臨し、支配していた。株式相互持合いというきわめて特異な手法で、集団を形成する様子は、戦前の財閥(大コンビネーションとよばれた)を彷彿とさせるものであった。この強力な支配構造は、次の理由で、瓦解していった。すなわち、バブル崩壊によって、株式相互持合いの維持は困難となった(持合いコストの非合理性)。同時に進行する世界的レベルでの大競争時代の到来は、既存の枠組みの根本的な再検討を迫るに十分であった。既存の集団のレベルでは、もはや対処できない大競争時代の到来であることを六大企業集団に知らしめたであろう。それ故、既存のシステムは、大転換を迫られるとともに、転換を達成すべき幾多の制度上の大改正を迫られた。

企業論・株式会社論のレベルにおいては、商法から会社法への制度転換や証券取引法から金融商品取引法への改正がみられる。また、企業形態そのものに即して言えば、戦後の企業社会におけるもうひとつの9条(持株会社の禁止)といわれた独禁法第9条を改正して、純粋持株会社をついに解禁した。1997年である。

かくして今や、日本の企業社会においては、その基底に持株会社解禁の寵児ともいうべきメガバンクが君臨するにいたっている。

演習では、わが国の経済社会が体験しつつある、この未曾有の大転換の中でも、この持株会社の解禁に焦点をあてて演習を展開していくことにする。演習Iでは、まず、企業形態論といわれる分野で展開されているアプローチにより、単純な企業形態から持株会社にいたるまでの理論展開の基礎を学習していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係の文献～下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(2006)〔○〕・小松章『企業形態論第3版』新世社(2006)〔○〕・ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)・上村達男・金見昭『株式会社はどこへ行くのか』日経(2007)
- 2、法律関係の文献～布井千博『会社法』2011・『会社法制の見直しに関する要綱の概要』別冊商事法務№372、2012

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態～私企業・公企業・公私混合企業の分類。【企業形態】
- 2回 公企業と公私混合企業～公企業の成熟・衰退および民営化。【民営化】
- 3回 私企業～私企業の分類。営利企業と非営利企業。【私企業】【営利企業】
- 4回 私企業(営利企業)の分類～法人企業と非法人企業。【法人企業】
- 5回 法人と自然人～法人・組合。組合的規律。【法人】【組合】
- 6回 会社～会社法上の会社。会社法上の会社の種類。【会社】【会社法】
- 7回 いわゆる人的会社と物的会社。人的資本会社。【人的会社】【物的会社】
- 8回 株式会社～公開株式会社と非公開株式会社。【公開】【非公開】
- 9回 公開(上場)・非公開(非上場)と会社法上の公開会社。【公開会社】
- 10回 会社機関～株主総会・取締役会・監査役会。【会社機関】
- 11回 企業間結合～企業間の集中。企業集団。【企業間結合】【企業集団】
- 12回 持株会社～持株会社の解禁。独禁法9条。【持株会社】【コンツェルン】
- 13回 二つの持株会社～純粋持株会社と事業持株会社。【純粋持株会社】【分社化】
- 14回 持株会社の機能～組織再編機能としての持株会社【持株会社の機能】
- 15回 まとめ(原則として期末試験を行う)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の実施状況を勘案して、原則として期末試験を実施するので、注意すること。
期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出題)...100%、ボーナスとしてレジュメの作成と報告...20%(この割合を100点満点で換算する)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、真摯なレジュメの作成と報告、②、わからないことを解明(理解)しようとする熱意、③、繰り返し読書する熱意、④、指定されたテキストは必ず用意すること

履修上の注意 /Remarks

演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別企業・会社法の会社・会社機関・企業集団・持株会社

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を論じ、経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考える。
- 2.習得した知識とスキルをもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を理解し、ファジイ関係による表現を学習する。
- 2.経済や経営に関するトピックを選び、人の好みのアンケートのデータを通して課題を分析する。
- 3.分析結果をまとめ、発表する力を養う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ファジイ集合とその応用」森北出版、西田俊夫、竹田英二著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 5回 基礎の学習：【不確実性】、【あいまい性の数理表現】、【ファジイ集合とファジイ関係】
 6回～ 7回 パソコンによる基礎的な計算
 8回～ 10回 基礎の学習：【ファジイ関係の基本性質】、【好みの数理表現と計算】
 11回～ 15回 アンケート作成の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基礎的なことから説明しますので、できる限り毎回毎回出席してください。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいですが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期の終わりからはグループでパソコン(エクセル)による簡単な計算を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジイ関係

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経営学に関する基礎知識・基礎情報の学習を材料として、「組織と個人の統合」について考えます。またその中で、全体を通じて、読み・書き・話す力をつけることを目指します。

到達目標は以下の通りです。

- ① 経営学に関する基礎知識を修得する。
- ② 組織と個人の統合を実現するための方策を考える思考力を身につける。
- ③ 読み・書き・話す力をつける。

教科書 /Textbooks

P.F.ドラッカー（上田惇生訳）『ネクストソサエティ』ダイヤモンド社，2002年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三井泉編『フォレット』文真堂，2012年(○)
- 三戸公『ドラッカー，その思想』文真堂，2011年(○)
- 三戸公『随伴の結果』文真堂，1994年(○)
- 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論[第3版]』有斐閣，2011年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読および議論
- 3回 文献輪読および議論
- 4回 文献輪読および議論
- 5回 文献輪読および議論
- 6回 文献輪読および議論
- 7回 文献輪読および議論
- 8回 文献輪読および議論
- 9回 文献輪読および議論
- 10回 文献輪読および議論
- 11回 文献輪読および議論
- 12回 文献輪読および議論
- 13回 文献輪読および議論
- 14回 文献輪読および議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度 ... 50% 報告内容・準備度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、「組織と個人の統合」に関する論文・文献を輪読します。各回一人ずつ担当を割り当て、レジメを作成し、報告を行ってもらう予定です。その報告を元に、全員で議論します。各自準備して臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

状況に合わせて臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

統合，責任，自由

演習I【昼】

担当者名 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

わが国は、人口の減少、急速な少子・高齢化の進展、経済のグローバル化に伴う産業構造の高度化、景気の停滞、中心市街地の空洞化、財政の悪化などをはじめ、地域社会の再構築、格差の是正、医療・福祉の強化など、さまざまな課題が山積している。私たちが暮らす社会には、中央政府、自治体などの公共セクター、企業セクター、市民セクターの3つのセクターから成り立っており、上記のような総合的かつ複雑な課題に対しては、3つのセクターが協働して取り組んでいくことが必要である。これまで公共の分野は公共セクター、すなわち「公務員が直接行う」というように理解されてきたが、「大きな政府」による財政負担、効率性が働かない「政府の失敗」、公共概念の多様化と変質などにより、公共を社会の人々がそれぞれ担うという「新しい公共」の概念や考え方が注目されている。そのため、それぞれのセクターの特性や歴史などを理解するとともに、地方自治体の制度や仕組み、組織文化などを十分に理解して、さまざまな団体や住民が協力し合って地域を運営していくことが重要である。そこで、この授業では公共性の意義、それぞれのセクターの特性と違い、社会の変化などについて議論し学ぶとともに、今後の「公共のあり方」である地方自治体を中心に公共の仕組みについて概観する。到達目標は、①公共の仕組みと特性の理解、②多様な公共主体の現状への理解である。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、適宜必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

P・F・ドラッカー 「非営利組織の経営」 ダイヤモンド社
島田恒 「NPOという生き方」 PHP新書
磯崎初仁等 「ホーンブック地方自治」 北樹出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 公共とは何かI
- 2 公共とは何かII
- 3 公共とは何かIII
- 4 公共について(発表・議論)
- 5 市民セクターI(公益法人、NPO含む)
- 6 市民セクターII
- 7 市民セクターIII
- 8 市民セクターについて(発表・議論)
- 9 企業セクターI(CSR, SRI、ソーシャルビジネスなど)
- 10 企業セクターII
- 11 企業セクターについて(発表・議論)
- 12 公共セクターI(中央政府、地方自治体、外郭団体など)
- 13 公共セクターII
- 14 公共セクターIII
- 15 公共セクターについて(発表・議論)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 60% 授業での議論 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜紹介する参考図書を事前に読むとともに、新聞報道記事等に問題意識を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

主に経営戦略論について発表とディスカッションをとおして学びながら、企業や経営を調査・分析する視点の習得を行います。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・黒岩健一郎・内田和成『1からの戦略論』2009,碩学社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合、随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ケースの輪読とディスカッション
- 第3回 教科書の輪読とディスカッション
- 第4回 教科書の輪読とディスカッション
- 第5回 教科書の輪読とディスカッション
- 第6回 教科書の輪読とディスカッション
- 第7回 教科書の輪読とディスカッション
- 第8回 教科書の輪読とディスカッション
- 第9回 教科書の輪読とディスカッション
- 第10回 教科書の輪読とディスカッション
- 第11回 教科書の輪読とディスカッション
- 第12回 教科書の輪読とディスカッション
- 第13回 教科書の輪読とディスカッション
- 第14回 教科書の輪読とディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・報告内容50%、日頃の取組状況50%
欠席・遅刻が多い場合は単位を認めません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の履修準備に一定の時間が求められる点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席、遅刻厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習は、会計学全般、なかでも財務会計論や会計監査論領域に亘る知識を蓄え、さらなる知見や考察を加えて論文等にまとめ発表する、学究活動を行うゼミナールである。履修者は日頃から新聞経済記事等に関心を抱き、また専門書に親しんで研鑽を積み重ねてほしい。研究テーマを自ら決定してそれに取組み、成果を文章群として形に残すという、学究的な姿勢を示してほしい。それこそが、今、大学においてのみ経験できる、貴重な体験となるはずである。

到達目標は、社会に出て活躍できる基礎力、なかんずく思考をまとめ、しっかりとした文章にし、報告できる力を身に付けることである。そうした力は、付焼き刃ではなく、地道な努力を積み重ねることで、はじめて得られるものである。

教科書 /Textbooks

特に教科書として指定するものはない。演習I,IIを通じて各人が収集した数多くの参考文献を適宜読み込み、またそれらを論文執筆の際の参考文献にしてほしい。なお指導教員から、参考まで、下記大学院マネジメント研究科にて用いているレジュメを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ACCOUNTING～IFRS水準の企業開示を理解するための諸論点～(北九州市立大学マネジメント研究科)を無償配布。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第3回 履修者の自己紹介と「ブレインストーミング」【ブレインストーミング】
- 第4回～第10回 会計学と会計監査論のトピックスとテーマ毎の学習【テーマ毎の学習】
- 第11回～第15回 履修者による発表と双方向コミュニケーション【双方向コミュニケーション】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率と受講の際の積極性40%、レポートの質40%、発表の内容20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記3級程度の簿記の基礎知識を確認しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席と、履修者の相互協力的態度が要めである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論、会計監査論、アカウンティング

演習II【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、受講者がファイナンスの基本的な理論をふまえて、実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行い、その分析結果を第三者に説得的に伝えるスキルを身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コンピュータを用いた経済、経営、株式分析、あるいはコンピュータソフトウェア作成を主なテーマとします。具体的な内容はゼミ生の希望を聞いて決定しますが、例えば株式投資ロボット(ソフト)作成、株価変動シミュレーション、経済政策の効果の分析、会社の経営状態の数値的分析などです。プログラミングや分析ソフトを利用しますが一応1から勉強しますので、パソコンやプログラミングが苦手でも努力する人であれば大丈夫だと思います。

演習IIでは、演習Iで身に付けた基礎的な知識を応用することを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ②自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し説ける。
- ③社会に関する知識を用い、社会へ貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。
- ④グループ内で協力し、継続的に学習できる。

教科書 /Textbooks

未定(相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：報告、報告内容について議論1
- 第2回：報告、報告内容について議論2
- 第3回：報告、報告内容について議論3
- 第4回：報告、報告内容について議論4
- 第5回：報告、報告内容について議論5
- 第6回：報告、報告内容について議論6
- 第7回：報告、報告内容について議論7
- 第8回：報告、報告内容について議論8
- 第9回：報告、報告内容について議論9
- 第10回：報告、報告内容について議論10
- 第11回：報告、報告内容について議論11
- 第12回：報告、報告内容について議論12
- 第13回：報告、報告内容について議論13
- 第14回：報告、報告内容について議論14
- 第15回：報告、報告内容について議論15

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Iで勉強したことを元により深い内容を勉強します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業分析に必要なスキルの獲得を目指す。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①課題発見・分析・解決力および実践力(チャレンジ力):
有価証券報告書等の公表データの分析方法を習得し、企業分析の有用性を理解する。
- ②コミュニケーション力:
チームを組んで特定の課題に取り組む経験をする。
- ③プレゼンテーション力:
パワーポイントを使ったプレゼンテーション能力を向上させる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい文章」の技術』講談社
大津広一『会計と戦略思考力』日経ビジネス人文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ研究①
- 2回 グループ研究②
- 3回 グループ研究③
- 4回 グループ研究④
- 5回 グループ研究⑤
- 6回 グループ研究⑥
- 7回 グループ研究⑦
- 8回 グループ研究⑧
- 9回 グループ研究⑨
- 10回 グループ研究⑩
- 11回 グループ研究⑪
- 12回 グループ研究⑫
- 13回 グループ研究⑬
- 14回 グループ研究⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習II【昼】

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ケース研究をつうじて経営分析の能力を身につけることを目的とします。
本演習の受講をつうじて、様々な企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略、経営組織、人的資源管理についての知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特になし。様々なメディアに掲載されているケース資料を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ケース研究および討議。
 - 第3回 ケース研究および討議。
 - 第4回 ケース研究および討議。
 - 第5回 ケース研究および討議。
 - 第6回 ケース研究および討議。
 - 第7回 ケース研究および討議。
 - 第8回 ケース研究および討議。
 - 第9回 ケース研究および討議。
 - 第10回 ケース研究および討議。
 - 第11回 ケース研究および討議。
 - 第12回 ケース研究および討議。
 - 第13回 ケース研究および討議。
 - 第14回 ケース研究。
 - 第15回 まとめ
- なお、受講生と相談のうえ、上記以外に企業訪問、工場見学なども実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Iで学んだ理論研究、ケース研究の復習をしておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

2年時科目の経営戦略の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、UMLを用いたシステムの分析、設計、構築、評価などを行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業研究に対するテーマを考えること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、アンケート調査を行い、データを分析し、それをまとめてプレゼンテーションできるようになるための基礎を身につけてもらいます。

この演習を通して、問題解決のための情報収集、処理、意思決定の過程を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～9回 マーケティング・サイエンスの教科書輪読
10～14回 質問紙調査の実習と発表練習
15回 まとめ

この他に、合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ解析」を未履修の学生は、同時に履修するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の入門書を輪読しながら、質疑応答形式で進めていく。三年次では財務会計の基礎知識の修得に重点を置く。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

新井清光・川村義則『現代会計学』中央経済社、2,730円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,690円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社(2012)、2,000円(当時)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 損益会計の意義
- 2回 営業収益と営業費用
- 3回 営業外損益と特別損益
- 4回 財務諸表の種類
- 5回 財務諸表の作成方法
- 6回 連結財務諸表
- 7回 実現概念の検討(1)
- 8回 実現概念の検討(2)
- 9回 企業会計原則(1)
- 10回 企業会計原則(2)
- 11回 企業会計基準(1)
- 12回 企業会計基準(2)
- 13回 企業会計基準(3)
- 14回 財務報告のあり方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% 課題 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問して、現場を直に触れ、経営者や担当者の方々から生の声を聞くようにします。さらに必要に応じて、私自身が関与しています企業や行政機関などとの会議や研究会に出席して、実際の仕事がどのように執り行われているのか、体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレゼンテーション① (毎回2~3人が各自関心を持っていることを発表し、全員で意見交換)
- 2回 プレゼンテーション②
- 3回 視察① (北九州市内の企業や施設など)
- 4回 プレゼンテーション③
- 5回 プレゼンテーション④
- 6回 視察②
- 7回 プレゼンテーション⑤
- 8回 プレゼンテーション⑥
- 9回 視察③
- 10回 プレゼンテーション⑦
- 11回 プレゼンテーション⑧
- 12回 視察④
- 13回 プレゼンテーション⑨、卒業研究のテーマ検討①
- 14回 プレゼンテーション⑩、卒業研究のテーマ検討②
- 15回 まとめ

※必要に応じて、企業や行政機関などとの会議や研究会、イベントに出席します。
※終盤で卒業研究のテーマを検討します。

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習姿勢・・・100%
結果ではなく、プロセス (取り組む姿勢) を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からいろいろなことに興味を持ち、行動するように心掛けて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やろうか、やるまいか、迷ったときは、やって下さい。何もしなければ、何も得ることができません。何かすれば、必ず得るものがあります。こじんまり纏ろうとせず、リスクを好んで受け入れて下さい。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することがねらいです。ORが扱う問題は、機械やコンピュータだけではどうしようもない、人間が介在する問題です。この問題を解決するための方法がORです。ORで取り扱う問題を情報技術を用いてアプリケーションを作成する能力を育成します。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC
松井泰子ら共著『入門オペレーションズ・リサーチ』2011年、東海大学出版会
藤原丈史著『新基準Javaプログラミング入門』2007年、SoftBank Creative

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大野勝久ら共著『Excelによる経営科学』2007年、コロナ社
掌田津耶那著『Eclipse3ではじめるJavaプログラミング入門Eclipse3.3対応』2007年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)
以下の方針で受講生と相談しながらすすめる。
<内容> 問題解決のテーマ (卒業論文のテーマ) を見つける。身近な問題を解決するプログラムを作成。
<方法> グループごとに、テキストに沿って、Javaプログラミング技術を習得する。
また、演習Iで学習したOR手法をプログラミングしてみる。
1~15回 ゼミの時間はプレゼンテーションの場とし、卒業研究のテーマについて受講者の研究発表。
【OR】 【環境問題】 【社会問題】
グループゼミでは卒業研究のテーマに沿って、プログラム開発や調査報告を行う。
調査見学旅行も予定
<モットー> 楽しく、活発な議論で盛り上がる。
「まず、やってみよう」の精神を重んじる。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 課題...50% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な受講態度、演習結果、及び報告内容等を総合的に評価する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生にお勧めのゼミです。iPhoneやAndroid携帯などスマートフォン上で動くアプリを作成します。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。演習IIでは、前半7回程度を卒業研究の作成方法概説にあて、後半8回程度は、各自で関心のあるテーマについて報告してもらう予定です。ただし、教科書の進み具合やゼミ人数を勘案し、かつゼミ生からの意見も踏まえた上で、ゼミの進め方を変更する可能性があります。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、下記の教科書に関心のあるものがあれば各自入手しておいてください。卒業研究で大いに参考になると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に用いる本とは別に、このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
 今野浩一郎・佐藤博樹(2009)『人事管理入門(第2版)』日本経済新聞社。
 Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
 卒業研究の作成過程(たとえば問題・テーマの設定、資料収集の方法、理論構築など)について段階を追って説明します。
 (第8回～第15回)
 各自の関心のあるテーマを自由に報告してもらう予定です。具体的には、卒業研究のテーマを念頭においた報告を課します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50% 期末レポート...50%
 ※ただし、出席は毎回とることとします。出席率が低い場合には単位を認めない場合もあります。
 ※報告の回数は受講者数により変動します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。また、毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。ゼミ内では卒業研究に向けた報告を行なってもらいますが、報告にあたっていない人も建設的なコメントを発するようにしてください。頭ごなしに他人の研究テーマを否定するようなコメントは控えましょう。

履修上の注意 /Remarks

本科目は必修科目であるから、各自がゼミ報告を行なう回以外の回においても、真剣な予習と復習を行なうことが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目の履修を通じて研究方法の基本から応用までを学んでいただきたい。適宜英文テキストも読みましょう。また、演習IおよびIIで人的資源管理に詳しくなっておけば、卒業研究の作成が大いに楽になるはず。また研究とは別ですが、就職活動開始時期にあたりますので、進路面談を時期の良いときに実施したいと考えています。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習II【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業の経営・マーケティング問題を分析的に解明し、妥当性の高い解決策を提案しうる能力と発表態度を身につけることを狙いとし、ケース討論を中心に行っていく。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤允一「問題構造学入門」ダイヤモンド社 等々

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～10回 グループ別ケース討論
第11～15回 卒論準備

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢や発表・レポート等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、企業形態論といわれる分野で展開されているアプローチにより、様々な企業形態を、単純な企業形態から株式会社そして持株会社にいたるまでを俯瞰した。そして、同時にいかなる論理によって、かかる持株会社が生誕（解禁）していくのかについて学習した。

演習IIでは、持株会社に関わる固有の問題（持株会社の定義・持株会社の機能・持株会社とガバナンスに関する基礎）についてさらに学習していく。

教科書 /Textbooks

①下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店（2009年）、②下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣、2006と③小松章『企業形態論第3版』新世社、2006。以上の3冊を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係～ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年、およびコーポレートガバナンスに関する文献。
- 2、法律関係～会社法制改正に関する文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習Iの復習と今後の課題についての確認
- 2回 持株会社解禁の背景～何故、純粋持株会社は解禁されたのか？【持株会社解禁】
- 3回 同上
- 4回 持株会社の定義～持株会社禁止類型と持株会社の定義。【持株会社の定義】
消えた持株会社～持株会社規制の転換。
- 5回 同上
- 6回 持株会社の機能～持株会社のふたつの機能（業界再編機能と組織再編機能）。
M & Aの代替ツールとしての持株会社。【企業再編】
- 7回 同上 8回 同上 9回 同上
- 10回 分社と企業結合～日本企業の歴史からする持株会社解禁の再検討。
【分社】【企業結合】【企業集団】【事業持株会社】
- 11回 同上 12回 同上
- 13回 持株会社とコーポレートガバナンス～持株会社にガバナンスは機能しているのか。
【コーポレートガバナンス】
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の状況を勘案して、原則として期末試験を実施する。

期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出题)...100%、ボーナスとしてレジユメの作成と報告...20%（この割合を100点満点で換算する）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、指定されたテキストの用意、②、真摯なレジユメの作成と報告、③、わからないことを解明（理解）しようとする熱意、④、繰り返し読書する熱意。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持株会社解禁・持株会社の機能・持株会社とガバナンス

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を論じ、経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考える。
- 2.習得した知識とスキルをもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を理解し、ファジイ関係による表現を学習する。
- 2.経済や経営に関するトピックを選び、人の好みのアンケートのデータを通して課題を分析する。
- 3.分析結果をまとめ、発表する力を養う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ファジイ集合とその応用」森北出版、西田俊夫、竹田英二著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 7回 好みの表現とアンケート作成
8回～ 15回 アンケート集計と分析

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取組み・・・ 80%
課題・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にはできる限り毎回出席してください。グループでパソコン(エクセル)による簡単な計算を行います。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいですが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジイ関係

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

専門演習Iに引き続き、「組織と個人の統合」について考えます。本演習では、「統合」に焦点を合わせて考えていきます。

到達目標は以下の通りです。

- ①専門演習Iで学んだ知識の応用力をつける。
- ②読み・書き・話す力をつける。

教科書 /Textbooks

特になし。論文をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)

M.P.フォレット(米田清・三戸公訳)『組織行動の原理 動態的管理[新装版]』未来社、1997年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読および議論
- 3回 文献輪読および議論
- 4回 文献輪読および議論
- 5回 文献輪読および議論
- 6回 文献輪読および議論
- 7回 文献輪読および議論
- 8回 文献輪読および議論
- 9回 文献輪読および議論
- 10回 文献輪読および議論
- 11回 卒業論文準備
- 12回 卒業論文準備
- 13回 卒業論文準備
- 14回 卒業論文準備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度 ... 50% 報告内容・準備度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、「組織と個人の統合」に関する論文・文献を輪読します。各回一人ずつ担当を割り当て、レジメを作成し、報告を行ってもらう予定です。その報告を元に、全員で議論します。各自準備して臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

状況に合わせて臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

統合, 責任, 自由

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、中央政府及び地方自治体の基礎的な仕組みの理解を深めていくとともに、公共の役割の時系列的な変化と現時点における実情と今後の方向について検討する。
主に中央政府の動きや北九州市を取り上げて、個別具体的な政策について調査検討を進めて議論することとする。
演習IIでは、自治体経営を行うに当たって必要になる地方自治制度の基礎的な理解を深めることを主な目的とするが、地方制度調査会など政府の地方分権に関する動きや名古屋市や阿久根市、大阪府などの首長と議会の対立などの地域における動向もフォローしながら、自治体経営の現状と今後の展望について授業を行う。
講義の目標は、①自治体の意思決定や行動の仕組み、②具体的な地方自治体などをケースにしての課題や動向の理解、である。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、適宜必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山口道昭 「入門地方自治」 学陽書房
岡本全勝 「地方自治入門」 時事通信社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地方自治の仕組みI (全体骨格)
- 2 地方自治の仕組みII (組織体制、行政)
- 3 地方自治の仕組みIII (組織体制、行政)
- 4 地方自治の仕組みIV (議会)
- 5 地方自治の仕組みV (議会)
- 6 事例の検討 (発表・議論)
- 7 地方自治 (公務員制度I)
- 8 地方自治 (公務員制度II)
- 9 地方自治 (財政制度I)
- 10 地方自治 (財政制度II)
- 11 地方自治 (財政制度III)
- 12 事例の検討 (発表・議論)
- 13 地方分権I
- 14 地方分権II
- 15 地方を巡る国や地方の動き (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 60% 授業での議論 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜紹介する参考図書を事前に読むとともに、新聞記事等に問題意識を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

主に経営戦略論について学びながら、企業や経営を調査・分析する視点の習得を行います。また、4年次の卒業論文執筆にむけて、各自のテーマ設定およびグループ研究をとおした調査リテラシー向上についても進めていきます。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・黒岩健一郎・内田和成『1からの戦略論』2009,碩学社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合、随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教科書の輪読とディスカッション
- 第3回 教科書の輪読とディスカッション
- 第4回 各自のテーマ報告
- 第5回 グループ研究活動について
- 第6回 グループ研究活動(1)
- 第7回 グループ研究活動(1)
- 第8回 グループ研究活動(1)
- 第9回 グループ研究活動(1)
- 第10回 グループ研究活動(2)
- 第11回 グループ研究活動(2)
- 第12回 グループ研究活動(2)
- 第13回 グループ研究活動(2)
- 第14回 各自のテーマ報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・報告内容50%、日頃の取組状況50%
欠席・遅刻が多い場合は単位を認めません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の履修準備・各活動に一定の時間が求められる点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、本演習は、会計学全般、なかでも財務会計論や会計監査論領域に亘る知識を蓄え、さらなる知見や考察を加えて論文等にまとめ発表する、学究活動を行うゼミナールである。演習Iで得た知識をベースに、研究テーマ毎の知識を、さらに深く学び、卒論テーマの種を見つけることが大事になる。

履修者は日頃から新聞経済記事等に関心を抱き、また専門書に親しんで研鑽を積み重ねてほしい。研究テーマを自ら決定してそれに取組み、成果を文章群として形に残すという、学究的な姿勢を示してほしい。それこそが、今、大学においてのみ経験できる、貴重な体験となるはずである。

到達目標は、社会に出て活躍できる基礎力、なかんずく思考をまとめ、しっかりとした文章にし、報告できる力を身に付けることである。そうした力は、付焼き刃ではなく、地道な努力を積み重ねることで、はじめて得られるものである。

教科書 /Textbooks

特に教科書として指定するものはない。演習I, IIを通じて各人が収集した数多くの参考文献を適宜読み込み、またそれらを論文執筆の際の参考文献にしてほしい。なお指導教員から、参考まで、下記大学院マネジメント研究科にて用いているレジユメを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ACCOUNTING~IFRS水準の企業開示を理解するための諸論点～(北九州市立大学)を引き続き使用。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第5回 個々の企業活動に言及している経済記事を読み、経営分析的情報を得る【企業経営分析】
- 第6回～第10回 演習Iで選んだテーマの見直しと深掘り【研究テーマ】
- 第11回～第15回 研究レポートの執筆と発表【研究レポート】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席率と積極性40%、研究レポートの質40%、研究プレゼンテーションの出来20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記3級、さらには2級合格を目指してほしい。同時に、就職活動に臨む自分の考えを確立できると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席率を維持することが大事である。

キーワード /Keywords

財務会計論、会計監査論、経営分析、アカウンティング

経営学入門【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

経営学入門【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。
準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 営1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 営 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 営 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【コンピュータ用語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係～①下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)〔○〕・②下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(2006年)〔○〕・③下谷正弘『持株会社解禁』中央公論社、(1996年)・④ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)
- 2、法律関係～①岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、(2012年)〔○〕・②日本の会社制度に関わる資料集として、落合誠一編『会社法Visual Materials』有斐閣、2011〔○〕。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1回 企業形態と会社 | 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】 |
| 2回 企業形態の分布 | 【税務統計からみた法人企業の実態】 |
| 3回 私企業1 | 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】 |
| 4回 私企業2 | 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】 |
| 5回 私企業3 | 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】 |
| 6回 株式会社制度1 | 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】 |
| 7回 株式会社制度2 | 【企業のファイナンス】【直接金融】【間接金融】 |
| 8回 株式会社制度3 | 【株式所有構造】【株主行動の変化】 |
| 9回 株式会社の国際比較1 | 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】 |
| 10回 株式会社の国際比較2 | 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】 |
| 11回 企業統治1 | 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】 |
| 12回 企業統治2 | 【取締役会の改革と会社経営者】 |
| 13回 持株会社の解禁 | 【独禁法】【企業集団】【持株会社】 |
| 14回 株式会社の社会的責任 | 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとしての小テスト...20% (この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつけない。
- ②、現実の日本企業に関心をもつこと。
- ③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。
- ④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

演習III 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習III~IVでは演習I~IIで学んだことを元に、各自テーマを決めて卒業論文、卒業作品に向けて研究を進めます。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ②自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し説ける。
- ③社会に関する知識を用い、社会へ貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。
- ④グループ内で協力し、継続的に学習できる。

教科書 /Textbooks

テーマごとに相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマごとに連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：テーマ報告
- 第2回：研究経過報告1
- 第3回：研究経過報告2
- 第4回：研究経過報告3
- 第5回：研究経過報告4
- 第6回：研究経過報告5
- 第7回：研究経過報告6
- 第8回：研究経過報告7
- 第9回：研究経過報告8
- 第10回：研究経過報告9
- 第11回：研究経過報告10
- 第12回：研究経過報告11
- 第13回：研究成果報告1
- 第14回：研究成果報告2
- 第15回：研究成果報告3

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

どのようなテーマで研究するか決めておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業研究の指導を行う。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①課題発見・分析・解決力および実践力(チャレンジ力):
有価証券報告書等の公表データの分析方法を習得し、企業分析の有用性を理解する。
- ②プレゼンテーション力およびコミュニケーション力:
アイデアを筋道立てて説明できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究指導①
- 2回 卒業研究指導②
- 3回 卒業研究指導③
- 4回 卒業研究指導④
- 5回 卒業研究指導⑤
- 6回 卒業研究指導⑥
- 7回 卒業研究指導⑦
- 8回 卒業研究指導⑧
- 9回 卒業研究指導⑨
- 10回 卒業研究指導⑩
- 11回 卒業研究指導⑪
- 12回 卒業研究指導⑫
- 13回 卒業研究指導⑬
- 14回 卒業研究指導⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など)...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業研究の作成を通じて経営学・経営戦略論の知識の総仕上げをします。
本演習の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略、経営組織、人的資源管理についての知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文作成の基本知識習得のための文献講読。
- 第3回 同上。
- 第4回 同上。
- 第5回 同上。
- 第6回 同上。
- 第7回 同上。
- 第8回 同上。
- 第9回 学生による卒業研究発表。
- 第10回 学生による卒業研究発表。
- 第11回 学生による卒業研究発表。
- 第12回 学生による卒業研究発表。
- 第13回 学生による卒業研究発表。
- 第14回 学生による卒業研究発表。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習I・IIで学習した理論研究、ケース研究の復習をしておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習I・II(テーマ 経営戦略)を履修し、経営戦略論に関する基本知識を取得した学生に限る。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習III 【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習I、IIに引き続き、各自のテーマに従ってネットワークの構築、プログラムの作成などを行う
また、卒業研究に向けて設定したテーマに対する資料収集などを行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、アンケート調査を行い、データを分析し、それをまとめてプレゼンテーションできるようになるための基礎を身につけてもらいます。

この演習を通して、問題解決のための情報収集、処理、意思決定の過程を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～6回 卒業論文のテーマを決めるための先行研究調査、発表。
- 7～10回 卒業論文のテーマ決定、調査計画の設定。
- 11回～14回 質問紙の作成。
- 15回 まとめ

この他に、合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来年度以降に本科目の履修を希望する場合には、なるべく今年度のうちに「データ解析」を履修するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

これまでに大学で学んだ知識を用いて、各自の問題意識に基づいた卒業研究に取り組み、その途中経過を発表してもらう。また、受講生の卒業研究論文の執筆に有用な本の輪読も同時に行う。この演習（卒業研究）を通じて、各人がそれぞれの視点から問題を設定し、自分なりに考えることができるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks

適宜、指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(演習の進め方)
- 2回～15回 卒業研究の経過発表, 輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究の発表...40% 他者へのコメント...30% 輪読のレジュメ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にしても、輪読にしても準備には相当の時間が求められる。
また、輪読のレジュメは、受講生全員が毎回用意しなければならないことに注意されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 演習
/Class Format

演習

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の中級・上級書を輪読しながら質疑応答形式で進めたい。併せて卒業論文作成のための指導も行う。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』(中央経済社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各回で、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社(2012)、2,000円(当時)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業研究報告
- 3回 論文輪読
- 4回 卒業研究報告
- 5回 論文輪読
- 6回 卒業研究報告
- 7回 論文輪読並びにまとめ
- 8回 卒論研究報告
- 9回 論文の形式について
- 10回 卒論研究報告
- 11回 論文の形式について
- 12回 卒論研究報告
- 13回 論文輪読
- 14回 卒論研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、卒業研究の作成を通じて、以下の点の修得を目指します。

- ①経営学に関する専門知識
- ②問題意識をもつ能力
- ③調べる能力
- ④起承転結のある文章を作成する能力
- ⑤議論する能力

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 資料を読んで各自報告、それを基に議論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 卒業研究構想中間発表
- 第14回 卒業研究構想中間発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50% 発表・報告内容 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Iで輪読したテキストを再読し、演習IIで決定した必読文献を読み込んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に進めていく予定ですので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

統合、随伴的結果、経営組織

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することが狙いです。問題は経済、経営、環境、情報など様々な分野の問題を取り扱いたいと考えています。卒業論文提出を必修とします。

教科書 /Textbooks

テーマにあわせて適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマにあわせて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

以下の方針で受講生と相談しながら個別指導。

<内容> 卒業研究のテーマに沿って、調査・開発を進める。

<方法> 卒論を書くための、【研究計画】を立てる。

1~15回 テーマの中から興味のある分野について、文献調査やプログラム開発と行い、発表する。

【OR】、【情報】、【Java】、【システム】、【経済問題】、【環境問題】

適宜、進捗を報告してもらう。

期末に【卒業論文中間発表会】を行う。

<モットー> 創造力を働かせ、楽しく、けじめをつけてやる。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文中間発表

日常の授業への取り組み...10% 課題...50% 発表...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習IIで決めた卒業研究のテーマに関して、参考文献を3つ以上紹介してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究題目を必ず提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生生活の集大成となる卒業研究のため、面白いテーマを探しましょう。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 環境問題 経済問題 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

演習III 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (= キャリア)、人と組織の能力を引き出す (= 人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。演習IIIでは、演習Iならびに演習IIで得た知識をもとに、当該領域における応用的内容を含む文献を読解する予定です。それと並行して卒業研究の作成を本格的に開始してもらう予定です。卒業研究は必修科目であることから、演習IIIおよびIVの両方をセットで修得することを学生諸君にはお願いします。なお、4年次は就職活動の時期と重なるので、報告の内容や日程についてはゼミ生の意見を聞きつつ決定します。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、適宜論文またはプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
 岩出博(2010)『Lecture人事労務管理』泉文堂。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
 演習IIに引き続き、研究の進め方について実証研究を例として説明します。
 並行して各自の研究テーマに関連する論文を講読します。

(第8回～第15回)
 各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらう予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 50% 期末レポート... 50%
 ※就職活動と重なる時期なので、出席状況は参考程度にとどめる。活動に支障のない限り出席し、欠席の際は事前に連絡することが望ましい。
 ※報告回数は受講者数により変動します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。毎週のゼミに備え各自で独習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習IIIおよびIVの単位と、卒業研究の単位は別であることに注意すること。それぞれの科目について履修登録を行なうようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動の期間と重なる人も多いとは思いますが、空いた時間を最大限に活用して卒業研究の作成に取り掛かってください。
 就職活動に参加した証明書がある場合は出席扱いとします(このルールについてはゼミ内で説明します)。
 就職活動の進捗状況を把握する調査を行ないます(個別面談含む)ので、そのとき全員回答してください。内定を得た時にはキャリアセンターだけでなく教員まで知らせてください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理

演習III 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、広く現代企業の経営問題について（マーケティングに限らなくてよい）各自がテーマを選定し、卒業論文として研究・報告発表することを主な内容とする。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自にアドバイスを行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～10回 卒論中間発表
第11～15回 グループ別ケース討論

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢と卒業論文の内容・発表等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を論じ、経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考える。
- 2.習得した知識とスキルをもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を理解し、ファジィ関係による表現を学習する。
- 2.経済や経営に関するトピックを選び、人の好みのアンケートのデータを通して課題を分析する。
- 3.分析結果をまとめ、発表する力を養う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 7回 卒業研究に向けたテーマの設定
8回～ 15回 アンケートの改良と作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループでパソコン(エクセル)による作業を行いますから、できる限り毎回出席してください。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジィ関係

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒論のテーマにしたがって参考文献・調査資料のレビュー - に取り組み、先行研究の整理と課題の抽出はもとより、考察(意見の記述)の仕方を総合的に検討する。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、必要な文献を提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～5回 文献の精読
- 6回～8回 論点(記述内容)の整理と考察すべき課題の明確化
- 9回～10回 論文作成に向けて構想(テーマ、フレームワーク、スケジュール等)をかためる
- 11回～13回 考察(意見の記述)に伴う思考方法についての検討
- 14回～15回 論文作成(書き方)についての確認・報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業計画に基づき(Q&A含む)、100%評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究テーマに関連する専門誌、新聞記事などの収集。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、演習IIに引き続いて、受講者が実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行い、その分析結果を第三者に説得的に伝えるスキルを身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

【テーマ】「新事業」

【問題意識】わが国においては、長引くデフレによる消費の抑制、少子化による購買人口の減少など、ビジネスを取り巻く環境はネガティブな状況にある。一方、原子力発電に代わる再生可能エネルギーの導入、高齢化社会の到来など、新たなビジネスを生み出すポジティブな環境も生まれ始めている。このような状況にあって、企業は成長するために、また生き残っていくために、絶えず新たな事業を展開していかなければなりません。

【実施内容】今後成長が期待される新たな事業や産業を見出し、実状や課題を把握した上で、ビジネスプランを作成します。具体的には、まず今後成長が期待される事業や産業をさまざまな視点から発掘し、これらを取り巻く状況を調査した上で課題及び成長の可能性を整理します。次に事業化に向けてターゲットを絞り込み、市場動向を詳細に調査した上で差別化を図ります。最後に採算性や資金調達などを検討し、ビジネスプランとしてまとめます。

【ねらい】以上のプロセスをとおして、これまで学んできた経営学の総決算を図り、さらに企業において事業計画を立案できる実践的な人材を育成します。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 調査研究計画作成①
- 3回 調査研究計画作成②
- 4回 調査研究計画発表①
- 5回 調査研究計画発表②
- 6回 進捗状況報告①
- 7回 進捗状況報告②
- 8回 進捗状況報告③
- 9回 進捗状況報告④
- 10回 進捗状況報告⑤
- 11回 進捗状況報告⑥
- 12回 進捗状況報告⑦
- 13回 中間発表準備
- 14回 中間発表会①
- 15回 中間発表会②

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習態度・・・100% 結果ではなくプロセス(取り組む姿勢)を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来春からの会社生活に備えて、相手に分からせることを意識して資料の作成や発表・報告を行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動で心身ともに追い詰められている中で、調査研究を行うことは大変なことです。調査研究の成果は、大学生活4年間の学習の集大成(証)になります。卒業して5年、10年経ったときに自信を持って振り返ることができるように、自分自身が納得できるものにして下さい。

演習III 【昼】

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業研究成果物の作成を通じて経営学、国際経営領域に関する学習の総仕上げをします

教科書 /Textbooks

改めて指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究成果物作成に関わる基礎知識を習得するための必要文献の講読
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第8回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第9回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第10回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第11回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第12回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第13回 学生による卒業研究作成構想の発表
- 第14回 討論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度 40% 発表・報告の出来栄 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学、国際経営関係知識を各自進んで吸収し、配布資料の予習・復習をしっかりとすること

履修上の注意 /Remarks

広く東アジアの経済・経営に関心を持っており、演習I・II(テーマ 国際経営)を履修し、基礎知識をしっかりと取得した学生に限る。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習IV 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習III~IVでは演習I~IIで学んだことを元に、各自テーマを決めて卒業論文、卒業作品に向けて研究を進めます。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ②自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し説ける。
- ③社会に関する知識を用い、社会へ貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。
- ④グループ内で協力し、継続的に学習できる。

教科書 /Textbooks

テーマごとに相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマごとに連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：研究経過報告1
- 第2回：研究経過報告2
- 第3回：研究経過報告3
- 第4回：研究経過報告4
- 第5回：研究経過報告5
- 第6回：研究経過報告6
- 第7回：研究経過報告7
- 第8回：研究経過報告8
- 第9回：研究経過報告9
- 第10回：研究経過報告10
- 第11回：研究経過報告11
- 第12回：研究経過報告12
- 第13回：研究成果報告1
- 第14回：研究成果報告2
- 第15回：研究成果報告3

成績評価の方法 /Assessment Method

ひごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習IIIの研究からどのように研究を発展させるか考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業研究の指導を行う。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①課題発見・分析・解決力および実践力(チャレンジ力):
有価証券報告書等の公表データの分析方法を習得し、企業分析の有用性を理解する。
- ②プレゼンテーション力およびコミュニケーション力:
アイデアを筋道立てて説明できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究指導①
- 2回 卒業研究指導②
- 3回 卒業研究指導③
- 4回 卒業研究指導④
- 5回 卒業研究指導⑤
- 6回 卒業研究指導⑥
- 7回 卒業研究指導⑦
- 8回 卒業研究指導⑧
- 9回 卒業研究指導⑨
- 10回 卒業研究指導⑩
- 11回 卒業研究指導⑪
- 12回 卒業研究指導⑫
- 13回 卒業研究指導⑬
- 14回 卒業研究指導⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など)...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業研究の作成を通じて経営学・経営戦略論の知識の総仕上げをします。
本演習の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略、経営組織、人的資源管理についての知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学生による卒業研究発表。
- 第3回 学生による卒業研究発表。
- 第4回 学生による卒業研究発表。
- 第5回 学生による卒業研究発表。
- 第6回 学生による卒業研究発表。
- 第7回 学生による卒業研究発表。
- 第8回 学生による卒業研究発表。
- 第9回 学生による卒業研究発表。
- 第10回 学生による卒業研究発表。
- 第11回 学生による卒業研究発表。
- 第12回 学生による卒業研究発表。
- 第13回 学生による卒業研究発表。
- 第14回 学生による卒業研究発表。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Ⅰ・Ⅱで学習した理論研究、ケース研究、および演習Ⅲの復習をしておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(テーマ 経営戦略)を履修し、経営戦略に関する基礎知識を取得した学生に限る。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
演習の総仕上げを行う。

教科書 /Textbooks
適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method
報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

調査をベースとした卒業論文の執筆，指導を行います．

この演習を通して，問題解決のための情報収集，処理，意思決定の過程を身につけてもらいたいと考えています．

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～6回 調査の実施，卒業論文序論の作成
- 7～10回 調査結果の分析，卒業論文方法，結果部分の作成
- 11～13回 卒業論文考察，まとめの作成
- 14回 卒業論文発表
- 15回 まとめ

この他に，合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ解析」を未履修の学生は，同時に履修するようにしてください．

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 これまでに大学で学んだ知識を用いて、各自の問題意識に基づいた卒業研究に取り組み、その途中経過を発表してもらう。この演習（卒業研究）を通じて、各人がそれぞれの視点から問題を設定し、自分なりに考えることができるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks
 適宜、指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション
 2回～15回 研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method
 研究発表...60% 他者へのコメント...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 基本的には、卒業論文の1章に相当する分量の原稿を事前に提出することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習IV 【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の中級・上級書を輪読しながら質疑応答形式で進めたい。併せて卒業論文作成のための指導も行う。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』(中央経済社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 企業経営や社会に関する問題を自ら設定し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができる。
- ② 自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し、説明できる。
- ③ グループ内で協力し、継続的に学習できる。
- ④ 修得した知識や経験を自らのものとし、企業や社会に貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。

教科書 /Textbooks

各回で、レジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会(2005年)、4,600円(当時)○
西澤健次『負債認識論』国元書房(2005年)、2,300円(当時)○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社(2012)、2,000円(当時)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 論文輪読
- 3回 卒業研究報告
- 4回 論文輪読
- 5回 卒業研究報告
- 6回 論文輪読
- 7回 卒業研究報告
- 8回 卒業研究報告
- 9回 卒業研究報告
- 10回 卒業研究報告
- 11回 卒業研究報告
- 12回 卒業研究報告
- 13回 卒業研究報告
- 14回 卒業研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習IV 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、卒業研究の作成を通じて、以下の点の修得を目指します。

- ① 経営学に関する専門知識
- ② 問題意識をもつ能力
- ③ 調べる能力
- ④ 起承転結のある文章を作成する能力
- ⑤ 議論する能力

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究進捗状況報告
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 卒業研究発表
- 第11回 卒業研究発表
- 第12回 卒業研究発表
- 第13回 卒業研究総仕上げ
- 第14回 卒業研究総仕上げ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50% 発表・報告内容 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自の必読文献を読み込んで臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応していく予定ですので、若干の内容が変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

統合、随伴的結果、経営組織

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することが狙いです。問題は経済、経営、環境、情報など様々な分野の問題を取り扱いたいと考えています。卒業論文提出を必修とします。

教科書 /Textbooks

テーマにあわせて適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマにあわせて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)
以下の方針で受講生と相談しながら個別指導。

< 内容 >
【研究計画】に基づき、【調査・研究】を進める

< 方法 >
1~15回 卒業研究の進捗を報告してもらい、相談しながら進める。
必要に応じて【コンピュータ実験】を行う。

【卒業論文】を提出する。(論文は製本して、卒業式の際に配布します)
<モットー>創造力を働かせ、楽しく、けじめをつけてやる。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業研究の進捗報告を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文を必ず提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生生活の集大成となる卒業研究を充実したものにしましょう。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 環境問題 経済問題 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。演習Ⅳでは卒業研究の完成を目指します。こちらから特定の課題を出すという形式は取らず、各ゼミ生が研究した内容を毎回報告してもらう予定です。卒業研究は必修科目であることから、演習ⅢおよびⅣの両方をセットで修得することを学生諸君にはお願いします。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、適宜論文またはプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
 岩出博(2010)『Lecture人事労務管理』泉文堂。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらいます(一巡目)
 (第8回～第15回)
各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらいます(二巡目)
 12月中旬までに卒業研究の草稿の完成を目指します。
 1月下旬には卒業研究の完成稿を提出してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 100% (報告内容の充実度・独創性に応じて評価する)
 ※就職活動が終了した後と思われるので、出席状況が低いと単位認定を行わないこととする。活動に支障のない限り出席し、欠席の際は事前に連絡することが望ましい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
 毎週のゼミに備え各自で独習するようにしてください。卒業研究の作成は学生諸君の自発的な努力にかかっています。

履修上の注意 /Remarks

「演習Ⅳ」と「卒業研究」の単位は別であるので、それぞれについて履修登録をする必要がある点に注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生時代の集大成ともいえる卒業研究に最大限尽力してほしい。
 就職活動が続いている学生については欠席を考慮することがある。ただし、内定式への出席は欠席扱いとする。また、内定後研修と演習Ⅳが重複した場合は、研修へは絶対に出席してはならず、演習に出席しなければならない。
 就職活動の進捗状況を把握する調査を行ないます(個別面談含む)ので、そのとき全員回答してください。内定を得た時にはキャリアセンターだけでなく教員まで知らせてください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習Ⅳ【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、広く現代企業の経営問題について（マーケティングに限らなくてよい）各自がテーマを選定し、卒業論文として研究・報告発表することを主な内容とする。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自にアドバイスを行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～4回 グループ別ケース討論
第5～14回 卒論最終発表
第15回 卒論評価

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢と卒業論文の内容・発表等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を論じ、経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考える。
- 2.習得した知識とスキルをもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- 1.情報の不確実な性質を理解し、ファジイ関係による表現を学習する。
- 2.経済や経営に関するトピックを選び、人の好みのアンケートのデータを通して課題を分析する。
- 3.分析結果をまとめ、発表する力を養う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 7回 アンケート集計と分析
- 8回～ 15回 卒業論文の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取組み・・・ 50%
卒業研究提出・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループでパソコン(エクセル)による作業を行いますから、できる限り毎回出席してください。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジイ関係

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業論文での考察(意見の記述)に力点をおき、課題に対する報告者の思考方法や論理的展開(論述)の仕方を学習する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

考察の進展に応じて必要な文献を提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 論文の構成(目次の作成)
- 4回～5回 課題の考察(討議)
- 6回～10回 論文作成(記述)
- 11回～15回 作成論文の評価(討議)

成績評価の方法 /Assessment Method

卒論の完成度で100%評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質疑応答に備えた関連資料の整備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

演習Ⅲに引き続き、調査研究を進める。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 進捗状況報告①
- 2回 進捗状況報告②
- 3回 進捗状況報告③
- 4回 進捗状況報告④
- 5回 進捗状況報告⑤
- 6回 進捗状況報告⑥
- 7回 進捗状況報告⑦
- 8回 進捗状況報告⑧
- 9回 進捗状況報告⑨
- 10回 進捗状況報告⑩
- 11回 進捗状況報告⑪
- 12回 調査研究発表会①
- 13回 調査研究発表会②
- 14回 報告書作成①
- 15回 報告書作成②

※最後に調査研究の成果を報告書にまとめます。
※ゼミ合宿を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習態度・・・100% 結果ではなくプロセス(取り組む姿勢)を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来春からの会社生活に備えて、相手に分からせることを意識して資料の作成や発表・報告を行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を頑張ることはもちろんですが、自由な時は今しかありません。外に出て、いろいろなものを見て、触れて、そして出会い、大いに感動して下さい。

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、受講者に卒業論文(卒業研究)の中間報告をしてもらい、適宜その指導を行います。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

卒業研究成果物の作成を通じて経営学・国際経営の知識の学習を総仕上げします

教科書 /Textbooks

不使用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第3回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第4回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第5回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第6回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第7回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第8回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第9回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第10回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第11回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第12回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第13回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第14回 学生による卒業研究成果物の発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への参加度 30% 発表・報告の出来栄 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定参考書の予習、復習以外に、各自のテーマにそって、資料や情報の収集、解読を進んですること
必ず授業の前にレジメを仕上げ、メール添付送付すること

履修上の注意 /Remarks

演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(テーマ 国際経営)を履修し、関係基礎知識を取得した学生に限る

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 営1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、池辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1回：関数とグラフ | 【極限】、【連続関数】 |
| 2回：関数と微分 | 【接線】、【導関数】 |
| 3回：指数関数と対数関数 | 【指数関数のグラフ】 |
| 4回：指数関数と対数関数 | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5回：導関数 | 【n次関数の微分】 |
| 6回：導関数 | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7回：微分 | 【関数の和・差の微分】 |
| 8回：微分 | 【関数の積・商の微分】 |
| 9回：微分法 | 【合成関数の微分】、【対数微分法】 |
| 10回：微分法 | 【関数の増減】、【関数の凹凸】 |
| 11回：不定積分 | 【n次関数不定積分】 |
| 12回：不定積分 | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13回：定積分 | 【n次関数の定積分】 |
| 14回：定積分 | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

数学【昼】

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「初等統計学」培風館、P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、1700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「統計学の基礎」培風館、J.C.ミラー著、村上正康訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定【大標本法】
- 8回：推定【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関【相関係数】
- 12回：回帰分析【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は「数学」を履修していることは前提としていませんが、履修していれば「経営統計」がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

経営統計【昼】

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

経済学入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか?、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回 : 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回 : 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回 : 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回 : 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回 : 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回 : 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門A 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか?、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回 : 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回 : 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回 : 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回 : 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回 : 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回 : 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。

この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

マクロ経済学の基礎理論を修得する。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)

2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】

3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】

4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】

5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】

6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】

7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】

8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】

9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】

10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】

11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】

12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】

13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】

14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】

15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。

この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

マクロ経済学の基礎理論を修得する。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳) 『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Java(ジャバ)を用いて、プログラミングスキルを体得することを目指します。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指します。また、グループワークを通じてシステムエンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング
結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 Java開発環境Eclipseの使い方について【JDK】【Eclipse】
 - 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
 - 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
 - 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
 - 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
 - 7回 コンストラクターについて
 - 8回 ファイルの入出力【I/O】
 - 9回 画面の入出力【GUI】【Displayクラス】【Shellクラス】
 - 10回 各種画面部品1【SWT】
 - 11回 各種画面部品2【SWT】
 - 12回 グループワーク(設計)
 - 13回 グループワーク(開発)
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：必修科目「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生、または、3年次以降に情報分野のゼミを履修することを希望する学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は 以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データ解析 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まり、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

この講義を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークシヨップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【Excelの使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 2つの変数の間の関係【散布図】，【相関】，【分割表】
- 5回 確率の考え方【確率分布】，【2項分布】
- 6回 連続的な分布の扱い方【正規分布】，【確率密度関数】，【累積分布関数】
- 7回 母集団と標本【母数】，【標本】，【推定値】
- 8回 標本平均の安定性について【中心極限定理】，【標準誤差】，【信頼区間】
- 9回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【信頼区間】，【t分布】，【比率の標準誤差】
- 10回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 11回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 12回 多くのグループ間での平均値の比較【分散分析】【一元配置】
- 13回 複数の要因に関する平均値の比較【分散分析】【二元配置】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題...50% 試験...50%
宿題と試験の得点に出席率を掛けて最終的な得点を算出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて，Microsoft Excelを用いた実習を行いますので，コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また，256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

基本的にはテキストは使用しませんが、状況（欠席、理解不十分等）により参考文献の書籍を必要に応じて利用し勉強してもらいます。（講義資料も基本的には配布せず、板書、パワーポイント画面のノートを取り、そのノートで勉強をしてください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえたいデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

テキストのところに書いていますが、集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面のノートを取り、そのノートで勉強してもらいます。基本的には講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。ノートを取る量は多い方だと思います。それぞれの理解度にもよりますが、しっかりとした習得には日頃の予習、復習が必要だと思います。

データベース【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎からしっかりと勉強するのでデータベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(90%)と学期中の小レポートの結果(10%)によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

この授業の到達目標は以下の通りです。

- ①組織とは何か、現代の組織の基本的な運営方法について理解する。
- ②経営組織論の基礎用語を理解する。
- ③経営組織論を通じて、現代の社会問題について考える力をつける。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文眞堂、2009年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第3回 組織の3要素と管理① 【誘因の方法】【説得の方法】
- 第4回 組織の3要素と管理② 【組織と個人】【専門化】【道徳的創造性】
- 第5回 組織の3要素と管理③ 【コミュニケーションの手段】【権威と権限】
- 第6回 意思決定 【機会主義的側面】【道徳的側面】【意思決定過程】
- 第7回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第8回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第9回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第10回 モチベーション論の展開 【X-Y理論】【動機づけ・衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【分業】【ライン組織】【管理者の育成】
- 第12回 組織構造② 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織と意思決定① 【随伴的結果】【責任】
- 第14回 現代組織と意思決定② 【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」「マネジメント論基礎」の内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の3要素】【環境適応】【随伴的結果】【自由と責任】

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie ，『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。企業ファイナンスIIでは、企業の最適な投資決定、資本構成、配当政策に関するさまざまな理論を学習します。その際、株式市場での価格メカニズムとリスク・リターン関係を理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用しますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【期待収益率】【標準偏差】【レバレッジ効果】
- 2回 現在価値計算1【現在価値】【割引率】
- 3回 現在価値計算2【リスク】【リスク・プレミアム】
- 4回 金融商品の価格決定1【債券価格】
- 5回 金融商品の価格決定2【株価】【配当割引モデル】
- 6回 予備日
- 7回 投資決定の基礎理論1【正味現在価値法】
- 8回 投資決定の基礎理論2【内部収益率法】
- 9回 資本コスト1【自己資本コスト】【負債資本コスト】
- 10回 資本コスト2【WACC】
- 11回 資本コスト3【CAPM】【投資決定】
- 12回 予備日
- 13回 資本構成の基礎理論1【MMの資本構成無関連命題】
- 14回 資本構成の基礎理論2【負債の節税効果】【倒産コスト】
- 15回 配当政策の基礎理論1【MMの配当政策無関連命題】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験で評価します。ただし、授業中に練習問題について学生に発表してもらった場合は、成績評価に加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の性質上、計算を要する問題が出題されます。毎回、電卓を持参して練習問題に取り組むとともに、自宅でも問題演習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングI(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。 授業取組割合・30% 期末試験・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「経営統計学」ないし「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングII(後期)では、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。
授業取組割合・・30% 期末試験・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経々側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。(2,730円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文眞堂(3,780円)が公刊されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】、福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 10回 安全と衛生の管理【リスクマネジメント】【ハラスメント】
 - 11回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】、
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 14回 多様化する労働時間と労働場所【ワークライフバランス】
 - 15回 戦略的人的資源管理論、総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席は不定期にとり、単位修得条件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。ちなみに教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識(貸借対照表=資産、負債、純資産、損益計算書=収益、費用)と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 財務会計論に必要な専門知識を修得する。
- ② 今日、財務会計が抱える諸問題を自ら整理し、具体的な対応策を考えるための会計的なものの見方を身につける。
- ③ 財務会計に内在する課題を発見し、会計学の土壌でそれらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができるようにする。
- ④ 修得した知識を自らのものとし、以後の社会的実践のなかで、より深めていくことができることを知る。

教科書 /Textbooks

特になし
『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社(2012)、2,000円(当時)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会計学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産について【資産概念の変化について】
- 13回 負債について【負債概念の変化について】
- 14回 純資産について【企業会計原則】【企業会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題 ... 10% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 財務会計論に必要な専門知識を修得する。
- ② 今日、財務会計が抱える諸問題を自ら整理し、具体的な対応策を考えるための会計的なものの見方を身につける。
- ③ 財務会計に内在する課題を発見し、会計学の土壌でそれらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができるようにする。
- ④ 修得した知識を自らのものとし、以後の社会的実践のなかで、より深めていくことができることを知る。

教科書 /Textbooks

特になし
『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,830円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社(2012)、2,000円(当時)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①専門分野の知識・理解およびスキル: 原価計算の知識を理解したうえで、その計算方法を習得する。
- ②課題発見・分析・解決力: 原価計算の視点から、企業の製造活動の問題点を分析できるようになる。
- ③生涯学習力: 現実の企業経営における原価計算の有用性を知る。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

前半：使用しない。

後半：清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

原価計算論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」＝「利益」＋「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①専門分野の知識・理解およびスキル: 原価計算の知識を理解したうえで、その計算方法を習得する。
- ②課題発見・分析・解決力: 原価計算の視点から、企業の製造活動の問題点を分析できるようになる。
- ③生涯学習力: 現実の企業経営における原価計算の有用性を知る。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第3講、第9講～第14講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第 3 講 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 テキスト第 9 講 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 テキスト第 10 講 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 テキスト第 11 講 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 テキスト第 12 講 その他の総合原価計算③【積数】
- 11回 テキスト第 13 講 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 テキスト第 13 講 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 テキスト第 13 講 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 テキスト第 14 講 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...67% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「原価計算論I」を履修済みであることが望ましい。

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論III 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科, 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度(中級レベル)の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに主眼をおきたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』(TAC出版)、そのほかプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 有価証券取引【売買・評価】
- 2回 固定資産取引【減価償却】
- 3回 引当金取引【貸倒引当金】
- 4回 手形【裏書と割引】
- 5回 社債【満期償還と買入償還】
- 6回 本支店会計【内部取引】
- 7回 日商簿記検定演習(解答と解説)【日商簿記検定試験2級(第135回)】
- 8回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第135回)】
- 9回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第134回)】
- 10回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第134回)】
- 11回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第133回)】
- 12回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第133回)】
- 13回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第132回)】
- 14回 日商簿記検定演習(解答と解説)【同上(第132回)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業において用いられる簿記であり、商業簿記と対比して論じられます。すなわち、材料を購入して加工し、製品化するまでの製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記とは大きく異なっています。工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録してまいります。したがって、工業簿記を理解するためには、原価計算の仕組みを理解するとともに、これと簿記システムとの関連を把握することが重要です。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、理解をより確実なものとする事ができます。

教科書 /Textbooks

伊藤博 小林哲夫 『最新 工業簿記(三訂版)』 実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
11. 等級別総合原価計算
12. 組別総合原価計算
13. 工程別総合原価計算と減損
14. 標準原価計算
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業への取り組み (20%)、課題の提出状況 (30%) を勘案して、総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

商業簿記の基礎を理解しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ベビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム設計I【昼】

担当者名 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計II 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。開発環境を整えば、スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

永井善王著『Excel VBAマクロ組み方講座』2004年、技術評論社○
結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと
 - 1回 様々なシステムとその役割【生産管理】【財務管理】【人事管理】【情報管理】【ERP】
 - 2回 システム設計とは【システム】【環境】【境界】
 - 3回 システム設計の方法論について【システム開発手法】【プロトタイプ】【ウォーターフロー】
 - 4回 ヒューマンエラーとシステム設計【IO】【例外処理】
 - 5回 システム設計と開発環境について【Android】【コンパイル】
 - 6回 アルゴリズムとプログラミングについて【クラス】【メソッド】【フィールド】
 - 7回 データ構造とアルゴリズムについて【引数】【戻り値】
 - 8～10回 ユーザインタフェースの設計手法について【画面推移】
 - 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】Ⅰ
- 3回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】Ⅱ
- 4回 【AHP】の実習
- 5回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ
- 6回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ
- 7回 【PERT】の実習
- 8回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】
- 9回 【経済性工学】の実習
- 10回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 11回 【線形計画法】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】
- 13回 【待ち行列理論】の実習
- 14回 質問受付など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報管理【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要とするデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミング中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGIを学びます。

CGIとは、Common Gateway Interfaceの略で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をすることができる仕組みです。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどを作ることができます。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①情報科学に関する基本知識を有し、専門知識に基づいた議論をすることができる。
- ②諸問題を解決するためのシステム分析能力を身につける。
- ③問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ④さまざまな問題に高い関心と探究心を持つ。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布しますが、必要に応じて参考書など各自で利用してもらいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし著、『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
宮坂雅輝著、『CGI/Perl Handbook 2nd edition』、ソフトバンクパブリッシング
KENT著、『最速攻略 CGI/Perl 作り方入門』、技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
 - 第2回：CGIに必要なソフトのインストール
 - 第3回：CGIの仕組み
 - 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
 - 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】
 - 第6回：CGI作成のためのPerl言語入門【繰り返し】
 - 第7回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
 - 第8回：乱数の利用【乱数】
 - 第9回：クリッカブルマップの利用【クリッカブルマップ】
 - 第10回：クッキーとは【クッキー】
 - 第11回：CGI技術の応用【CGI応用】
 - 第12回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
 - 第13回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【買い物かご】
 - 第14回：SSI (Server Side Include)
 - 第15回：まとめ
- (進行速度、受講者の希望等により内容の順番、進み方は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 課題・小テスト...40% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義ではPerl言語というプログラミング言語による簡単なプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには500Mb(メガバイト)の要領があれば十分だと思います。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい

情報管理【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を身につけ、経済学部で使う数学的分析スキルを習得する。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 「数学」(MTH100M)で学んだことをもとに、関数の最大値と最小値の求め方などを学習します。
2. ファイナンスにおける最適なポートフォリオの計算やリスクの計算方法を学習します。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、池辺、厚山、水谷、松本著、1600円
(必要に応じてプリントを配布します)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済数学」新世社、武隈、石村 著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1回：微分の性質 | 【平均値の定理】、【関数の増減】 |
| 2回：微分の性質 | 【極値の判定】、【関数の凹凸】 |
| 3回：微分の応用 | 【効用関数】 |
| 4回：微分の応用 | 【リスク回避係数】 |
| 5回：偏微分法 | 【2変数関数】、【偏微分の性質】 |
| 6回：偏微分法 | 【2変数関数の極値】、【2変数関数の凸性】 |
| 7回：偏微分の応用 | 【条件付き極値】 |
| 8回：偏微分の応用 | 【ラグランジュの未定乗数法】 |
| 9回：偏微分の応用 | 【連立方程式の解法】 |
| 10回：確率・統計 | 【確率分布】、【期待値と分散】 |
| 11回：確率・統計 | 【2変数の確率分布】 |
| 12回：ファイナンスへの応用 | 【ポートフォリオ計算】、【シャープの測度】 |
| 13回：ファイナンスへの応用 | 【不等式制約のポートフォリオ計算】 |
| 14回：ファイナンスへの応用 | 【ポートフォリオとリスクの計算】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

「数学」を履修していることを前提として授業が行われます。「経営統計」は必ずしも履修していなくてもかまいません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進め方：新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、経営や情報における応用問題への適用の仕方と問題解決方法を具体的に学びます。「数学」が理解できファイナンスに興味のある学生には最適な科目です。経営への少し高度な数学の話ですから、後半の回では欠席が続くと理解できなくなる可能性があります。

経営数学【昼】

キーワード /Keywords

関数の増減、極値の判定、効用関数、リスク回避、2変数関数の極値、条件付き極値、ポートフォリオ計算

証券市場論 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

証券市場は、①、国・企業による長期安定資金の調達、②、金融資産運用の場、③、国民経済の適切な運営、という役割を期待されている。しかし、近年、刹那的なデイトレイド、ホリエモン騒動そしてグローバルに荒れ狂う投機マネーの台頭によってややもすれば一攫千金を夢見る場であるかのような傾向がある。しかし、証券市場は、上記三つの機能を担う重要な役割を期待されている。

講義では、次の文脈で展開していく。

講義では、まず、証券市場(資本市場ともいわれる)の基本的存立構造を、公開株式会社と証券市場の関係から説明していく。公開株式会社とは、証券市場を使用する株式会社である。公開株式会社は、何故、証券市場を利用するのか。また、証券市場は、どのようにして、公開株式会の資金調達の要請に対応していくのか。こうした、公開株式会社と証券市場の関係というメダルの両面から展開していく。

1、ア、株式会社の基本的性格、イ、公開株式会社(と非公開株式会社)および会社法上の公開会社と非公開会社

2、証券市場(資本市場ともいわれる)の基本的存立構造

ア、引受業務・売買委託業務・自己売買、イ、商業銀行・証券会社・投資銀行

3、機関投資家と証券市場

ア、機関投資家の台頭

イ、機関投資家とコーポレートガバナンス

証券市場における機関投資家の台頭とともに、コーポレートガバナンス論議が盛んである。このコーポレートガバナンス論議に関わる機関投資家の行動について検討する。

3、M & Aと証券市場

1980年代以降のM & Aに関わっての証券市場の役割について検討していく。

教科書 /Textbooks

鈴木芳徳『わかりやすい証券市場論入門(新訂版)』白桃書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

会社四季報・新聞を用意したい。

参考文献として、鈴木芳徳『グローバル金融資本主義』白桃書房、2008年。

金子勝『閉塞経済～金融資本主義のゆくえ～』ちくま新書、2008年。

山田晴信『企業財務を学ぶ』金融財政事情研究会、2012年。

布井千博『会社法』新世社、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 証券市場のあらまし。 【日本の証券市場】 【上場銘柄】 【証券会社】
- 2回 景気と株価。 【株式会社と証券市場】 【株価形成】
- 3回 株式会社制度 【証券資本主義】 【日本の会社】
- 4回 公開株式会社 【コーポレートガバナンス】 【株主権】
- 5回 株式と社債 【株券の種類】 【社債】 【種類株式】
- 6回 コーポレートファイナンス 【自己資本と他人資本】 【内部資金と外部資金】
- 7回 証券の流通 【発行市場と流通市場】 【社会的資本】
- 8回 証券価格 【擬制資本】 【資本還元】 【貨幣の時間価値】 【ケインズの美人投票】
- 9回 株価の決定要因と投資尺度 【投資尺度】 【配当政策】
- 10回 株式指標 【日経平均株価】 【東証株価指数】
- 11回 債権価格と債権投資 【債権の種類】 【新株予約権付社債】
- 12回 証券会社と証券取引所 【証券業務】 【証券取引所】
- 13回 投資家の変貌 【機関投資家】 【貯蓄から投資?】
- 14回 グローバル金融資本主義 【投機】 【金融不安定性】 【恐慌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、小テスト...20% (この割合を、100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつけない。③、新聞を読むこと。④、会社四季報と友達になること。また、参考文献の鈴木芳徳(信用論研究者)と金子勝(異端の経済学者)の2冊は、金融資本主義という命名のもとにサブプライムローンを扱っている。こうした問題にも関心をもてるように講義を受講してほしい。

証券市場論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

株式会社と証券市場・株式会社における資本の二重性・証券価格・投資尺度・ガバナンスと証券市場・台頭する外国人株主・金融不安定性

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2012年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取組割合・ 30% 期末レポート・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、企業によるイノベーションのマネジメントに関する基礎知識を取得することである。成熟化し、停滞する国内の経済環境において、企業が成長する上ではイノベーションを持続的に生み出すことができるシステム作りが重要となる。それゆえに、今日の企業経営者には、イノベーションの本質について深い理解が求められる。本講義では、企業経営者がイノベーションをマネジメントする上で必要な基礎的な概念と理論について学習し、それらを理解し応用できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一橋大学イノベーション研究センター[編]『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イノベーション・マネジメントとは何か?
- 第3回 イノベーションのプロセス
- 第4回 イノベーションのパターン(1)
- 第5回 イノベーションのパターン(2)
- 第6回 イノベーションと企業のパフォーマンス(1)
- 第7回 イノベーションと企業のパフォーマンス(2)
- 第8回 研究・技術開発のマネジメント(1)
- 第9回 研究・技術開発のマネジメント(2)
- 第10回 新製品開発のマネジメント(1)
- 第11回 新製品開発のマネジメント(2)
- 第12回 新製品開発のマネジメント(3)
- 第13回 イノベーションと企業間システム(1)
- 第14回 イノベーションと企業間システム(2)
- 第15回 まとめ

なお、受講生の興味、理解度に応じて、授業内容は変更される。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト・・・60%、授業中のエクササイズ・小テスト(レポート)・発言・・・40%
詳細は、オリエンテーション時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営組織論、経営戦略論、マーケティングなどを履修していることが望ましい。
授業に関する準備や復習に十分な時間が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業が厳しい経営環境の中で競争に打ち勝っていくためには、絶えず「新事業」を企画していかなければなりません。また我々の働き方も変化し、これまでの会社という組織に属する、いわゆる会社員になるものから、自ら「ベンチャー企業」を興す人が増えてきました。そこで本講義では、これまで学習してきた経営学の基礎的科目（例：経営戦略、マーケティング、会計など）をもとに、事業計画「ビジネスプラン」の作成方法について学習します。実際にビジネスプランを作成し、優秀なビジネスプランについては、九州ニュービジネス協議会が主催する「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に応募したいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメやプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『MBA事業開発マネジメント』（グロービス経営大学院編著）ダイヤモンド社 2,940円
- 『MBAビジネスプラン』（グロービス経営大学院著）ダイヤモンド社 2,940円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネスプランの意義及び構成
- 3回 アイデアの抽出
- 4回 ビジョン・ミッション・経営理念
- 5回 ビジネスモデルと戦略【ビジネスモデル】
- 6回 ビジネスモデルと戦略【事業戦略】
- 7回 ビジネスモデルと戦略【マーケティング・オペレーション】
- 8回 ファイナンス【財務計画】
- 9回 ファイナンス【資金調達】
- 10回 マネジメントチームとリーダーシップ
- 11回 ビジネスプラン作成【演習①】
- 12回 ビジネスプラン作成【演習②】
- 13回 ビジネスプラン作成【演習③】
- 14回 ビジネスプラン発表①
- 15回 ビジネスプラン発表②、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネスプランの出来栄え・・・50%、 授業への取組み姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営戦略やマーケティング、会計など、経営学の基礎的科目を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

経営学特殊講義B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスプランは一人もしくは二人で作成し、講義では意見交換を活発に行います。少数精鋭で行いたいと思いますので、やる気のある人を歓迎します。

キーワード /Keywords

生産マネジメントA 【昼】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、現在の日本のものづくりとそれを支えるマネジメント、そしてそれにいたる歴史を概略的に学び、その理解のうえでグローバル化のなかでの日本のものづくりの課題を展望します。また、生産活動に従事する人材にまつわるトピックも扱います。

教科書 /Textbooks

必要に応じてレジュメ等を配布する予定です。学習を深めたい方は参考書を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤本隆宏 『生産マネジメント入門(1)生産システム編』日本経済新聞社,2001.
藤本隆宏 『生産マネジメント入門(2)生産資源・技術管理編』日本経済新聞社,2001.
藤本隆宏・中沢孝夫 『グローバル化と日本のものづくり』放送大学教育振興会,2011.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【生産マネジメント】
- 2回 生産方式の歴史的発展(1) 【産業革命】【科学的管理法】【IE】
- 3回 生産方式の歴史的発展(2) 【フォード方式】【ベルトコンベアー】
- 4回 生産方式の歴史的発展(3) 【モダンタイムス】【人間関係論】
- 5回 現代の生産活動と企業(1)【トヨタ生産方式】【JIT】
- 6回 現代の生産活動と企業(2) 【TQM】【カイゼン】
- 7回 現代の生産活動と企業(3)【ロジスティクス】【SCM】
- 8回 新たな生産方式 【屋台生産方式】【TOC】
- 9回 ソフトウェア・コンテンツの生産 【ソフト開発】【ゲーム開発】
- 10回 生産活動のグローバル化(1) 【グローバル化】【海外生産】
- 11回 生産活動のグローバル化(2) 【モジュール化】
- 12回 生産活動のグローバル化(3) 【中小企業】
- 13回 生産と人材(1)【日本的経営】【ブルーカラー】
- 14回 生産と人材(2)【熟練】【人材育成】【国際人材】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営戦略や組織論など経営学関連科目の復習を行うことで本講義への理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメントB 【昼】

担当者名 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経営工学は、日本では生産分野を中心に展開されてきたが、経営への適用にも注目して、その対象範囲の広がりを理解する。経営工学の代表的手法を概説した上で、実際の適用について、演習問題を通して論理的に身につける。

教科書 /Textbooks

ファイル等を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○秋庭雅夫他「経営工学概論」朝倉書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生産・資源・マネジメント
- 2回 競争と協調における思考法
- 3回 さまざまな状況下での意思決定
- 4回 生産計画1 (問題の定式化)
- 5回 生産計画2 【シンプレックス法】
- 6回 生産計画3 【動的計画法】
- 7回 ネットワークモデル1 【PERT】
- 8回 ネットワークモデル2 【CPM】
- 9回 日程計画1 【山積み表】
- 10回 日程計画2 【ガントチャート】
- 11回 ゲーム理論1 【純粋戦略】
- 12回 ゲーム理論2 【混合戦略】
- 13回 需要予測、在庫管理 【回帰分析】、【安全係数】
- 14回 損益分岐点分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況：25% 課題：25% 試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリーを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営 A 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際経営に関する基礎知識の取得と理解促進にウエイトを置く

以下3部分に分けて講義を進めていく

- ①基礎概念、ビジネス手法の紹介
- ②統計や財務資料の配布・解説
- ③多国籍企業の投資戦略に関するユニークな事例の紹介

受講生の理解度を確認しながら、難易度を調節できるように工夫していく
質疑は随時受付する

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯沢威他『国際競争力の経営史』有斐閣、2009年
吉原英樹編著『国際経営論への招待』有斐閣ブックス、2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の狙い、概要、段取りの説明
- 第2回 基礎概念の説明I: 「多国籍企業」、「経営国際化」【企業の国籍】【操作的定義】
- 第3回 基礎概念の説明II: 「直接投資」【対外・対内投資】、【間接投資】【国際収支ベース】
- 第4回 対外進出の主要手法 【単独投資】【合併】【M&A】【技術供与契約】
- 第5回 企業の多国籍化の誘因I【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【規制回避】II【PLC説】【資本余剰説】
- 第6回 多国籍企業誕生・成長の歴史【株式会社誕生起源説】【保護貿易】【FORTUNE誌】
- 第7回 多国籍企業の国際事業本部の機能と立地【RHQ】【地域統合】【外資政策】
- 第8回 多国籍企業の所有戦略I 【持ち分型】【完全所有】【共同所有】【非持ち分型】
- 第9回 多国籍企業の所有戦略II 【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第10回 事例紹介I: 日系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第11回 事例紹介II: 東アジア系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第12回 多国籍企業の租税戦略I【法人所得税率】【節税と脱税】
- 第13回 多国籍企業の租税戦略II【タックスヘイブン】
- 第14回 多国籍企業の租税戦略III【移転価格】【関連取引】
- 第15回 総合質疑

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 40%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際経営 A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

紹介資料、配布資料を熟読すること
講義中に積極的に質疑・発言する心掛けを！

履修上の注意 /Remarks

私語を慎んで下さい
遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営B 【昼】

担当者名
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国同士の企業経営システムの比較を中心に講義を進めていく。現地企業調査で得た一次資料を活用し、具体的な企業事例を織り交ぜながら、3カ国経営様式の異同を分かりやすく紹介する。

教科書 /Textbooks

未定（改めて通知する予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会、2009年改訂版
末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会、2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 2回 比較アプローチの意義と課題
- 3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 4回 企業制度比較【企業統治】、【経営権市場】、【同族企業】
- 5回 経営システムの比較【内部特性】
- 6回 経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 7回 経営戦略【多角化】、【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】
- 8回 経営組織【公式化】、【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 9回 管理特性【業績評価】、【人材養成】、【情報伝達】
- 10回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 11回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】、【エクセレントカンパニー】
- 12回 事例紹介I【日本のケース】
- 13回 事例紹介II【中国のケース】
- 14回 事例紹介III【韓国のケース】
- 15回 グローバル化と東アジア型企業経営

成績評価の方法 /Assessment Method

期中小テスト40%
期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストでよく予習・復習すること
配布資料を熟読すること

履修上の注意 /Remarks

私語を慎んで下さい
遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質疑は随時受け付けるが、教員から質問された場合、自分の考えを述べられるように心構えをしてもらいたい。

キーワード /Keywords

情報マネジメントA 【昼】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「情報」を中心とした経営やビジネスモデルの展開方法について考察する。「情報」の本質についてレビューした後、マ-ケティング情報システムや流通情報システムなどを事例とする情報経営、eビジネスの実際を配布資料(VTR含む)をまじえて具体的に検討する。

教科書 /Textbooks

『ナレッジ・クリエイター』(越出著) 創成社 ¥2200

適宜、レジユメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『インタ-ネット・マ-ケティングの原理と戦略』(ワ-ド・ハンソン著) 日本経済新聞社 ¥2800
『サプライチェーン・コラボレーション』(ポアリエ&レイタ-著)中央経済社 ¥4000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 経営情報学の意義	経営学における「情報と知識」
2 情報の本質	情報行動論の視座
3 情報のダイナミズム	動的情報(意味的情報)のポイント
4 経営情報と意思決定	経営情報システムの発展史
5 経営情報論の整理	企業における情報とマネジメント(小括)
6 電子市場の生成	情報化社会の流通システム
7 バ-チャル・コミュニティ(C to C)	経済社会のネットワ-クと電子場
8 電子商取引 I(B to C)	対消費者のネットビジネス
9 電子商取引 II(B to B)	対企業のネットビジネス
10 サプライチェーン・モデル	仮想企業の最適化システム
11 顧客関係管理とデ-タベ-ス(CRM)	「One to One」顧客管理システム
12 セ-ルス・フォ-ス・オートメ-ション(SFA)	営業支援システム
13 RFID(ICタグ)	非接触型ICカ-ドの活用システム
14 ビジネスモデルの創造	小売業の経営情報システムなど
15 まとめ	ポイントの整理と残された課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課す小テスト・レポ-ト・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

情報マネジメントBとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視します

キーワード /Keywords

情報化社会の経営

情報マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「組織」と「情報」の議論を中心に意味ある情報(=知識)の共有、ならびに創造の意義を明らかにし、個人・集団・組織はもとより消費社会に関わる「知」のマネジメントについて検討する。日常的な経験知をはじめ、科学的知識の生成・発展に不可欠な組織の仕組み、学習プロセスを実際場・電子場の諸問題として展開。

教科書 /Textbooks

『ナレッジ・クリエイター - 』(越出 著) 創成社 ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『知識創造企業』(野中&竹中 著) 東洋経済新報社 ¥2100

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1	知識経営の意義	経営における意味的情報(=知識)
2	経営組織の未来	知識社会の展望
3	情報と知識の議論	情報経営のフロンティア
4	知識マネジメント(知識変換メカニズム)	知識マネジメントの「暗黙知」「形式知」
5	知識共有(実際場と電子場)	知識の流通メカニズム
6	知識創造とクリエイター -	知識の創発メカニズム
7	知識マネジメントの整理	学習ポイントの確認(小テスト)
8	顧客知の活用システム	関係性のマネジメントと知識共創
9	組織学習と「知」の蓄積	販売部門のスキルアップと学習
10	熟練者と「知」の伝承	暗黙知の共有化
11	専門家の知識マネジメント	ナレッジ・クリエイター -
12	失敗の「知」に学ぶ	経験知の有効活用
13	事例研究 I	実際場の知識マネジメント
14	事例研究 II	電子場の知識マネジメント
15	まとめ	ポイントの整理

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課する小テスト、レポート・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

情報マネジメントAとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視します

キーワード /Keywords

知識社会

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 晴山 英夫 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスは企業の在り方や経営者の正当性にかかわっているだけではなく、企業の活力や国際競争力を規定する戦略的要因になっている。この授業は日本企業のガバナンスの現状と課題を明らかにし、今後の改革の方向を検討することを目的としている。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コーポレート・ガバナンスとは何か
- 2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 3回 企業主権論
- 4回 ガバナンス方法論
- 5回 アメリカの内部監督システム
- 6回 ドイツの内部監督システム
- 7回 日本の内部監督システム
- 8回 内部コントロールの国際比較
- 9回 外部コントロールの方法
- 10回 ステークホルダー・アプローチ
- 11回 経営者の育成と適切な選択
- 12回 日本のガバナンス不在の事例研究
- 13回 日本の監査役設置会社の事例研究
- 14回 日本の委員会設置会社の事例研究
- 15回 まとめー日本のガバナンス改革の方向

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポート、討議への参加等)50%、 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自学自習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域企業分析 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科, 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本科目は経営情報学科の学生が1年生から学んできたマネジメント理論修得の総仕上げにあたるものです。学生が修得してきた理論と企業経営の実践とを統合的に理解することを目的としています。

授業内容は、スケジュールの前半部分で学内教員が様々な視点から企業経営を分析する手法を提示し、後半部分では学外から経営者を中心に経済界の方々を特別講師として招聘して企業経営の実践を講演していただきます。

本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営学の応用力を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な際には随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「全体説明」
 - 第2回 「経営戦略の分析」
 - 第3回 「経営組織の分析」
 - 第4回 「人的資源管理の分析」
 - 第5回 「企業ファイナンスの分析」
 - 第6回 「情報管理の分析」
 - 第7回 「国際経営の分析」
 - 第8回 「中小企業経営の分析」
 - 第9回 外部講師
 - 第10回 外部講師
 - 第11回 外部講師
 - 第12回 外部講師
 - 第13回 外部講師
 - 第14回 外部講師
 - 第15回 まとめ
- (なお、全体スケジュールは外部講師の方の都合等で変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課すレポート30% 学期末テスト(あるいはレポート)70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3年時まで学んだ経営学系の科目の復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

第5回 「企業ファイナンスの分析」の回には電卓を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修ガイドの履修モデルを見てもわかるように、1年時から学んだ知識の総仕上げとなります。

キーワード /Keywords

理論と実践

国際会計論 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際会計の研究領域は、主として(1)会計制度の国際比較、(2)会計基準の国際的調和化、(3)企業活動の国際化に伴う会計問題の三領域に分類されるが、本講義では、(2)の会計基準の国際的調和化論、なかでも、国際会計基準審議会の統合化活動について詳細に検討するとともに、併せて国際会計基準および国際財務報告基準の個別具体的な検討も行いたい。また会計に関する重要な新聞記事についてもその都度紹介することにした。本講義のねらいは、国際的調和化・統合化の動向、さらには国際会計基準/国際財務報告基準の具体的な基準の内容も理解することにある。

教科書 /Textbooks

基本的には講義用レジユメを配布し、それに基づき講義する。講義用レジユメは毎年大幅に改訂しているので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際会計の意義と必要性
- 2回 同上
- 3回 コンバージェンスからアドプションへ
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 国際会計基準および国際財務報告基準の個別具体的な検討(IAS2など)
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を忘れずに。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計論 【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

管理会計は、企業のマネジメントのために必要とされる情報を提供する会計です。すなわち、企業の経営者や経営管理者に対して、彼らが経営戦略を決定し経営管理を展開していくために有用な情報を作成、伝達することが管理会計の目的なのです。本講義は、この管理会計の理論と技法について学習していきますが、まず管理会計の特質と体系について検討することによって、管理会計の全体像を明確にしていきます。次に、経営戦略のための管理会計という観点から、企業における経営戦略の重要性とその策定プロセスについて検討し、経営戦略の決定における管理会計の有用性について学んでいきます。次に、総合管理（マネジメント・プランニング・アンド・コントロール）のための会計という観点から、短期利益計画、予算管理、事業部制会計に関する理論と技法について学習します。最後に、オペレーショナル・コントロールのための会計として、購買管理や生産管理について学ぶとともに、管理会計の新しい課題についても考えていきます。以上の学習により、「マネジメントのための会計」といわれる管理会計の体系的な理解が可能となります。

教科書 /Textbooks

上総康行『管理会計論』（新世社、1993）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西村明、大下丈平『ベーシック管理会計』（中央経済社、2007）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 企業管理と会計
2. 財務会計と管理会計の違い
3. 管理会計の特質と発展系譜
4. 管理会計の体系
5. 経営戦略の意義と管理会計の役立ち
6. 長期利益計画とPPM
7. 原価管理と原価企画
8. 投資の経済計算
9. 価格決定と価格戦略
10. 短期利益計画とCVP分析
11. 総合管理としての予算管理
12. 事業部制会計の概要
13. 内部振替価格と共通費の配賦問題
14. 課業管理のための管理会計
15. 管理会計の新課題

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（50%）、日常の授業への取り組み（30%）、レポート（20%）を勘案して、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学」「原価計算」を既に受講した場合は、本講義の理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報会計【昼】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、実証的アプローチの立場から、情報システムとしての会計の分析方法を学習する。実証的アプローチとは、現に存在する会計システムからアウトプットされる会計情報が、関係者の意思決定に実際に利用されているか否かを、サンプルを取り、データを収集分析することによって明らかにしようとするものである。

本講義では、特に、経済学を基礎にした会計の実証研究に焦点を当て、そのような研究の基礎をなす理論と分析方法を検討する。なお、本講義は理論的な説明に終始することなく、できる限りコンピュータによる実習を取り入れていく予定である。

授業では、基本的に、毎回1本の論文を紹介し、下記の9つの視点から論文を解説する。

1. 研究動機 (Research Motivation)
2. 問題意識 (Research Question)
3. 先行研究 (Prior Studies)
4. 理論 (Background Theory)
5. 仮説 (hypothesis)
6. 結果 (Result)
7. 結果の解釈 (Discussion)
8. 含意 (Implication)
9. 貢献(contribution)

『学習支援フォルダ』に、詳細な授業概要を記した「情報会計の授業概要」をupしておくので授業概要を確認のうえ、履修登録をすること。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ① 専門分野の知識：理解およびスキル
経済学を基礎にした会計の実証研究の研究方法を習得する。
- ② 課題発見・分析・解決力
経済学を基礎にした会計の実証研究の研究方法来に則した研究計画書を作成できるようになる
- ③ 生涯学習力
経済学を基礎にした会計の実証研究の有用性を理解する。

教科書 /Textbooks

使用しない

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ウィリアム・R・スコット[著] 太田康広・椎葉淳・西谷順平[訳] 『財務会計の理論と実証』中央経済社。
 ウィリアムH. ビーバー[著] 伊藤邦雄 [訳] 『財務報告革命【第3版】』白桃書房。
 R.L.ワッツ/J.L.ジマーマン[著] 須田一幸[訳] 『実証理論としての会計学』白桃書房。
 上山章栄[著] 『世界の経営学者はいま何を考えているのか-知られざるビジネスの知のフロンティア』英治出版。

情報会計【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 経済学を基礎にした会計の実証研究の概要 (1)
- 3回 経済学を基礎にした会計の実証研究の概要 (2)
- 4回 Burgstahler and Dichev (1997) 【利益分布アプローチ】
- 5回 キャッシュフロー計算書【発生項目】
- 6回 Jones (1991) & Dechow, Kothari and Watts (1998) 【裁量的発生項目】
- 7回 Matsumoto (2002) 【ベンチマーク】
- 8回 Cheng and Warfield (2005) 【エクイティ・インセンティブ】
- 9回 利益調整研究まとめ
- 10回 Basu (1997) 【保守主義】
- 11回 Ball, Kothari and Robin (2000) 【国際比較】
- 12回 Ball and Shivakumar (2005) 【公的情報と私的情報】
- 13回 Lafond and Roychowdhury (2008) & 高田・首藤 (2010) 【エイジェンシー問題】
- 14回 保守主義研究まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(研究計画書) ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財務会計論I・II、企業ファイナンスI・II、データ解析、経営統計が履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

履修登録前に授業内容についてゼミ担当教員と相談してから、履修登録することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回紹介する論文は会計分野の学術論文ですが、学術論文の読み方・書き方を学習することが目的なので、経営学やファイナンスのゼミに所属する学生にとっても有益な内容だと思います。

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業から独立した立場にある公認会計士が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。経済学部履修者や資格試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目の総まとめになろう。しかしながら、本講義では会計専門職が社会に対して担う責任の拡がりを、広く考察するので、過去に会計科目を学んだことのない人であっても、興味や関心があれば積極的に受講されたい（簿記の知識が無くても授業内容は十分理解できるはずである）。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう意向である。本講義の到達目標は、受講後、修了者が、時に新聞やマスコミを通じて報道される会計監査の論点を理解し、また会計関連資格取得希望者にとっては、会計監査論のフレームワークを承知しておくことにある。

教科書 /Textbooks

八田進二編著 『(新訂版)監査論を学ぶ』 同文館出版 ISBN4-495-16973-4 (税別3,500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教室にて別途指示をすることがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法(SOX)とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 日・米の公認会計士試験問題の一例紹介【CPA試験】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果 凡そ70%、レポート 凡そ20%、その他積極性等 凡そ10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出席を確認し、定期試験以外にレポートも課す。特に予習は要らないが、復習ができるよう、教室にては毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修科目前提としては求めない。「たとえ話」なども交えるので、事前知識がなくても十分理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない。履修の動機付けをしっかり持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

財務諸表、公認会計士、金融商品取引法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算

経営分析【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表のデータを収集し、経営分析の基本的技法である収益性の分析、安全性の分析、生産性の分析などの技術を習得する。本講義において実際の財務諸表を活用し、その数値を生きた数字として認識することがねらいである。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経営分析に必要な専門知識を修得する。
- ② 今日、経営分析が抱える諸問題を自ら整理し、具体的な対応策を考えるための経営分析の視点を身につける。
- ③ 経営分析に内在する課題を発見し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができるようにする。
- ④ 修得した知識を自らのものとし、以後の社会的実践のなかで、より深めていくことができることを知る。

教科書 /Textbooks

田中弘『会計データの読み方・活かし方-経営分析の基本的技法』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森田松太郎『新版経営分析入門』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データの収集と分析【有価証券報告書】
- 3回 収益性の分析【総資本経常利益率】
- 4回 収益性の分析【資本回転率】
- 5回 収益性の分析【経常利益】【営業利益】
- 6回 安全性の分析【流動比率】
- 7回 安全性の分析【固定比率】
- 8回 経営分析の考え方【比率計算】
- 9回 財務指標の読み方【自己資本比率】【負債比率】
- 10回 生産性の分析【付加価値】
- 11回 損益分岐点分析【限界利益】
- 12回 損益分岐点分析【損益分岐点比率】
- 13回 経営分析【総合問題】
- 14回 企業データの読み方【投資情報】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記論、財務会計論のみでなく、原価計算論、管理会計論、企業ファイナンス、経営学等の科目の履修を推奨する。講義では、財務諸表の比率の練習問題を主に行うので、電卓が必需品である。実際に各企業の財務諸表に触れて、企業を見る眼を養うことが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

税務会計【昼】

担当者名
/Instructor

畠中 瞳 / HATAKENAKA HITOMI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

税務会計は課税所得算定の基本規定である法人税法が研究対象の中心である。法人税法の諸規定の主な目的は、課税所得の金額を量的に算定することにある。しかし、法人税法において企業の会計行為をあますところなく法規定をもって規制することは不可能である。したがって、企業が「一般に公正妥当な会計処理の基準」に従う経理を前提としながら、法人税法の目的を果たすために必要な最小限の規定を設け、企業の会計行為を規制している。

故に、法人税法は企業会計上の損益計算（収益 - 費用 = 純損益）を基礎としながら、課税所得計算（益金 - 損金 = 課税所得）による所得金額の算定方法を定めている。したがって、収益と益金、費用と損金との間に一定の差異が生ずる。その差異を法人税申告書の上で調整することにより、税法の定める課税所得を算出するのである。

本講義では、企業会計で計算された利益額をもとにして、これに税法上の規定によって修正し、または調整を行い、税額を算定するもとなる利益額すなわち課税所得を計算することを内容とする課税所得計算原理を中心に税務会計の概要を修得することを目標とする。

教科書 /Textbooks

『税務会計要論 新訂』（中田信正著）同文館出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に必要性が高い場合には講義中にお知らせする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 税務会計の基本的考え方
- 2回 税金の意義、根拠及び種類
- 3回 企業会計と税務会計の差異
- 4回 課税所得計算の仕組み
- 5回 税務収益(1)【販売収益 特殊販売収益①】
- 6回 税務収益(2)【特殊販売収益② 長期請負工事収益】
- 7回 税務費用(1)【給与 給料 賃金 賞与 退職給与 報酬】
- 8回 税務費用(2)【交際費 寄付金①】
- 9回 税務費用(3)【寄付金② 租税公課 欠損金繰越控除等】
- 10回 税務資産(1)【有価証券 取得価額 譲渡損益 期末評価等】
- 11回 税務資産(2)【棚卸資産 取得価額 期末評価等】
- 12回 税務資産(3)【固定資産①(取得価額 減価償却の計算要素)】
- 13回 税務資産(4)【固定資産②(減価償却の計算方法 特別償却) 繰延資産】
- 14回 税務負債・資本(1)【引当金 貸倒引当金 返品調整引当金】
- 15回 税務負債・資本(2)【準備金 海外投資等損失準備金 特別修繕準備金等】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、原則として期末試験の結果で評価する。
期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

税務会計要論（テキスト）は税務会計の全般を容易に理解できるように書かれているので、受講するときはその日の講義内容をシラバスで確認してテキストをよく読み込んで受講すると本講義の理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

税金 法人税 税法 税務 経理 会計

外書講読【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

簡単な英語の専門書を読めるようになることがこの講義のねらいである。国際会計基準が、無形資産の会計をテーマとするテキストを輪読する。

教科書 /Textbooks

国際会計基準または無形資産の会計に関する英語の専門書を使用するが、最初の講義で指定したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義や毎回の講義のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 英語で書かれた会計学の専門書を輪読し、その後解説する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の翻訳とディスカッションへの参加度により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書をひいて予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究I【昼】

担当者名 /Instructor 土山 勇 / 北方キャンパス 非常勤講師, 小田 浩史 / Hiroshi Oda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

就職活動を12月に控える3年生対象の授業です。

今の大学生活から、自分の将来を考え、具体的な将来の職業を考える。そのためのキャリアプランニングをすることと、プランニングしたことに関して、最終的に実行していただくことを目的にいたします。

- 「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか。
- 大学で何をするのか。
- 大学生として何を意識するのか。
- 大学生として何を考え、どう動くのか 等々、

これらのことが将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動」を喚起することを目標といたします。

その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報を学びます。

また、更なるステップアップ『実践の場』として用意されている「業界研究II(インターンシップ)」の準備講座の役割を持っています。

教科書 /Textbooks

テキスト：マイナビ2014オフィシャル就活BOOK
内定獲得のメソッド 「自己分析」 適職へ導く書き込み式ワークシート
岡茂信 著、1,365円(定価)

その他、授業の中で適宜プリントを配布いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

就職情報サイト 「マイナビ」 など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(オリエンテーション)
- 2回 授業から得た情報の活用法と具体的な就活スケジュール
- 3回 社会を知る(社会の仕組みや「会社・企業」の存在意義)
- 4回 自分を知る(自己理解の必要性)基礎編
- 5回 自分を知る(自己理解の必要性)実践編
- 6回 自分と社会との接点(職業興味の発見)
- 7回 業界研究(研究の方法と調べ方)
- 8回 先輩(OB・OG)から社会の話を聴く
- 9回 業界研究(課題研究・中間報告)
- 10回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる①)
- 11回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる②)
- 12回 業界研究(将来像を描くための情報収集・働く意味を見つける)
- 13回 現状把握(現役人事担当者から意見とアドバイスを聴く)
- 14回 インターンシップの現状・今後に求められる活動
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40%
授業内での小レポート提出(計7回) 35%
最終授業での課題発表・提出 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

業界研究I【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持って臨む姿勢を希望いたします。

また、この講義は「就職テクニック」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。

自らの将来に期待、希望、不安、危機を感じ、何か動かなければならない。と、感じている学生の参加をお待ちしております。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究II【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は学生諸君が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものである。この講義のねらいは、(1)就業体験を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、(2)学習体験を現場で活かし、学習意欲を高めるとともに実践的な知識を習得すること、(3)職業意識を涵養し、進路選択に資すること、(4)就業体験を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上3点である。

昨今、本学に限らず就職活動を取り巻く状況は厳しくなっている。就職活動を成功させるため、あるいはそれだけでなく最も自分のやりがいを見い出せる仕事に就くためには、大学生時代から実際の仕事に触れることが必須である。ぜひともインターンシップの機会を活かして、自身の将来のキャリア展望を明るくものにしていただきたい。

ちなみに、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意されたい。詳細については、「業界研究IIに関するインターンシップ実施要領」を参照すること（「業界研究I」において「業界研究II」の履修に関して説明が行われる予定である）。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

インターンシップへ行く前に、自身のキャリアについて考えておくことが望ましいので、さしあたりキャリア関連の入門書として下記を挙げておく。

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習(7月下旬から8月上旬実施、全回の受講が必須)

第5回～12回 インターンシップによる実践的活動(8月～9月)

第13回～15回 活動報告と事後評価(9月下旬に実施、全回の受講が必須)

成績評価の方法 /Assessment Method

就業受け入れ企業(ないし団体・組織)の評価と、学生が提出するインターンシップ報告書、および報告会の発表内容により総合的に評価する。なお、インターンシップ報告書は研修後、1週間以内に提出しなければならない。報告会の報告内容については、経済学部インターンシップ運営委員会が評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となる。なお、インターンシップ実施要領を参照すること。

また、関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教養科目の「キャリアデザイン論」などが参考になるはずである。

履修上の注意 /Remarks

上記と関連するが、単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前学習と事後報告会(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)のすべてに出席しなければならない。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとする。

また、本科目は1学期の時点からいくつかの申込が開始されるので、締め切り日には注意すること。申込プロセスやスケジュールについては「業界研究I」のなかで説明する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は履修申請をしておきながら、事前学習や事後報告会を無断で欠席する学生が散見された。そもそもそのような学生は社会に出る資格はないといえよう。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むこと。

そして、インターンシップに行くからには、社会人としての自覚と基本的素養を今から持ってほしい。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Getting to know people
- 2 回 Brands; Outsourcing
- 3 回 Discussing Promotions; Taking Part in Meetings; Case Study
- 4 回 Business Travel: Needs and Problems
- 5 回 Making Arrangements on the Phone; Case Study
- 6 回 Company Structure; Successful Organisation
- 7 回 Socializing and Networking; Case Study
- 8 回 Change: Managing and Describing
- 9 回 Taking Part in Meetings 2; Case Study
- 10 回 Money; Financial Terms; Raising Capital
- 11 回 Reporting Success; Describing Trends; Case Study
- 12 回 Advertising Media and Methods; Achieving Success; Planning Ad Campaigns
- 13 回 Presentations; Case Study
- 14 回 Cultural Awareness and Advice
- 15 回 Advice, Obligation and Necessity; Case Study

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Workplace
- 9 回 Describing Location and Direction
- 1 0 回 Presentations
- 1 1 回 Corporate Events
- 1 2 回 Offers, Requests, and Permission
- 1 3 回 Business Costs
- 1 4 回 Orders and Invoices
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Workplace
- 9 回 Describing Location and Direction
- 1 0 回 Presentations
- 1 1 回 Corporate Events
- 1 2 回 Offers, Requests, and Permission
- 1 3 回 Business Costs
- 1 4 回 Orders and Invoices
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、基礎的な英語力の底上げをするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion, while case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Employment: Recruiting, Retaining, and Headhunting
- 2 回Managing Meetings; Case Study
- 3 回Free Trade; Fair Trade
- 4 回Working Conditions; Negotiating; Case Study
- 5 回Quality Control; Quality Management
- 6 回Making and Dealing with Complaints; Case Study
- 7 回Ethics; Responsible Business
- 8 回Problem Solving; Case Study
- 9 回Describing Character; Leadership Qualities
- 1 0 回Decision Making; Case Study
- 1 1 回Describing Innovations
- 1 2 回Presentation Techniques; Case Study
- 1 3 回Competitive Edge; Staying Competitive
- 1 4 回Being Diplomatic; Case Study
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリュー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction
- 2 回Project Analysis
- 3 回Project Discussion
- 4 回Explaining Problems
- 5 回Describing Solutions
- 6 回Product Description
- 7 回Unusual Markets
- 8 回Presentations
- 9 回Discussing Competitors
- 1 0 回Market Share
- 1 1 回Location Comparison
- 1 2 回Giving Opinions
- 1 3 回Discussing Careers
- 1 4 回Interview Skills
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from the previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction
- 2 回Project Analysis
- 3 回Project Discussion
- 4 回Explaining Problems
- 5 回Describing Solutions
- 6 回Product Description
- 7 回Unusual Markets
- 8 回Presentations
- 9 回Discussing Competitors
- 1 0 回Market Share
- 1 1 回Location Comparison
- 1 2 回Giving Opinions
- 1 3 回Discussing Careers
- 1 4 回Interview Skills
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from the previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

①会社法の理解に必要な専門的知識を習得する。

②会社法の役割や意義を理解することにより、様々な問題点を発見し分析する能力を身につけると共に、社会に対する関心を高める。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主の権利】【株主総会の決議事項】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会の手続】
- 7回 株式会社の機関(3)【取締役会】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(10)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。

また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①会社法の理解に必要な専門的知識を習得する。
- ②会社法の役割や意義を理解することにより、様々な問題点の発見・分析能力を身につけると共に、社会に対する関心を高める。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1) 【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2) 【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3) 【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4) 【株式の譲渡】 【自己株式】
- 6回 株式会社の資金調達(5) 【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6) 【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7) 【社債】
- 9回 株式会社の計算(1) 【貸借対照表】 【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2) 【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3) 【資本金の減少】 【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1) 【概要】 【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2) 【合併】 【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3) 【株式交換】 【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。

また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家族生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分(財産法)の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思っています。

到達目標は以下の通りです。

- ・民法に共通する諸概念や民法の基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・民法に共通する諸制度の内容、社会における運用状況を知り、法的な問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・講義で得た知識が日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考える上での基盤となっていることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

川井健著『民法概論1 民法総則[第4版]』有斐閣 2008年 3,990円
中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選①総則・物権[第6版]』有斐閣 2009年 2,095円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第3版]総則・物権総論』東京大学出版会 2005年 3,200円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第7版』弘文堂 2005年 3,200円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店1965年 3,900円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限踰越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題……20% 定期試験……80%

民法総則【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではレジュメを配布しますが、教科書の他に毎回必ず六法も持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。

この講義では、都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。

併せて、技術系企業の活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 大まかな地方財政制度に関する専門知識と実態を理解する。
- ② 地域の技術系企業に関する実態を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

都市経済論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本行政論【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣
- 真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウエーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1, 国家間の貿易がなぜ発生するのかその仕組みを学ぶ。
- 2, 関税、補助金など貿易政策の経済効果を図解分析を通じて学ぶ。
- 3, 自由貿易協定、海外直接投資などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1, 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2, 貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3, グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
 石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
 浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 10~20 % 期末試験 80~90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
 主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
 部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 比呂志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講座では、「国際経済論I」の内容を踏まえて、国際マクロ経済学の応用として、国際金融論の基本的な考え方とその周辺知識について、出来るだけ数式を使わず平易に解説します。それによって、多国籍企業と直接投資および国際分業体制の構築、国際的な資本・労働移転、TPP（環太平洋経済連携協定）等、昨今のグローバル経済を取り巻く諸問題が起こる要因とそれらが国内外経済に及ぼすインパクトについて論理的に思考するための基礎力を養成します。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）及びレジュメ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
岩本武和『国際経済学（国際金融編）』（ミネルヴァ書房）
ポル・R・クル-グマン他『クル-グマンの国際経済学（下巻（金融編））理論と政策』（ピアソン桐原）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 海外取引と国際収支（1）
- 3回 海外取引と国際収支（2）
- 4回 外国為替市場と為替レート（1）
- 5回 外国為替市場と為替レート（2）
- 6回 先物為替市場と通貨オプション
- 7回 為替レートの決定理論（1）
- 8回 為替レートの決定理論（2）
- 9回 開放経済と国民所得（1）
- 10回 開放経済と国民所得（2）
- 11回 開放経済のマクロ経済政策（1）- マンデル=フレミング・モデル -
- 12回 開放経済のマクロ経済政策（2）- 固定相場制の財政・金融政策 -
- 13回 開放経済のマクロ経済政策（3）- 変動相場制の財政・金融政策 -
- 14回 国際資本市場と金融のグローバル化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題 20~30% 期末試験 70~80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識を特に前提としませんが、マクロ経済学の基本知識を事前に習得していると理解が一層容易になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済学をミクロとマクロの両面で一通り概観するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、為替レート、マンデル=フレミング・モデル、国際資本市場

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 友紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。

受講者には毎回紹介する演習問題の分析にとどまらず、
自身で社会に存在するゲーム理論的状況を見つけ出し、
自分なりの解決策を探索してもらう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dixit, Skeath, and Reiley. 2009. Games of Strategy. W. W. Norton & Company.
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年
細江守紀, 村田 省三, 西原 宏 (編) 『ゲームと情報の経済学 (現代経済学のコア)』勁草書房、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論 (経済学) とゲーム理論 【背景の理解】
- 2回 戦略形 【利得表と均衡概念】
- 3回 戦略形 【支配戦略と均衡概念と応用】
- 4回 戦略形 【逐次削除均衡と応用】
- 5回 戦略形 【ナッシュ均衡と応用】
- 6回 戦略形 【数量競争と価格競争】
- 7回 展開形 【時間構造】
- 8回 展開形 【後方帰納法】
- 9回 展開形 【サブゲーム完全ナッシュ均衡と応用】
- 10回 混合戦略均衡
- 11回 コミットメント・脅し・約束などの概念とゲーム理論
- 12回 Collective Action Game
- 13回 Collective Action GameとNegative Spillover 【共有地の悲劇】
- 14回 進化ゲーム理論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ゲーム理論

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. 2000. Introduction to Industrial Organization. MIT Press..
Peter Davis and Eliana Garces. 2010. Quantitative Techniques for Competition and Antitrust Analysis. Princeton Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-5回 完全競争モデル 【協力ゲームとコア、余剰】
- 6回 独占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 7回 寡占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 8回 カルテル 【公正取引委員会の仕事】
- 9-10回 市場構造分析【極限定理・無限繰り返しゲーム】
- 11回 市場画定
- 12回 損失推定
- 13回 合併シミュレーション
- 14回 垂直的制限と垂直的統合
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地域経済理解に必要な基礎的専門知識を習得する。
- ② 地域経済に関わる諸問題が、経済理論でどのように捉えられるのかを理解する。
- ③ 自らの生活が、現実の地域経済の中にあることを再確認する。
- ④ 今後の地域経済の展望について、自らの考えを持つ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造と地域経済【経済地理学】【地域政策】
- 4回 地域構造の高度化【産業構造】
- 5回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 6回 工業化の進展②【高加工度化】
- 7回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 8回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 9回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 10回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 11回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 12回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 13回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
本講義では、「人口動態」と「情報化」という視点から地域経済の変化について学び、今後について見通す。

1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①地域経済理解を深めるために必要な専門知識を習得する。
- ②習得した知識を用い、現実の地域経済の諸問題について対応策を論ずることができるようになる。
- ③主体性を持って、自らの所属する地域社会の抱える諸課題を自らのものとする。
- ④以後の社会実践の中で、習得した知識をより深める意欲を持つ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報と地域構造』原書房、2004年。
藻谷浩介『デフレの正体』角川oneテーマ21、2010年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今何が変わっているのか(講義の概要)
- 2回 経済発展と人口【地人口動態】
- 3回 戦後日本の人口構成の変化【生産年齢人口】
- 4回 デフレの正体と地域経済【高齢化社会】
- 5回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 6回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 7回 技術革新と経済発展【技術論】
- 8回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 9回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 10回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 11回 労働市場の変容【格差社会】
- 12回 企業の変容【多数立地企業】
- 13回 CNと都市【産業集積】
- 14回 地域経済の行方
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州経済分析I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、都市としての北九州市の変容過程を説明する。また、北九州市で展開されている地域開発、具体的には響灘開発、北九州学術研究都市、東田開発を具体的に解説する。さらには、昨今の市民セクターの台頭を考慮しながらソーシャルビジネスの実態についても具体的に言及する。よって、受講生には今後の北九州市の経済社会を展望するとともに、地域開発やソーシャルビジネスのコンセプトや仕組みについて考察を加えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 北九州都市協会『北九州に生きた人々 ものづくりの心を未来へ』(2006年3月)
- 小菅正夫・岩野俊郎『戦う動物園』(2006年7月)
- 谷本寛治『ソーシャル・エンタープライズ』(2006年2月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【軍都】
- 3回 企業城下町としての北九州【企業城下町】、【社宅】、【鉄鋼業】
- 4回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 5回 政令指定都市としての北九州市【人口】、【政令指定都市】
- 6回 少子高齢化の中の北九州市【人口減少】、【少子】、【高齢化】、【成熟化】
- 7回 響灘開発とエコタウン事業【傾斜生産方式】、【地域産業】、【企業誘致】、【跡地利用】
- 8回 北九州学術研究都市と知識経済化【産学連携】、【大学】、【クラスター政策】、【企業誘致】
- 9回 東田開発とICT産業と北九州の産業振興【IT】、【クラウド】、【データセンター】
- 10回 東田開発とエネルギー産業【スマートグリッド】、【再生可能エネルギー】、【NPO】
- 11回 成熟社会の到来と市民セクターの台頭【市民セクター】、【協働】、【NPO】
- 12回 北九州市で活躍するNPO法人の事例【指定管理者制度】、【協働】、【ソーシャル・ビジネス】
- 13回 地域活性化とソーシャルビジネス【NPO】、【協働】、【ソーシャル・ビジネス】
- 14回 ソーシャルビジネスとしての動物園【指定管理者制度】、【地域振興】、【公民連携】
- 15回 まとめ

* 12回目、14回目の講義はゲストを招聘する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、成熟社会、情報化社会、協働、パートナーシップ、ソーシャルビジネス

北九州経済分析II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業や馴染みの深い企業の経営展開や経営戦略、マーケティング戦略について、基本的な経営フレームワークも活用しながら具体的に考察します。そのうえで、産業の盛衰やダイナミズムについて検討します。よって、受講生には北九州地域と縁の深い企業の存在をしっかりと認識するとともに、基礎的な経営分析を行えることを目指してもらいたい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』西日本新聞社(2010年10月)
- P.F. ドラッカー『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社(2001年12月)
- 遠藤功『経営戦略の教科書』光文社新書(2011年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域企業への関心を高めるために【企業広告】、【マーケティング】
 - 2回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
 - 3回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
 - 4回 地域の老舗企業の特徴【老舗企業】、【企業の寿命】、【経営戦略】、【倒産】
 - 5回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
 - 6回 北九州の鉄鋼業の変遷と企業集積【鉄鋼業】、【多角化】、【新規事業創出】
 - 7回 北九州に本社を置く大企業の経営の変遷【安川電機】、【TOTO】、【リーダーシップ】
 - 8回 九州の自動車産業の動向【自動車】、【企業立地】、【下請け】、【産業ピラミッド】
 - 9回 《事例研究》自動車産業を担う中小企業の経営戦略【中小企業】、【経営戦略】、【下請け】
 - 10回 F Cビジネスと外食産業【店舗展開】、【F Cビジネス】、【メガフランチャイジー】
 - 11回 地域における小売業の歴史I【デパート】、【スーパー】、【業態変化】、【大量消費】
 - 12回 地域における小売業の歴史II【コンビニ】、【通信販売】、【IT】、【業態変化】
 - 13回 北九州の中小企業・ベンチャー企業の可能性【中小企業】、【ベンチャー】、【起業】
 - 14回 《事例研究》自動車産業を担う中小企業の経営戦略【中小企業】、【経営戦略】、【下請け】
 - 15回 まとめ～産業の盛衰と企業の戦略【産業構造】、【知識経済化】、【ICT】、【環境】
- * 6回目と13回目の講義はゲストを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 20 % 課題レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。また、P.F. ドラッカーの理論などに知見を持っていることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今現在は興味はなくても、北九州市立大学の学生として北九州に縁のある企業について少しでも知識を蓄えて欲しいと思っています。

キーワード /Keywords

地域産業、産業構造、地域企業、新事業創出、顧客の創造、経営戦略、リーダーシップ、マーケティング

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、その上で新しい地域政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの（ワークショップ）
- 10回 新産業育成と地域政策（環境産業を事例に）
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 地域づくりと地域政策（観光振興を事例に）
- 13回 地域づくりと地域政策（ソーシャルビジネスを事例に）
- 14回 地方分権時代の地域政策のしくみ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 20% 期末テスト... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学、地域経済、都市地理学、北九州経済分析などと併せて受講すると、より理解が深まるでしょう。受講にあたっては、単に「授業に出てノートを取り知識を得る」ということではなく、自ら現状を分析し考えるということを意識してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集团的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人々が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項を学ぶとともに、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 雇用社会の仕組みと働き方の類型
- 3回 雇用差別禁止法
- 4回 労働契約関係の成立
- 5回 労働条件決定の仕組み
- 6回 労働時間法
- 7回 休暇と休業
- 8回 労働契約における基本的な権利義務関係
- 9回 人事異動
- 10回 労働者の多様な義務とその違反に対する制裁処分
- 11回 就業規則の変更による労働条件の変更
- 12回 労働契約関係の終了
- 13回 企業の組織変動と労働関係
- 14回 労働関係における知的財産
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は必ず購入して下さい。労使関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

レジユメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して授業に持参するようにして下さい。
労使関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

所得保障法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、芸能ニュースでも話題になった生活保護の保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？
- 第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～
- 第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～
- 第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）～
- 第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②（遺族給付）～
- 第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）～
- 第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～
- 第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～
- 第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）～
- 第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②（生保4条）～
- 第11回 公的扶助③ ～生活保護実施に関する4つの原則～
- 第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～
- 第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～
- 第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。
六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特徴は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第4回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 第5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人の3類型】【雇用】
- 第10回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【その他の商業使用人】
- 第12回 企業活動と消費者(1) 【普通取引約款の利用】
- 第13回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか【商業登記】
- 第14回 営業・事業に関する重要事項が「公示」されるとどのような効果が生じるか【登記の効力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポートを含む授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶発的なリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。

そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

山下友信・竹濱修・洲崎博史・山本哲生『保険法』（第3版）（有斐閣アルマ・2010年）2,100円
六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順に進めますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。（【】はキーワード）

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務（1）告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務（2）告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務（3）告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務（4）事例研究とまとめ
- 第9回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第10回 損害保険契約 【保険代位】
- 第11回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第12回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第13回 保険契約における事情変更・失効
- 第14回 保険者（保険会社）の免責と約款における免責条項の有効性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、授業の理解度を把握するために随時実施する小テストの結果を含む日常的授業への参加度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者自立支援法の改正（障害者総合支援法）や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。
ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会サービス法 【昼】

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集团的労働関係法に焦点を当てます。集团的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人々が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集团的労働関係法の基本事項を学ぶとともに、集团的労働関係法の将来像を模索するところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法とは
- 2回 労働組合の機能
- 3回 団体交渉
- 4回 労働協約
- 5回 ストライキ
- 6回 組合活動
- 7回 不当労働行為制度（1）【制度の趣旨とその類型】
- 8回 不当労働行為制度（2）【救済の特徴と近時の傾向】
- 9回 労働組合の衰退
- 10回 労働組合と労働者の対立
- 11回 労働組合法上の労働者
- 12回 従業員代表制度
- 13回 諸外国の労使関係法
- 14回 労使関係の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は必ず購入して下さい。雇用関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して講義に持参するようにして下さい。
雇用関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織の運営方法を大転換している。地方公共団体においても、政策の選択と集中によって都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革と職員の意識改革を進めている。

この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的發展を目指して改革している組織・人的資源管理の現状や在り方について学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地方自治体の組織原理・人的資源管理等に関する専門知識と実態を理解する。
- ② 都市経営と企業経営の相違を理解する。
- ③ 地方自治体の効率化のために取り組まれている新しい都市経営の方法を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者自身がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命 - 経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体【第三セクター、指定管理者】
- 14回 新しい都市経営の主体【PFI、PPP】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

この授業の主な到達目標は次の通りです。

- ① 国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的な知識を身につける。
- ② この分野における情報を収集し、自分自身の考えを構築出来るようになる。
- ③ 国際協力分野における問題解決の複雑さを理解し、その解決策を探究出来るようになる。
- ④ 修得した知識をもとに、自分自身のキャリアパスに国際協力を位置づけることが出来るようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・インシユーズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【人権ベースアプローチ】
- 第11回 新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。
国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

この授業での主な到達目標は以下の通りです。

- ①平和構築についての知識を修得する。
- ②紛争社会が抱える課題について情報を収集し、当該社会の現状について考えることが出来るようになる。
- ③ある社会における紛争を地球規模で捉え、そこに絡む政治経済的要因を把握する視点を持てるようになる。
- ④平和構築や国際協力を自らのキャリアパスに位置づけて考えられるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。プリントを随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 稲田十一編『開発と平和 - 脆弱国家支援論』有斐閣、2009年。
- リンダ・ポルマン著、大平剛訳『クライシス・キャラバン - 紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。
- メアリー・B・アンダーソン著、大平剛訳『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回、第3回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアを事例に -
- 第4回、第5回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダを事例に -
- 第6回、第7回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアを事例に -
- 第8回 P K Oの変容と限界
- 第9回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第10回 平和構築アプローチ
- 第11回 紛争後復興社会における「法の支配」
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①
- 第14回 Do No Harm原則②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 4 0 % 学期末試験... 6 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。第3に、ローカルガバナンスに重点をおき説明します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

教科書 /Textbooks

『現代行政とローカルガバナンス』山本隆・難波利光・森裕亮編著 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地方財政白書』総務省編

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 現代財政の現状と経済の仕組み
- 3回 財政の役割と機能
- 4回 国と地方の財政関係
- 5回 租税原則
- 6回 地方税体系
- 7回 地方交付税と国庫支出金のしくみ
- 8回 自治体財政分析①
- 9回 自治体財政分析②
- 10回 地方自治体とローカルガバナンスの展開
- 11回 地方自治体とローカルガバナンスの構造
- 12回 地方分権型財政
- 13回 自治体内分権
- 14回 住民参加
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 本試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞等のメディアを通して社会問題、財政、行政に関する現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、地方自治体における福祉財源の問題について解説します。地方自治体の財源問題は、住民にとって生涯にわたり日常生活で関わる福祉サービスのあり方に影響を与え、サービス内容やサービス負担額を理解することの重要性は高まっている。特にサービスの負担は、①税、②社会保険料、③自己負担により行われ、家計に対する影響も大きいといえる。

教科書 /Textbooks

『福祉財政と就労』 難波利光・田中裕美子 ふくろう出版2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代社会福祉行財政論』 坂本忠次 大学教育出版2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 少子高齢化と財政
- 3回 住民生活と財政
- 4回 地域経済と財政
- 5回 公共財の理論
- 6回 租税原則と理論
- 7回 社会保障と就労形態
- 8回 公的年金財政
- 9回 介護保険財政
- 10回 医療保険財政
- 11回 労働保険財政
- 12回 生活保護財政
- 13回 児童・保育財政
- 14回 障害者制度関連財政
- 15回 労働型福祉と地方財政

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 本試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞等のメディアを通して社会問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「日本経済の動き」及び「世界経済の動き」を国際マクロ経済の視点から理解することができ、また日本経済を世界経済の動向と結び付けて理解できる。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状（Ⅰ）：世界の余剰資金とアメリカ経済 【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済の動向と新興経済大国（BRICs） 【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅰ）-マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）-
【総供給・総需要】 【マクロ均衡・不均衡】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅱ）-国際マクロ経済の分析枠組み（基礎理論）-
【輸出・輸入】 【輸入超過】 【輸出超過】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅲ）-国際マクロ経済の分析枠組み（応用理論）-
【内需・外需】 【経常収支の黒字・赤字】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅰ） 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅱ） 【経常収支黒字と資本収支赤字】 【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ） 【経常赤字】 【財政赤字】 【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ） 【資本の輸出】 【対外投資】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ） 【貯蓄・投資】 【財政収支】 【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ） 【過剰貯蓄】 【資本輸出】 【金融資産】
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高 【円高】
- 第14回 世界経済の不均衡問題 【経常収支の黒字・赤字】 【債権大国：日本・中国】 【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

国際マクロ経済学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する教科書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおく、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本 円高・円安 ユーロ

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結びつけて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】 【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】 【固定レート】 【市場レート】
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズム 【ドル買い】 【円売り】
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】 【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】 【為替介入】 【外貨取引の規制】 【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅰ）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅱ）
【外国為替資金特別会計】 【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】 【金融政策】 【資本移動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策効果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際マクロ経済学II 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業の教科書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート
円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入
不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、海外進出先に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。その際、行動経済学を利用するので、行動経済学の紹介を行なう。

ゲーム理論も紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、算数に対して苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

経済学特殊講義 A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回イントロダクション：経済学の視点から見た労働 【労働】
- 第2回社会的分業と生産性 【分業の利益】 【規模の経済】
- 第3回労働市場という概念と機能（1） 【労働の取引】 【市場】
- 第4回労働市場という概念と機能（2） 【労働需要】 【労働供給】
- 第5回労働市場という概念と機能（3） 【市場メカニズム】
- 第6回労働市場という概念と機能（4） 【市場賃金】
- 第7回労働市場への介入の是非 【市場介入】
- 第8回失業問題（1） 【失業の定義】
- 第9回失業問題（2） 【最低賃金制】 【労働組合】
- 第10回失業問題（3） 【情報の非対称性】 【ミスマッチ】
- 第11回労働市場の内部化 【内部労働市場】
- 第12回日本の雇用システム（1） 【いろいろな雇用形態】
- 第13回日本の雇用システム（2） 【正社員と非正社員】
- 第14回日本の雇用システム（3） 【解雇法制】
- 第15回これまでの復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学特殊講義B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 情報と組織構造(1) 【情報伝達】【意思決定】
- 第2回 情報と組織構造(2) 【インセンティブ】【ストックオプション】
- 第3回 情報と組織構造(3) 【フォーティズム】【事業部制】
- 第4回 情報と組織構造(4) 【ジャストインタイム方式】
- 第5回 報酬とインセンティブ(1) 【管理職】
- 第6回 報酬とインセンティブ(2) 【チームインセンティブ】
- 第7回 教育・訓練(1) 【賃金格差】【人的資本】【シグナリング】
- 第8回 教育・訓練(2) 【教育需要】
- 第9回 教育・訓練(3) 【OJT】【Off-JT】
- 第10回 公的部門の労働市場(1) 【公共財】【官民給与】
- 第11回 公的部門の労働市場(2) 【ラスバイレス比較】
- 第12回 公的部門の労働市場(3) 【軍事の労働】
- 第13回 データを活用した分析方法の紹介(1) 【回帰分析】
- 第14回 データを活用した分析方法の紹介(2) 【賃金分析】
- 第15回 若年労働者の労働事情 【若年労働市場】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをする事も増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法(とりわけ私法)は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動してただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち(振出人、受取人、所持人等)の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手(第4版)」(有斐閣Sシリーズ・2011年)2100円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法(第3版)」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法(新版)」(商事法務研究会・2003年)。
- ②判例：落合誠一編「手形小切手判例百選(第6版)」(別冊ジュリスト173号)(有斐閣・2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(1)【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(2)【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(3)【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる(1)【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる(2)【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる(3)【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる(4)【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる(5)【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる(6)【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する(1)【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する(2)【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった!(1)【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった!(2)【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

企業取引法II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱い、特許法領域については職務発明等の知財管理で要点となる部分のみを扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

特許庁標準テキスト「意匠編」「商標編」「総合編」。以上三冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
 11. 音楽産業と契約実務
 12. 映画産業と契約実務
 13. 放送事業と契約実務
 14. 商標権侵害・不正競争行為
 15. まとめ
 16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割、残りは授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等の資料を利用して総合的に評価する。
授業に対する準備事項

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
スカイプID kim-lab
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報公開および個人情報保護の法制は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開は、国民・住民が国および地方レベルで政治に参画するための手段である。他方で、情報化社会の進展により、情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。それらの仕組みがどのようになっており、具体的にどのように運用され、どのような法律問題が生じているのかということについて概要を把握することがねらいである。

授業では、情報公開法制および個人情報保護法制について基本的知識を体系的に理解すること、問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法の逐条解説[第5版]』（有斐閣、2012年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第3版]』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（有斐閣、1999年）
行政情報システム研究所編『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 情報の収集、管理、利用
第 2回 情報公開の憲法上の基礎	
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求と非開示情報、訂正等請求
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 開示情報（個人情報）	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報、意思形成過程情報	第15回 まとめ
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安、情報、外交等情報	
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会	
第 9回 個人情報保護の意義	
第10回 個人情報保護の憲法上の基礎	
第11回 個人情報保護法。個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法 【昼】

担当者名 /Instructor 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、経済憲法ともいわれる独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。これにより、自由競争経済の中で、どのような競争が正しい競争であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ベーシック経済法 独占禁止法入門(第3版)』(有斐閣アルマ)(川濱 昇他 有斐閣 ¥1,995)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】 【談合】 【一定の取引分野】 【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】 【行政指導】 【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】
- 6回 私的独占 【排除・支配】
- 7回 不公正な取引方法 【一般指定】 【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】 【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】 【取引上の地位の不当利用】 【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】 【水平合併】 【垂直合併】 【株式保有】 【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】 【持株会社】 【企業集団】 【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続 【排除措置】 【課徴金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。日常の授業への取り組み... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

- 1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
- 2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、現実の経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力(市場支配力) 私的独占 カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度
再販売価格維持制度 優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 排除措置 課徴金

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。最近でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件として記憶に新しい。またギリシャ国債等のデフォルト危機は、EUばかりでなく、世界経済全体を揺さぶっている。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文(！)で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題(粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等)を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分(第1回～第4回)の後、情報開示(第5回～第9回)、市場規制(第10回～第11回)および投資勧誘規制(第12回～第15回)まで、全体で4部構成である。

教科書 /Textbooks

松岡啓祐「最新金融商品取引法講義〔第2版〕」(中央経済社・2012年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近藤光男=吉原和志=黒沼悦郎「金融商品取引法入門〔第2版〕」(商事法務研究会・2011年)、河本一郎=大武泰南「金融商品取引法読本〔第2版〕」(有斐閣・2011年)、岸田雅雄「金融商品取引法」(新世社・2010年)、松尾直彦「金融商品取引法」(商事法務研究会・2011年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の暴落で大損した人あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引法】
- 第2回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か?(2)【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制システム、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(1)【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(2)【説明義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(3)【金融庁、証券取引等監視委員会】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみる(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である(金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

証券市場と法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(金融商品取引法は毎年のように改正されるので)最新の六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュリティイゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 金融商品取引業者 証券市場 適合性原則 説明義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引法

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」「特許編」「意匠編」「商標編」以上4冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～法定通常実施権、特許マッピングの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果を参考にし、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上の特許サロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 スカイプID kim-lab
 研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

知的財産法 【昼】

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権者の権利

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。

この講義では、多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地方都市における各種の政策課題や、その解決のために取り組まれている政策を理解する。
- ② 地方自治体の産業政策の重要性を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
- 吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
- 小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
- 中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a reading log and to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 "Marriage"
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 The Consumer Society
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30% Tests ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading & Discussion I; Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading; Reading Comprehension; Vocabulary Development.

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

教科書 /Textbooks

ブランチャールマクロ経済上、東洋経済
The age of the economist, Danieil R. Fوسفeld (こちらで用意します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ウォール街のランダム・ウォーカー、ハートン・マルキール、日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1週 orientation
- 第2週 世界経済の概観
- 第3週 財市場 (1)
- 第4週 財市場 (2)
- 第5週 財市場 (ダイナミックス)
- 第6週 金融市場 (1)
- 第7週 金融市場 (2)
- 第8週 金融市場 (3)
- 第9週 財市場と金融市場の融合
- 第10週 IS - LMモデル (1)
- 第11週 IS - LMモデル (2)
- 第12週 reading materials
- 第13週 reading materials
- 第14週 reading materials
- 第15週 reading materials

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ(小テスト)の合計 (80%)
Participation (授業貢献度、出席率) (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず授業の前までに、教科書の必要な箇所を読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語I 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will take a critical look at media. We will examine the how and why of media control. Discussion of the various issues is intended to lead to a better understanding of media, the changes that media is currently experiencing, and media's influence on our lives.

教科書 /Textbooks

Puppet on a String: Media Control in Our Lives. Lynch, Jonathan. Cengage Learning. 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction. What really happened?
- 2回 How true is what we read?
- 3回 How the political spectrum affects our news
- 4回 Spinning out of control
- 5回 Staged TV
- 6回 Advertising or brainwashing?
- 7回 Consumerism gone mad
- 8回 Stereotypes and the media
- 9回 The discriminating viewer
- 10回 Another bash on the head
- 11回 So beautiful, so thin
- 12回 Privacy and the media
- 13回 New media same old problems?
- 14回 Depictions of foreigners in the media
- 15回 Like a puppet on a string

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 40%
Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare the Warm Up section before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

In this course we will continue looking at the media in a critical manner. A student centered approach will be used to discuss a variety of current issues. International, domestic, and local items of interest will be presented in various formats using this approach. Various elements of critical thinking will also be introduced and applied to real world situations.

教科書 /Textbooks

None.
Materials provided by the lecturer and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction - review of belief, bias, spin, and stereotypes
- 2回 Discussion on Assumptions
- 3回 Project 1 planning
- 4回 Project 1 preparation
- 5回 Project 1 presentation
- 6回 Discussion on Inferences
- 7回 Project 2 planning
- 8回 Project 2 preparation
- 9回 Project 2 presentation
- 10回 Discussion on Facts and Opinions
- 11回 Project 3 planning
- 12回 Project 3 preparation
- 13回 Project 3 presentation
- 14回 Application of critical thinking in real world case studies
- 15回 Final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%
Projects 60%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the tasks and be prepared for active participation in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導A【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

職業指導・進路指導は、「人間としての在り方・生き方」にかかわる指導であり、学校から社会への接続に伴う極めて重要な指導分野である。
本講座では、職業と産業および経済社会の発展との関係についての理解を深め、次いで、職業指導・進路指導に係る基礎理論を習得する。さらに、高卒者の職業生活移行への課題を明らかにし、適切な職業指導を行うための資質・能力の育成を目指す。
講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

梅澤 正著 『職業とキャリア』学文社
文部科学省編 『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
日本進路協会編 『高校生のキャリアプラン』実業之日本社
仙崎 武他著 『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 本講座のガイダンス及び職業の概念
- 第 2回 産業構造の変化と職業
- 第 3回 望ましい職業観
- 第 4回 能力・適性の解釈
- 第 5回 自己概念と自己変革
- 第 6回 進路指導(職業指導)の法的規定
- 第 7回 進路指導(職業指導)の諸活動【個人理解】、【進路情報】、【啓発的経験】
- 第 8回 進路指導(職業指導)の諸活動【進路相談】、【進路選択・決定の指導】、【追指導】
- 第 9回 職業適性検査(GATB)・・・(講義及び演習)
- 第 10回 職業レジネステスト(VRT)・・・(講義及び演習)
- 第 11回 商業高校卒業生の進路および就職状況の推移。
- 第 12回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職環境の変化】、【就職の仕組み】
- 第 13回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職慣行の見直し等】
- 第 14回 企業が求める人材について。
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

商業高校生の進路の多様化、就職・職業をめぐる環境の変化及び生徒の資質の課題等についての理解を深め、生徒自らの職業観・勤労観に基づいて、主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図るために、適切な指導・援助を行うことができる教員を目指して真摯に励みましょう。

キーワード /Keywords

職業の概念、能力・適性の解釈、自己概念、職業指導、職業教育

職業指導B【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講座では、「職業指導A」の学習に引き続いて、高等学校における職業指導・進路指導の具体的展開について学び、その上で、インターンシップの推進やキャリア教育への展開等について修得し、適切な職業指導を行うための基礎的な実践的指導能力の育成を目指す。講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』(株)ぎょうせい
『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』(財)日本進路指導協会
文部省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』(財)日本進路指導協会
仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 職業指導(進路指導)の全体計画の立案。
- 第 2 回 ホームルーム活動における職業指導(進路指導)計画。
- 第 3 回 ホームルーム活動における指導の展開(例1-仕事と生きがい-)
- 第 4 回 ホームルーム活動における指導の展開(例2-職業レジネステストの活用-)
- 第 5 回 進路相談の具体的展開(例1-進路適性の理解を深める就職相談-)
- 第 6 回 進路相談の具体的展開(例1-進路計画の立案を助ける進学相談-)
- 第 7 回 インターンシップの意義
- 第 8 回 インターンシップの具体的事例
- 第 9 回 インターンシップの評価と課題
- 第 10 回 キャリア教育が求められる背景
- 第 11 回 キャリア教育の定義及び意義
- 第 12 回 キャリア教育の範囲と内容
- 第 13 回 キャリア教育の基本方向
- 第 14 回 キャリア教育推進のための方策
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

乳児期から老年期までの各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①人間の発達について理解し、基礎的な専門知識を身につける
- ②人間関係や発達に関する諸課題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ③人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児期①【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 乳児期②【発達のメカニズム】
- 第4回 乳児期③【人との関係のはじまり】
- 第5回 幼児期①【知能・認知の発達】
- 第6回 幼児期②【表象能力、心の理論】
- 第7回 幼児期③【自己の育ちと他者との関係】
- 第8回 児童期①【思考の深まり】
- 第9回 児童期②【友人とのかがりわりと社会性の発達】
- 第10回 青年期①【アイデンティティの形成】
- 第11回 青年期②【人間関係、青年期の問題行動】
- 第12回 成人期【家族形成、成熟】
- 第13回 老年期【人生の振り返り】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育,学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師,教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商業科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

2学期に開講される「商業科教育法B」と合わせ、高等学校における商業（ビジネス）教育について、その理念、指導内容及び指導方法、歴史の変遷、現状及び課題等について学ぶとともに、商業教育を担当する教師としての実践的な指導力の基礎を養成することを目標として行われる。

本講義は、我が国における教育改革の動向及び学習指導要領の改訂の経緯と趣旨について学び、その上で高等学校における商業（ビジネス）教育について、教科「商業」及び商業に関する学科の枠組みの理解を図り、商業に関する各科目の目標、内容、指導方法及び教材研究について各分野別に学ぶ。

なお、指導方法等について実践的に学ぶ意味及び教育実習への配慮から、途中において「学習指導案」作成の要点について学ぶこととする。

教科書 /Textbooks

日本商業教育学会編「教職必修最新商業科教育法 新訂版」実教出版
「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉野弘一著 「商業科教育法」実教出版
雲英道夫他編著「商業科教育論」多賀出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入講義及び我が国における教育改革の動向
- 第2回 学習指導要領（平成21年3月告示）改訂の経緯と趣旨
- 第3回 教科「商業」の目標と教科の組織
- 第4回 教科「商業」の各分野等の目指す学力観
- 第5回 学習指導案作成の要点
- 第6回 基礎的科目及びマーケティング分野（1）【ビジネス基礎】、【マーケティング】
- 第7回 マーケティング分野（2）【商品開発】、【広告と販売促進】
- 第8回 ビジネス経済分野（1）【ビジネス経済】、【ビジネス経済応用】
- 第9回 ビジネス経済分野（2）及び会計分野（1）【経済活動と法】、【簿記】
- 第10回 会計分野（2）【財務会計I】、【財務会計II】
- 第11回 会計分野（3）【原価計算】、【管理会計】
- 第12回 ビジネス情報分野（1）【情報処理】、【【ビジネス情報】、【電子商取引】
- 第13回 ビジネス情報分野（2）【プログラミング】、【ビジネス情報管理】、
- 第14回 総合的科目（1）【課題研究】、【総合実践】
- 第15回 総合的科目（2）及びまとめ 【ビジネス実務】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% , 平素の学習状況(課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義の受講が高等学校教員免許（商業）取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。

履修上の注意 /Remarks

商業教育の指導内容である専門的知識・技術（複式簿記、マーケティング、情報処理など）については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育への転換が図られていますが、高い志と使命感をもって、商業（ビジネス）教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

商業科教育法 A 【昼】

キーワード /Keywords

商業教育の意義、教科商業の目標及び組織、教科商業の各分野の目指す学力観、高等学校学習指導要領

商業科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期に開講される「商業科教育法」と合わせ、高等学校における商業（ビジネス）教育について、その理念、指導内容及び指導方法、歴史的変遷、現状と課題等について学ぶとともに、商業教育を担当する教師としての実践的な指導力の基礎を養成することを目標として行われる。

本講座は、我が国の商業教育の歴史的変遷について理解を深め、改めて商業教育の現状と課題について考察する。また、学力観の転換及び評価について学び、その上で評価基準の設定について演習を行う。さらに、教育課程の編成について理解を深めるとともに、各自、学習指導案を作成し、発表、協議を行い実践的指導力の基礎を身に付ける。

教科書 /Textbooks

日本商業教育学会編「教職必修最新商業科教育法新訂版」実教出版
高等学校学「習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

及川達男著「商業科教育論」多賀出版
三好信浩著「日本商業教育成立史の研究」風間書房
吉野弘一著「商業科教育法」実教出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 商業教育の生成（明治期以前）
- 第2回 商業教育の生成（明治期）
- 第3回 商業教育の発展（大正、昭和（戦前））
- 第4回 商業教育の試練（戦中、戦後）
- 第5回 戦後の商業における教育課程基準の変遷（商業教育の拡充、商業教育の多様化）
- 第6回 戦後の商業における教育課程基準の変遷（商業教育の集約化）
- 第7回 商業教育の現状と課題（商業に関する学科の生徒数、卒業生の進路）
- 第8回 商業教育の現状と課題（生涯学習社会・知識経済社会への対応）
- 第9回 指導と評価の一体化
- 第10回 評価基準の設定（演習）
- 第11回 教育課程の編成
- 第12回 学習指導案の作成（講義及び演習）
- 第13回 学習指導案の模擬授業（簿記）
- 第14回 学習指導案の模擬授業（ビジネス基礎）
- 第15回 まとめ - 商業教育の根底にあるもの -

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% , 平素の学習状況（課題等） ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義の受講が高等学校教員免許（商業）取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。

履修上の注意 /Remarks

商業教育の指導内容である専門的知識・技術（複式簿記、マーケティング、情報処理など）については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育へと転換が図られているが、高い志と使命感をもって、商業（ビジネス）教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の変遷（明治期～戦前）、森有礼、福澤諭吉、渋沢栄一、商業倫理、戦後の教育課程基準（商業）の変遷、学習指導案、模擬授業

特別活動の研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案について
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本的には教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【昼】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
8回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学/高校:学習指導案)	【学習指導案】 【導入】
13回 模擬授業②(中学/高校:授業構成)	【授業構成】 【目標】
14回 模擬授業③(中学/高校:授業展開)	【授業展開】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学/高校:指導技術)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早め読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【昼】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介
- 14回 被虐待児に対する理解と援助の課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲
- 4回子どもの「学力」(2)：知識・理解
- 5回子どもの「学力」(3)：思考・判断
- 6回子どもの「学力」(4)：表現・技能
- 7回教育測定・評価(1)
- 8回教育測定・評価(2)
- 9回教師と授業づくり(1)
- 10回教師と授業づくり(2)
- 11回学習環境と教育方法(1)
- 12回学習環境と教育方法(2)
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
(ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-----------------|----------|
| 第 1 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 2 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 3 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑫ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑬ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑭ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 実習校実習⑮ | 【教育実習指導】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①障害の基本的概念を理解し、障害理解と障害をもつ子どもたちの指導に必要となる基礎的な専門知識を身につける。
- ②人間の健康的な生活を実現するための社会実践の技法を修得する。
- ③人間や社会の關係に内在する障害の諸問題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ④人間と社会の關係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。
- ⑤人間と社会との關係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育社会学の基礎的な概念や教育に関する諸事象についての社会的な視点からの分析を学ぶ。

目標

- ①教育社会学における基礎的な知識を習得する。
- ②教育に関する諸事象について、社会的な見方、考え方ができるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント (講義レジュメ・資料) を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 30% 最終課題 (試験) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験はいずれも難度の高いものであり、単位取得のためには相当な努力が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー -】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- 1) 新聞を開けば、社会調査の結果が載っていない日はないかもしれない。我々は新聞やテレビやインターネットなどを通して、膨大な調査結果や統計データに日々、さらされている。社会調査から生み出されるこれらの情報や知見や現状分析(認識)などを批判的に読み込む力を培う。
- 2) また、社会調査の方法を学ぶことは、社会科学の問題構築、仮説検討、現状分析などのよき入門(つまり、社会科学のよき入門)ともなる。
- 本講義では社会調査の基礎を学ぶが、上記の二つをねらった講義を計画している。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(あるいは定期試験の時に課題提出)・・・70%、
 普段の授業への取り組み・・・30%
 * 授業出席不振の学生には単位は認定しません。
 * 成績評価の詳細は初回の授業でお話します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から社会的な事象や問題に関心をもっておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査、質的社会調査、量的社会調査、社会的世界

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【夜】

担当者名
/Instructor

馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ 大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか?さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ:「言葉の力」文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- 1言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- 2「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- 3修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
 - 2回 岩本(文学部比較文化学科)
 - 3回 岩本
 - 4回 馬場(文学部比較文化学科)
 - 5回 馬場
 - 6回 田部井(文学部比較文化学科)
 - 7回 田部井
 - 8回 福島(文学部比較文化学科)
 - 9回 福島
 - 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
 - 11回 伊藤
 - 12回 五月女(文学部比較文化学科)
 - 13回 五月女
 - 14回 木原(外国語学部英米学科)
 - 15回 木原
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関する問い合わせはコーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
第2回 民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第5回 民主主義理論の比較のまとめ
第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
第7回 民主主義の運動（組織）の比較・・・1989年の東欧革命について
第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・・・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
第11回 民主主義の制度の比較について・・・議院内閣制と大統領制
第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
第13回 大統領制民主主義の諸問題について
第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
第15回 全体のまとめ・・・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。
日常の授業への取り組み 20%
小テスト 10%
レポート 20%
定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

人権論【夜】

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物を通して。日常的に観察される買い物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。 → 「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルで は平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家 と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

現代の国際情勢【夜】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答を出してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度指定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』のシリーズ(授業の該当国)、明石書店
 (特に、米国、韓国、ミャンマーやバングラデシュ版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当: 三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当: 伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当: 伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当: 伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
 担当: チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
 【バングラデシュ】 担当: チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当: チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動としめ社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当: チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当: 申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当: 申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当: 申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当: 三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当: 三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当: 三宅
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な国々を対象とするので、参考書は読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各教員が対象国での研究や生活経験が長いので、現場に由来する非常に面白い事項を盛り込み授業を展開する予定。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
- 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
- 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
- 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
- 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
- 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
- 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
- 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
- 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
- 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
- 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
- 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
- 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
- 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
- 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族・産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 夜間主コー ス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履・夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現 (ガイダンス)
- 2回 データの収集 (検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工 (表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現 (レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎 1 (課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎 2 (原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

英語I (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
生協の教科書リストを確認されたい。
その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット1~5、リーディング ユニット1
3回	リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
4回	リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
5回	リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
6回	リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
7回	リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
8回	リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
9回	リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
10回	リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
11回	リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
12回	リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
13回	リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
学期末試験・小テスト 80%
課題 20%
欠席が授業実施回数数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレテスト
- 2回 リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
- 3回 リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット 11
- 13回 リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット 12
- 14回 ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (済営夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V (済営夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (済営夜 2 年) 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営夜 2 年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音（1）
3. 子音（1）
4. 子音（2）
5. 子音（3）
6. 子音（4）
7. 子音（5）
8. 母音（2）
9. 終声（1）
10. 発音の変化（1）
11. 発音の変化（2）
12. 【指定詞の丁寧形】
13. 【指定詞の丁寧形・疑問】
14. 【指定詞の丁寧形・否定】
15. 【指定詞の丁寧形・否定の疑問】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 前期のまとめ、
- 2 . 【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3 . 【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
- 4 . 【動詞と形容詞の丁寧形】
- 5 . 【漢数詞】【固有数詞】
- 6 . 【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
- 7 . 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 8 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形】
- 9 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・変則活用】
- 10 . 【尊敬表現の丁寧形・疑問と否定】
- 11 . 【尊敬表現のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 12 . 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
- 13 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
- 14 . 【意思・推量・婉曲表現】
- 15 . 【願望表現】【勧誘表現】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書：『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 【基本母音と基本子音①】
2. 【基本子音と基本子音②】
3. 【激音と濃音】【合成母音字】
4. 【終声①】
5. 【終声②】
6. 発音のルール【連音化】【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】【鼻音化】
8. その他の発音法則
9. 【指定詞の丁寧形】
10. 【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
11. 自己・物を紹介する時の表現（～といます）
12. 【存在詞のうちとけた丁寧形】【場所をあらわす助詞】
13. 【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【時を表す単語および助詞】
14. 【存在詞のうちとけた丁寧形・否定】【位置を表す単語および助詞】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳することができるようにする。

教科書 /Textbooks

教科書：『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
4. 【動詞のうちとけた丁寧形】【固有数詞】
5. 【漢数詞】
6. 【一週間の予定】
7. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
8. 【目的表現】
9. 【動詞・形容詞の変則活用】
10. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 【願望表現】
12. 【接続表現】【確認表現】
13. 【意思表現】【推測表現】
14. 【進行や状態の継続表現】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1):自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2):お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3):人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞estar, ir を用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用への復習
- 11回 動詞(estar, hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【夜】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ゼミの内容は初回に希望を聞いて決定します。担当教員の専門は情報関係ですが、なるべく希望に沿った内容にします。例えば、ミクロ経済、マクロ経済、ゲーム理論、統計、多変量解析、プログラミング、株式分析など。

演習Iでは、基礎的な知識を得ることを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ②自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し説ける。
- ③社会に関する知識を用い、社会へ貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。
- ④グループ内で協力し、継続的に学習できる。

教科書 /Textbooks

未定 (相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後に連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ゼミ運営方法、ゼミテーマ決定
- 第2回：報告、報告内容について議論1
- 第3回：報告、報告内容について議論2
- 第4回：報告、報告内容について議論3
- 第5回：報告、報告内容について議論4
- 第6回：報告、報告内容について議論5
- 第7回：報告、報告内容について議論6
- 第8回：報告、報告内容について議論7
- 第9回：報告、報告内容について議論8
- 第10回：報告、報告内容について議論9
- 第11回：報告、報告内容について議論10
- 第12回：報告、報告内容について議論11
- 第13回：報告、報告内容について議論12
- 第14回：報告、報告内容について議論13
- 第15回：報告、報告内容について議論14

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...50% 報告、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回に具体的な内容を決定しますので、ゼミでどのようなことを勉強してみたいか考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席、遅刻厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【夜】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ゼミの内容は初回に希望を聞いて決定します。担当教員の専門は情報関係ですが、なるべく希望に沿った内容にします。例えば、ミクロ経済、マクロ経済、ゲーム理論、統計、多変量解析、プログラミング、株式分析など。

演習IIでは、演習Iで身に付けた基礎的な知識を応用することを目標とします。

学位授与方針に関連するこの授業主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①問題を自ら設定し、それらを分析し実践的な解決策を考えることができる。
- ②自らの研究内容を、口頭および文章で明確に表現し説ける。
- ③社会に関する知識を用い、社会へ貢献していく意欲を持った人間として行動ができる。
- ④グループ内で協力し、継続的に学習できる。

教科書 /Textbooks

未定 (相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：報告、報告内容について議論1
- 第2回：報告、報告内容について議論2
- 第3回：報告、報告内容について議論3
- 第4回：報告、報告内容について議論4
- 第5回：報告、報告内容について議論5
- 第6回：報告、報告内容について議論6
- 第7回：報告、報告内容について議論7
- 第8回：報告、報告内容について議論8
- 第9回：報告、報告内容について議論9
- 第10回：報告、報告内容について議論10
- 第11回：報告、報告内容について議論11
- 第12回：報告、報告内容について議論12
- 第13回：報告、報告内容について議論13
- 第14回：報告、報告内容について議論14
- 第15回：報告、報告内容について議論15

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...50% 報告、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Iで勉強したことを元により深い内容を勉強します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

後期は前期に修得した簿記の基本的知識を応用するものとし社会会計を講義する。

教科書 /Textbooks

「新検定 簿記講義 2級商業簿記」 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 帳簿組織(1) 転記の合理化と事務分掌
- 第2回 帳簿組織(2) 補助簿の仕訳帳化および補助元帳
- 第3回 帳簿組織(3) 総合練習問題
- 第4回 特殊商品売買(1) 委託販売と受託販売
- 第5回 特殊商品売買(2) 未着品販売
- 第6回 特殊商品売買(3) 割賦販売
- 第7回 長期請負工事(1) 工事進行基準と工事完成基準
- 第8回 長期請負工事(2) 練習問題
- 第9回 本支店会計(1) 本支店間の取引の処理
- 第10回 本支店会計(2) 本支店財務諸表の合併
- 第11回 社債(1) 社債の発行と利払いの会計処理
- 第12回 社債(2) 社債償還の会計処理
- 第13回 資本金(1) 株式会社の設立会計
- 第14回 資本金(2) 増資及び減資の会計
- 第15回 資本金(3) 合併の会計

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

後期の講義内容は簿記論Iの理解を前提に株式会社会計を主題にしている。
受講者は簿記論Iの内容を復習しつつ株式会社会計を勉強してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【コンピュータ用語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

私たちは、企業をはじめ、学校、政府、地方自治体など、必ず何らかの組織に属して生きています。ですから、組織のマネジメント、すなわち組織をいかに経営するかは、社会にとっても、また私たち自身の生き方にとっても非常に重要なテーマであると言えます。マネジメントを学ぶことは、自分の生活とかけ離れた理論を学ぶということではなく、現代社会に生きる私たちにとって不可欠な、重要な考え方と実践を学ぶことです。

本講義では、経営学やマネジメントの基礎について学んでいきます。基本的な考え方を知ることで、自らが生きている組織や社会のマネジメントに興味をもてるようになり、自身が所属する組織において、少しでもマネジメントの考え方を活かしていくことができるようになることを目標としています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ経営学』(中野 裕治・貞松 茂・勝部 伸夫・嵯峨 一郎 編) ミネルヴァ書房 2,800円
- 『管理とは何か』(三戸 公 著) 文真堂 4,200円
- 『経営学100年の思想』(宮田 矢八郎 著) ダイヤモンド 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と企業
- 2回 企業における所有と支配について
- 3回 古典的管理論に基づくマネジメント(1) 【科学的管理と管理原則・管理過程】
- 4回 古典的管理論に基づくマネジメント(2) 【人間関係論】
- 5回 マネジメントの新次元 (近代管理論の成立)
- 6回 意思決定の科学としてのマネジメント
- 7回 人間性を重視するマネジメント論(1) 【動機づけ理論】
- 8回 人間性を重視するマネジメント論(2) 【リーダーシップ論】
- 9回 現代管理論の展開
- 10回 コンフリクトのマネジメント
- 11回 マネジメントにおける創造性
- 12回 知識社会のマネジメント
- 13回 日本の経営について
- 14回 企業の社会的責任について
- 15回 これからのマネジメントへ向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポート等提出物、受講態度)...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたっては、テキストをしっかりと読んでおいてください。
また、各回の授業で配布するレジュメを導入として、学習を深めていってください。
専門教育科目の「企業論基礎」「経営組織論」とあわせて受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自ら考え学ぶ姿勢を大切にしてください。
授業中の私語は禁止します。

マネジメント論基礎【夜】

キーワード /Keywords

企業と社会	人と組織	組織と管理	機能性と人間性	相違性の統合	科学と経験
社会的責任	日本的経営				

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。
本講義の達成目標は次の通りです。
① 企業の定義と役割について説明できる。
② 企業の種類やその特徴について説明できる。
③ 株式会社の制度的特徴について説明できる。
④ 株式会社の所有と支配について説明できる。
⑤ 日本の株式会社の実態について説明できる。
⑥ CSR (企業の社会的責任) の概念と基本的な考え方について説明できる。
⑦ 企業の目的や存在意義について自分の意見を述べるができる。
⑧ CSRの意義について自分の意見を述べるができる。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』(佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(講義の概要や目的、評価方法等の説明)
- 2回 企業とは何か(1) 【企業の定義】、【企業の役割】
- 3回 企業とは何か(2) 【企業の目的】、【企業の存在意義】
- 4回 企業とは何か(3) 【企業は誰のものか】
- 5回 企業形態(1) 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態(2) 【会社形態】
- 7回 企業形態(3) 【非営利組織】
- 8回 株式会社の制度的特徴(1) 【会社機関】
- 9回 株式会社の制度的特徴(2) 【株式会社と証券市場】
- 10回 株式会社における所有と支配
- 11回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(1) 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 12回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(2) 【取締役会改革と委員会設置会社】
- 13回 企業に求められる21世紀型CSR
- 14回 SRI(社会的責任投資)の広がりとその課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学や会社法関連の科目を受講しておく、本講義の理解が一層深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態(企業の種類) 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

演習III 【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。演習IIIでは、演習Iならびに演習IIで得た知識をもとに、当該領域における応用的内容を含む文献を読解する予定です。夜間主は卒業研究が必修ではありませんが、演習III・IVを履修することは卒業研究を書くという前提で指導を進めたいと考えています。なお、4年次は就職活動の時期と重なるので、報告の内容や日程についてはゼミ生の意見を聞きつつ決定します。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、適宜論文またはプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
 岩出博(2010)『Lecture人事労務管理』泉文堂。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
 人的資源管理論領域における査読付論文(英文を含む可能性あり)を輪読します。論文の要約・批判についての報告を毎回してもらいます。
 (第8回～第15回)
 各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらう予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(毎回) ... 35% レポート(毎回) ... 65%
 受講者数はごく少人数が見込まれますので、初回と最終回以外すべての回で報告とレポート提出を義務付けます。レポートは各回満点で5点、13回で65点の配点です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。毎週のゼミに備え各自で独習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習IIIと演習IVはできればセットで履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動の期間と重なる人も多いと思いますが、空いた時間を最大限に活用して卒業研究の作成に取り掛かってください。
 就職活動の進捗状況を把握する調査を行ないます(個別面談含む)ので、そのとき全員回答してください。内定を得た時にはキャリアセンターだけでなく教員まで知らせてください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理

演習Ⅳ【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。演習Ⅳでは卒業研究に準ずる論文の完成を目指します。こちらから特定の課題を出すという形式は取らず、各ゼミ生が研究した内容を毎回報告してもらう予定です。夜間主は卒業研究が必修ではありませんが、演習Ⅳを履修するということは卒業研究を書くという前提のもとで指導を進めます。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、適宜論文またはプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
 岩出博(2010)『Lecture人事労務管理』泉文堂。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第15回)
各自で卒業研究の進捗状況を毎回報告してもらいます。
また報告終了後、次週までにどのような点を改善するかについてフィードバックをしてもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50% (報告内容の充実度・独創性に応じて評価する)、卒業研究に準ずる論文提出...50%
 ※「卒業研究に準ずる論文」の提出は本科目の単位修得要件です。
 ※受講者数はごく少数が見込まれるので、おそらく報告は毎回あたるものと心得ておいてほしい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
毎週のゼミに備え各自で独習するようにしてください。卒業研究の作成は学生諸君の自発的な努力にかかっています。

履修上の注意 /Remarks

就職活動が終了した後と思われるので、出席状況が低いと単位認定を行わないこととする。活動継続中であっても支障のない限り出席し、欠席の際は事前に連絡する必要がある。就職活動の証明書があれば欠席の事情を考慮するが、内定式や内定後研修については欠席事由にならないものとする(そのほか、出席に関する取り決めについてはゼミ中に説明する)。
演習Ⅲと演習Ⅳはできればセットで履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生時代の集大成ともいえる卒業研究に最大限尽力してほしいです。
就職活動の進捗状況を把握する調査を行ないます(個別面談含む)ので、そのとき全員回答してください。内定を得た時にはキャリアセンターだけでなく教員まで知らせてください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

数学【夜】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、池辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1回：関数とグラフ | 【極限】、【連続関数】 |
| 2回：関数と微分 | 【接線】、【導関数】 |
| 3回：指数関数と対数関数 | 【指数関数のグラフ】 |
| 4回：指数関数と対数関数 | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5回：導関数 | 【n次関数の微分】 |
| 6回：導関数 | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7回：微分 | 【関数の和・差の微分】 |
| 8回：微分 | 【関数の積・商の微分】 |
| 9回：微分法 | 【合成関数の微分】、【対数微分法】 |
| 10回：微分法 | 【関数の増減】、【関数の凹凸】 |
| 11回：不定積分 | 【n次関数不定積分】 |
| 12回：不定積分 | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13回：定積分 | 【n次関数の定積分】 |
| 14回：定積分 | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・30%
期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経済学入門A 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の一つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指します。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか?、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回 : 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回 : 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回 : 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回 : 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回 : 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回 : 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出 20% 期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題 1
- 15 推定と検定に関する標準問題 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、2013年度入学生は受講できない。2012年度以前の入学生が対象である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【夜】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

経営組織論 【夜】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

この授業の到達目標は以下の通りです。

- ①組織とは何か、現代の組織の基本的な運営方法について理解する。
- ②経営組織論の基礎用語を理解する。
- ③経営組織論を通じて、現代の社会問題について考える力をつける。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第3回 組織の3要素と管理① 【誘因の方法】【説得の方法】
- 第4回 組織の3要素と管理② 【組織と個人】【専門化】【道徳的創造性】
- 第5回 組織の3要素と管理③ 【コミュニケーションの手段】【権威と権限】
- 第6回 意思決定 【機会主義的側面】【道徳的側面】【意思決定過程】
- 第7回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第8回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第9回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第10回 モチベーション論の展開 【X-Y理論】【動機づけ・衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【分業】【ライン組織】【管理者の育成】
- 第12回 組織構造② 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織と意思決定① 【随伴の結果】【責任】
- 第14回 現代組織と意思決定② 【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」「マネジメント論基礎」の内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の3要素】【環境適応】【随伴の結果】【自由と責任】

企業ファイナンスI【夜】

担当者名 篠崎 伸也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

企業(株式会社)は銀行や証券市場から資金を調達し、資産(工場、金融資産など)に投資を行います。投資から得られたキャッシュ(現金)の一部を企業内部に保有(内部留保)し、その残りを資金提供者(債権者や株主)に還元します。このような一連の財務行動は、企業価値(株主価値)を高めることを目的としています。しかし企業が株主価値を意識しない財務行動をとると株主価値は低下し、倒産を招く、あるいはM&A(合併・買収)の対象となる可能性が高くなります。
本講義では、このようなコーポレートファイナンスの基本的な考え方について学習していきます。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス [改訂版]』創成社、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石野雄一『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』光文社、2007年
砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』日本経済新聞出版社、2004年
神原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』有斐閣、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション、コーポレートファイナンスの世界【財務活動】

第2回～4回 コーポレートファイナンスの世界【期待リターンとリスク、資本提供者(債権者と株主)、証券発行、ゴーイング・コンサーン、会計上の利益とキャッシュフロー、配当、内部留保】

第5回 投資の基礎知識【投資の種類、貸借対照表、損益計算書、ROA】

第6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面、新株発行、優先株、内部資本調達、ROE】

第8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【社債の種類、クーポン】

第10回～11回 配当の基礎知識【配当性向、配当利回り、自社株買い戻し、株式分割】

第12回～14回 コーポレートガバナンス【所有と経営の分離、エージェンシー問題、取締役会、社外取締役、執行役員制度、敵対的買収、日本型のコーポレート・ガバナンス】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(宿題)・・・30%

期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 受講希望者は、必ず第1回目の講義に出席してください。
- (2) 講義で「電卓(平方根の計算が可能なもの)」を使用することがあります。電卓を持ってくる回を指定しますので、必ず持ってきてください。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」および「財務諸表論(財務会計)」の講義を履修済みか、あるいは当講義と合わせて受講すると、より理解が深まると思います。
また講義は、教科書とレジユメを使用して進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業ファイナンスI【夜】

キーワード /Keywords

マーケティングI【夜】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングI(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。 授業取組割合・30% 期末試験・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「経営統計学」ないし「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人間は日々働いています。この「働くこと」を管理するのが人事管理もしくは人的資源管理です。人間が「働くこと」の意味は多面的です。まず組織（企業）にとっては個々の働きが財・サービスを生み、利益を生み、その企業の存続を可能にします。他方、個人にとって自分が働くことは、生きていく糧としてお金を得ることであり、いろいろな人と触れ合うことであり、社会における自己の存在意義を確認することでありえます。本講義では、こうした多面性をもつ「働くこと」に対して、人事管理・人的資源管理の諸施策がどのような意味をもっているかを考えます。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

- ①人的資源管理の専門知識を修得する。
- ②日本の人事システムとその変化について理解する。
- ③人的資源管理をめぐって、個人と企業それぞれにどのような問題があるのかを理解する。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編『入門 人的資源管理 [第2版]』中央経済社、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル 人事労務管理(新版)』有斐閣、2006年。(○)
岩出博『新・これからの人事労務[改訂版]』泉文堂、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【人的資源】【働くこと管理】
- 2回 「働くこと」の多面性 【生理的側面】【心理的側面】【社会的側面】【経済的側面】【政治的側面】
- 3回 日本の人事システム 【企業と個人の関係】【日本企業における諸現象】
- 4回 雇用管理① 【雇用形態】【終身雇用】
- 5回 雇用管理② 【柔軟な雇用】【非正規社員】
- 6回 賃金制度① 【職能資格制度】【職務等級制度】
- 7回 賃金制度② 【手当】【賞与】【退職金】【福利厚生】
- 8回 異動① 【異動の種類】【昇進と昇格】【制度の変化】
- 9回 異動② 【専門職制度】
- 10回 人事考課制度 【目標による管理】【コンピテンシー】
- 11回 退職・解雇 【退職の種類】【定年制】【解雇】
- 12回 労使関係 【労働組合】【団体交渉】【労使協議制】
- 13回 女性労働者 【女性の職場進出】【女性労働者をめぐる諸問題】【ダイバーシティ・マネジメント】
- 14回 海外派遣者 【国際経営】【本国従業員】【現地従業員】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学入門、マネジメント論基礎の内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容が変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

日本の人事システム、個人と企業の関係性

原価計算論I【夜】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①専門分野の知識・理解およびスキル: 原価計算の知識を理解したうえで、その計算方法を習得する。
- ②課題発見・分析・解決力: 原価計算の視点から、企業の製造活動の問題点を分析できるようになる。
- ③生涯学習力: 現実の企業経営における原価計算の有用性を知る。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

* 教科書 *

前半：使用しない。

後半：清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性について(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性について(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性について(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性について(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ヘビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム設計I【夜】

担当者名 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計II 【夜】

担当者名 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。開発環境を整えば、スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

永井善王著『Excel VBAマクロ組み方講座』2004年、技術評論社○
結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと
 - 1回 様々なシステムとその役割【生産管理】【財務管理】【人事管理】【情報管理】【ERP】
 - 2回 システム設計とは【システム】【環境】【境界】
 - 3回 システム設計の方法論について【システム開発手法】【プロトタイプ】【ウォーターフロー】
 - 4回 ヒューマンエラーとシステム設計【IO】【例外処理】
 - 5回 システム設計と開発環境について【Android】【コンパイル】
 - 6回 アルゴリズムとプログラミングについて【クラス】【メソッド】【フィールド】
 - 7回 データ構造とアルゴリズムについて【引数】【戻り値】
 - 8～10回 ユーザインタフェースの設計手法について【画面推移】
 - 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営数学【夜】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を身につけ、経済学部で使う数学的分析スキルを習得する。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 「数学」(MTH100M)で学んだことをもとに、関数の最大値と最小値の求め方などを学習します。
2. ファイナンスにおける最適なポートフォリオの計算やリスクの計算方法を学習します。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、池辺、厚山、水谷、松本著、1600円
(必要に応じてプリントを配布します)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済数学」新世社、武隈、石村 著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1回：微分の性質 | 【平均値の定理】、【関数の増減】 |
| 2回：微分の性質 | 【極値の判定】、【関数の凹凸】 |
| 3回：微分の応用 | 【効用関数】 |
| 4回：微分の応用 | 【リスク回避係数】 |
| 5回：偏微分法 | 【2変数関数】、【偏微分の性質】 |
| 6回：偏微分法 | 【2変数関数の極値】、【2変数関数の凸性】 |
| 7回：偏微分の応用 | 【条件付き極値】 |
| 8回：偏微分の応用 | 【ラグランジュの未定乗数法】 |
| 9回：偏微分の応用 | 【連立方程式の解法】 |
| 10回：確率・統計 | 【確率分布】、【期待値と分散】 |
| 11回：確率・統計 | 【2変数の確率分布】 |
| 12回：ファイナンスへの応用 | 【ポートフォリオ計算】、【シャープの測度】 |
| 13回：ファイナンスへの応用 | 【不等式制約のポートフォリオ計算】 |
| 14回：ファイナンスへの応用 | 【ポートフォリオとリスクの計算】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

「数学」を履修していることを前提として授業が行われます。「経営統計」は必ずしも履修していなくてもかまいません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進め方：新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、経営や情報における応用問題への適用の仕方と問題解決方法を具体的に学びます。「数学」が理解できファイナンスに興味のある学生には最適な科目です。経営への少し高度な数学の話ですから、後半の回では欠席が続くと理解できなくなる可能性があります。

経営数学【夜】

キーワード /Keywords

関数の増減、極値の判定、効用関数、リスク回避、2変数関数の極値、条件付き極値、ポートフォリオ計算

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2012年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取組割合・30% 期末レポート・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営分析【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表のデータを収集し、経営分析の基本的技法である収益性の分析、安全性の分析、生産性の分析などの技術を習得する。本講義において実際の財務諸表を活用し、その数値を生きた数字として認識することがねらいである。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経営分析に必要な専門知識を修得する。
- ② 今日、経営分析が抱える諸問題を自ら整理し、具体的な対応策を考えるための経営分析の視点を身につける。
- ③ 経営分析に内在する課題を発見し、それらの問題を分析し、実践的な解決策を考えることができるようにする。
- ④ 修得した知識を自らのものとし、以後の社会的実践のなかで、より深めていくことができることを知る。

教科書 /Textbooks

田中弘『会計データの読み方・活かし方-経営分析の基本的技法』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森田松太郎『新版経営分析入門』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データの収集と分析【有価証券報告書】
- 3回 収益性の分析【総資本経常利益率】
- 4回 収益性の分析【資本回転率】
- 5回 収益性の分析【経常利益】【営業利益】
- 6回 安全性の分析【流動比率】
- 7回 安全性の分析【固定比率】
- 8回 経営分析の考え方【比率計算】
- 9回 財務指標の読み方【自己資本比率】【負債比率】
- 10回 生産性の分析【付加価値】
- 11回 損益分岐点分析【限界利益】
- 12回 損益分岐点分析【損益分岐点比率】
- 13回 経営分析【総合問題】
- 14回 企業データの読み方【投資情報】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記論、財務会計論のみでなく、原価計算論、管理会計論、企業ファイナンス、経営学等の科目の履修を推奨する。講義では、財務諸表の比率の練習問題を主にを行うので、電卓が必需品である。実際に各企業の財務諸表に触れて、企業を見る眼を養うことが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【夜】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、基礎的な英語力の底上げをするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【夜】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①会社法の理解に必要な専門的知識を習得する。
- ②会社法の役割や意義を理解することにより、様々な問題点の発見・分析能力を身につけると共に、社会に対する関心を高める。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主の権利】【株主総会の決議事項】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会の手続】
- 7回 株式会社の機関(3)【取締役会】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(10)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ①会社法の理解に必要な専門的知識を習得する。
- ②会社法の役割や意義を理解することにより、様々な問題点の発見・分析能力を身につけると共に、社会に対する関心を高める。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】【自己株式】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【社債】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3)【資本金の減少】【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【合併】【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。

また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学II【夜】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実 (2013) 『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔 (2011) 『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義 『大学演習数理統計』裳華房 (本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

本講義は2013年度入学生は対象としない。2012年度以前の入学生が対象である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

金融論I【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウエーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1, 国家間の貿易がなぜ発生するのかその仕組みを学ぶ。
- 2, 関税、補助金など貿易政策の経済効果を図解分析を通じて学ぶ。
- 3, 自由貿易協定、海外直接投資などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1, 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2, 貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3, グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 10~20 % 期末試験 80~90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor 福間 比呂志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講座では、「国際経済論I」の内容を踏まえて、国際マクロ経済学の応用として、国際金融論の基本的な考え方とその周辺知識について、出来るだけ数式を使わず平易に解説します。それによって、多国籍企業と直接投資および国際分業体制の構築、国際的な資本・労働移転、TPP（環太平洋経済連携協定）等、昨今のグローバル経済を取り巻く諸問題が起こる要因とそれらが国内外経済に及ぼすインパクトについて論理的に思考するための基礎力を養成します。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
岩本武和『国際経済学（国際金融編）』（ミネルヴァ書房）
ポール・R・クルーグマン他『クルーグマンの国際経済学（下巻（金融編））理論と政策』（ピアソン桐原）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 海外取引と国際収支（1）
- 3回 海外取引と国際収支（2）
- 4回 外国為替市場と為替レート（1）
- 5回 外国為替市場と為替レート（2）
- 6回 先物為替市場と通貨オプション
- 7回 為替レートの決定理論（1）
- 8回 為替レートの決定理論（2）
- 9回 開放経済と国民所得（1）
- 10回 開放経済と国民所得（2）
- 11回 開放経済のマクロ経済政策（1）- マンデル＝フレミング・モデル -
- 12回 開放経済のマクロ経済政策（2）- 固定相場制の財政・金融政策 -
- 13回 開放経済のマクロ経済政策（3）- 変動相場制の財政・金融政策 -
- 14回 国際資本市場と金融のグローバル化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題 20~30% 期末試験 70~80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識を特に前提としませんが、マクロ経済学の初歩的知識を事前に習得していると理解が一層容易になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済学をミクロとマクロの両面で一通り概観するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、為替レート、マンデル＝フレミング・モデル、国際資本市場

地域経済I【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地域経済理解に必要な基礎的専門知識を習得する。
- ② 地域経済に関わる諸問題が、経済理論でどのように捉えられるのかを理解する。
- ③ 自らの生活が、現実の地域経済の中にあることを再確認する。
- ④ 今後の地域経済の展望について、自らの考えを持つ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造と地域経済【経済地理学】【地域政策】
- 4回 地域構造の高度化【産業構造】
- 5回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 6回 工業化の進展②【高加工度化】
- 7回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 8回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 9回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 10回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 11回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 12回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 13回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域経済I 【夜】

キーワード /Keywords

地域経済II 【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
本講義では、「人口動態」と「情報化」という視点から地域経済の変化について学び、今後について見通す。

1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 地域経済理解を深めるために必要な専門知識を習得する。
- ② 習得した知識を用い、現実の地域経済の諸問題について対応策を論ずることができるようになる。
- ③ 主体性を持って、自らの所属する地域社会の抱える諸課題を自らのものとする。
- ④ 以後の社会実践の中で、習得した知識をより深める意欲を持つ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
藻谷浩介『デフレの正体』角川oneテーマ21、2010年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今何が変わっているのか(講義の概要)
- 2回 経済発展と人口【地人口動態】
- 3回 戦後日本の人口構成の変化【生産年齢人口】
- 4回 デフレの正体と地域経済【高齢化社会】
- 5回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 6回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 7回 技術革新と経済発展【技術論】
- 8回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 9回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 10回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 11回 労働市場の変容【格差社会】
- 12回 企業の変容【多数立地企業】
- 13回 CNと都市【産業集積】
- 14回 地域経済の行方
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱うとともに、国際法上の国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂，2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書・参考文献は、初回講義時に、また適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス，国際法の法源

第I部「条約の締結，留保，国内実施，履行確保 - 女子差別撤廃条約を題材に」

第2回 女子差別撤廃条約が結ばれるまで

第3回 女子差別撤廃条約の条約上の義務の履行

第4回 女子差別撤廃条約委員会による締約国の履行状況の監視

第II部「主権国家，平等権，不干渉義務」

第5回 国際法上の国家とは

第6回 国家は法的に平等って言うけれど・・・

第7回 外国は他国の国内問題にどこまで関与できるのか

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「領域と国際法」

第9回 領域制度

第10回 日本と領土問題

第11回 領域国による海・空の実効的支配

第IV部「国際社会における秩序の維持，法の支配の確立への挑戦」

第12回 戦争の違法化と平和的解決の義務化の流れ

第13回 国際司法裁判所(ICJ)と法の支配

第14回 国際刑事裁判所(ICC)と法の支配

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題および学期末試験で評価します。
課題...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

国際法I【夜】

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【紛争解決】【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】

国際法II【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
地球規模の課題とされる「安全保障、核兵器、軍縮・軍備管理」「人権、人道」「開発」「環境」「貿易」などの国際問題をとりあげ、その問題解決のために「国家」「国際機構」「個人」がどのように国際的に協力・協働してきているのかについて、「国益」「共通利益」「国際社会の公益」という3つの異なるレベルの視点に留意しながら、考察していきます。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「安全保障、核兵器、軍縮・軍備管理」

第2回 国連の集団安全保障体制とその実効性

第3回 核兵器と国際法

第4回 通常兵器

第II部「人権・人道」

第5回 人権の普遍性と国籍 - 外国人との共生を考える

第6回 難民の国際的保護

第7回 国際人道法

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「開発」

第9回 開発と国際法

第10回 開発援助と人権

第11回 国連開発計画（UNDP）の人間開発指数（HDI）が提起した問題

第IV部「環境・貿易」

第12回 地球環境を保護する責任 - 共通だが差異のある責任の議論と世代間倫理の観点から

第13回 貿易自由化の推進と国内生産の保護とのほざまで

第14回 環境と貿易 2つの価値の衝突と調整

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

国際法II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際社会における、主権国家の機能・役割や、国際機構の機能・役割、個人（NGO等）の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【地球的規模の課題】 【国際協力】 【国家】 【国際機構】 【個人】 【国益】 【共通利益】 【国際社会の公益】

公共経済学【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 公的部門 (政府、地方自治体、公的企業) の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社 (1998) ○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社 (2005) ○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』(第2版) 東洋経済新報社 (2005) ○
スティグリッツ『公共経済学』(上・下) (第2版) (2003) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習(1)【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習(2)【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

履修上の注意 /Remarks

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学的視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・薮田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R.K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : 環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか?(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか?(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンス】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネツツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
 ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学I【夜】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結び付けて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状(Ⅰ)：世界の余剰資金とアメリカ経済 【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状(Ⅱ)：世界経済の動向と新興経済大国(BRICs) 【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点(Ⅰ)－マクロ経済学の基本的枠組み(基礎概念)－
【総供給・総需要】 【マクロ均衡・不均衡】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点(Ⅱ)－国際マクロ経済の分析枠組み(基礎理論)－
【輸出・輸入】 【輸入超過】 【輸出超過】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点(Ⅲ)－国際マクロ経済の分析枠組み(応用理論)－
【内需・外需】 【経常収支の黒字・赤字】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念(Ⅰ) 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念(Ⅱ) 【経常収支黒字と資本収支赤字】 【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係(Ⅰ) 【経常赤字】 【財政赤字】 【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係(Ⅱ) 【資本の輸出】 【対外投資】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(Ⅰ) 【貯蓄・投資】 【財政収支】 【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(Ⅱ) 【過剰貯蓄】 【資本輸出】 【金融資産】
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高 【円高】
- 第14回 世界経済の不均衡問題 【経常収支の黒字・赤字】 【債権大国：日本・中国】 【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

国際マクロ経済学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する教科書を必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくこと、
この授業がより効果的なものになるでしょう。
* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本 円高 ユーロ

国際マクロ経済学II 【夜】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結び付けて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】【管理通貨制度】【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】【固定レート】【市場レート】
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズム 【ドル買い】【円売り】
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】【為替介入】【外貨取引の規制】【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】【金融政策】【資本移動】
【不胎化介入】【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策効果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

国際マクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

* この授業の教科書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF 体制 円建レート ドル建レート

円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入

不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、貿易立国として発展繁栄して来たが、少子高齢化なのでの影響で国内の需要が伸び悩み、需要を海外に求めざる状況となっている。従って、このようなボーダレス社会に対応できる人材の育成が急務である。この講義では、①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。②日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。③「貿易理論」を偏重せず、貿易を巡る現状を解説し、その対応について各自考え、議論していく。そして④将来の国際貿易のあり方について具体的に考えて行く。また、⑤九州の地域特性を生かした、貿易のあり方についても考える。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易の最新動向を報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平編「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際貿易とは何か、現代の貿易と経済、貿易の基礎知識
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF(国際通貨基金)体制
- 5回 GATT(関税と貿易に関する一般協定)からWTO(世界貿易機関)体制へ
- 6回 FTA(自由貿易協定) / EPA(経済連携協定)を巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き(TPP環太平洋経済連携協定)「
- 12回 日中、日韓、日ASEANの貿易
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(議論参加・発表を含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もってプリントを配布するので、良く読んでおくこと。
講義の項目について、自分でも考える習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

新聞や経済雑誌・インターネットを中心とする貿易に関する情報に常に興味をもち、それらの情報を検証すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際貿易を20数年間担当統括し、10数年の海外駐在と数十ヶ国で貿易交渉をしてきた講師が、当事者としての経験や智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方について当事者意識を持って考え学んで行きましょう。

キーワード /Keywords

互助共生、現場主義

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、貿易立国として発展繁栄して来たが、現在少子高齢化なので影響で国内の需要が伸び悩み、需要を海外に求めざる状況となっている。従って、このようなボーダレス社会に対応できる人財の育成が急務である。この講義では、①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。②日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。③「貿易理論」を偏重せず、貿易を巡る現状を解説し、その対応について各自考え、議論していく。そして④将来の国際貿易のあり方について具体的に考えて行く。また、⑤九州の地域特性を生かした、貿易のあり方についても考える。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易の最新動向を報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平編「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易決済(貿易用語のおさらい)
- 2回 日本の財務・金融政策の現状
- 3回 直接投資の増大と貿易
- 4回 アジアを中心とするFTA、EPAの動き
- 5回 TPP(環太平洋経済連携協定)との関連
- 6回 九州地域とTPP
- 7回 東アジア共同体構想の推移
- 8回 日中韓のFTAの歴史
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 アメリカのアジア回帰(TPPと東アジア共同体)
- 11回 東北アジアの発展とLogistics
- 12回 日本のエネルギー政策と国際貿易
- 13回 TPPの今後と国際貿易に関するトピックス
- 14回 アメリカ、中国、日本の協力と国際貿易の発展
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(議論参加・発表を含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もってプリントを配布するので、良く読んでおくこと。
講義の項目について、自分でも考える習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

新聞や経済雑誌・インターネットを中心とする貿易に関する情報に常に関心を持ち、それらの情報を検証すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際貿易を20数年間担当統括し、10数年の海外駐在と数十ヶ国で貿易交渉をしてきた講師が、当事者としての経験や智恵を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方について当事者意識を持って考え学んで行きましょう。

キーワード /Keywords

互助共生、現場主義

ファイナンス論【夜】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。到達目標は以下のとおり。①現在価値分析を理解して、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式などの金融資産の価値を計算できるようになる、②ポートフォリオ理論におけるリスクとリターンの概念を理解して計算ができるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 講義に関連する日本経済新聞の記事
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券【単利】【複利】
- 6回 株式【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 ポートフォリオ理論【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM(資本資産評価モデル)【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM(資本資産評価モデル)【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業に毎回出席して、内容を100%理解するように努めてください。
授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】 内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】 【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

乳児期から老年期までの各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①人間の発達について理解し、基礎的な専門知識を身につける。
- ②人間関係や発達に関する諸課題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ③人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児期①【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 乳児期②【発達のメカニズム】
- 第4回 乳児期③【人との関係のはじまり】
- 第5回 幼児期①【知能・認知の発達】
- 第6回 幼児期②【表象能力、心の理論】
- 第7回 幼児期③【自己の育ちと他者との関係】
- 第8回 児童期①【思考の深まり】
- 第9回 児童期②【友人とのかがりわりと社会性の発達】
- 第10回 青年期①【アイデンティティの形成】
- 第11回 青年期②【人間関係、青年期の問題行動】
- 第12回 成人期【家族形成、成熟】
- 第13回 老年期【人生の振り返り】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原理解 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育、学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案について
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本的には教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】 【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】 【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】 【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】 【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】 【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】 【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】 【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】 【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】 【学習活動】 【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】 【説明】 【指示】 【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】 【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】 【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
8回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学/高校:学習指導案)	【学習指導案】 【導入】
13回 模擬授業②(中学/高校:授業構成)	【授業構成】 【目標】
14回 模擬授業③(中学/高校:授業展開)	【授業展開】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学/高校:指導技術)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【夜】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介
- 14回 被虐待児に対する理解と援助の課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

在学中に学んだ教職に関する知識と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容

教員としての使命感・責任感、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力に関する内容について、実際の教育場面を想定した課題を取り扱う。また、その際には、模擬授業などにおいて、中・高の現職教員の参加、協力も得ながら、授業を実施する。

授業形態

講義、グループ討論、プレゼンテーションなどを組み合わせて実施する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 第2回 これからの教師に求められる資質とは
- 第3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 第4回 教員に求められる対人関係能力について
- 第5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 第6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の作成
- 第7回 保護者との信頼関係づくりの課題
- 第8回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 第9回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第10回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第11回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第12回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 第13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 第14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育を中心に)
- 第15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況 50%、期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲
- 4回子どもの「学力」(2)：知識・理解
- 5回子どもの「学力」(3)：思考・判断
- 6回子どもの「学力」(4)：表現・技能
- 7回教育測定・評価(1)
- 8回教育測定・評価(2)
- 9回教師と授業づくり(1)
- 10回教師と授業づくり(2)
- 11回学習環境と教育方法(1)
- 12回学習環境と教育方法(2)
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
(ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回講義中に情報提供する参考書を読んでもみると、理解がより深まると思われる。
(可能な限り、図書館利用可能な書籍を提示する)
自らの教授学習経験と重ね合わせながら、「自分だったらどうするだろうか」「どうしてほしいだろうか」という当事者意識を持って、積極的に受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育法規に関わる基礎的な知識を習得し、教育法規における諸課題について学ぶ。

目標

- ①教育法規に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育法規をめぐる課題について整理し、具体的な対応策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% 最終課題(試験) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords